

兵庫籠球

HYOGO BASKETBALL INFORMATION

No.173



第77回国民体育大会バスケットボール競技会
いちご一会とちぎ国体
第3位の少年男子



Contents

P.2

寄稿文 「0から頂点を極めた『奇跡』への『軌跡』」

P.11

第74回 兵庫県高等学校新人バスケットボール選抜優勝大会

P.18

第66回 兵庫県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
令和4年度 兵庫県高等学校バスケットボール大会

P.22

MOVE with US CLINIC in HYOGO 2022

P.22

第65回 兵庫県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
令和3年度 兵庫県高等学校バスケットボール大会

P.24

第69回 近畿高等学校バスケットボール大会

P.28

第5回 全日本社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会
兵庫県予選

P.30

令和4年度 第66回 兵庫県中学校総合体育大会
第74回 兵庫県中学校バスケットボール競技大会

P.32

令和4年度 全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会

P.33

皇后杯 第31回 日本女子車いすバスケットボール選手権大会

P.36

第77回 国民体育大会近畿ブロック大会バスケットボール競技

P.40

第77回 兵庫県総合バスケットボール選手権大会 兼
第98回 天皇杯・皇后杯全日本バスケットボール選手権大会兵庫県代表決定戦

P.44

第5回 全日本社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会
近畿ブロック予選

P.46

令和4年度 全国高等学校バスケットボール選手権大会兵庫県予選
第76回 兵庫県民体育大会バスケットボール競技

P.48

Jr.ウィンターカップ2022年度
第3回 全国U15バスケットボール選手権大会兵庫県予選

P.50

第5回 全日本社会人バスケットボール選手権大会

P.52

第76回 兵庫県民バスケットボール大会（一般の部）

P.55

第5回 全日本社会人バスケットボール選手権大会 近畿ブロック予選

P.59

第75回 全国高等学校バスケットボール選手権大会

P.62

第53回 兵庫県ミニバスケットボール選手権大会（中尾杯）

P.64

令和4年度 兵庫県中学校バスケットボール新人大会

スポーツくじ



0 から頂点を極めた『奇跡』への『軌跡』

～素人監督が高校女子バスケットボール部の創設から

全国の頂点へ駆け上るまでの苦闘、挫折、栄光の指導実践の軌跡（3）～

元夙川学院高校バスケットボール部監督 松本和郎 【(一財)兵庫県バスケットボール協会参与】

<前号（172号）までのあらすじ>

個人がそれぞれ携帯電話を持っている現代では、想像しにくい『電報』を使うことで、初めての練習試合が成功することから始まり、初めのうちは個性豊かな生徒から様々な勇気やアイデアをもらっている時代から、指導者としての松本和郎の個性が強まり、周囲を取り巻く指導者間のネットワークや教え子だった生徒が、立派な社会人となり今度はOGとして後押ししてくれるようになった。いろいろなことが重なり合って、昭和39年には、兵庫県で宿敵『親和』を破って2位に入り、静岡インターハイに出場することになった。

14. バスケットボール部の一大転機、「学生コーチ」就任

人生とか、運命と言われるものは、その当事者の全く関知しないところで、不思議な計画やことの運びが準備されているものです。昭和33年度の2学期が始まり、9月のある日の放課後、練習をしていた屋外コートに、部員でない一人の3年生が訪ねて来ました。彼女は、その昭和33年の生徒会長を務める生徒でした。その時点では、私には彼女の訪問の意味が全く理解できていません。恐る恐る用件を尋ねてみると、彼女の口から意外な言葉が出てきました。

「先生、バスケットボールのコーチは求めておられますか？」とのこと。私は、「それはどういう事なのか。」と聞き返しました。彼女が言うには、「実は私の兄は、今関西学院大学3年生なのです。高校時代には、バスケットボールをしていました。兄に、夙川学院高校にバスケットボール部ができたことを話すと、『もしよければ、指導の手伝いをしてもよい。』と言っています。いかがですか。」とのことでした。

私にすれば、「降って湧いた天の恵み」、「渡りに船の助け舟」の誠に有り難い予期せぬ事態が、今、目の前に展開し出しました。これを「二つ返事」というのだと思いますが、私は即座に「是非、お願いしたい。」と返答した。後に、その話の流れを詳しく尋ねました。彼女の家は、数年前に岡山から関西へ転居してきたそうです。岡山では、お兄さん菰口峯明さんは、「金光高校」に在学し、バスケットボール部に所属して活躍をしていたそうですが、こちらでは私学で有名な進学校の甲陽学院高校に転校して、現在は関西学院大学に進学していましたが、バスケットボール部には所属していないそうです。家で、妹から夙川の新バスケットボール部のことを話すと、兄が指導者を引き受けてもよいと言っているので、聞きに来ましたとのことでした。早速、お兄さんとお会いする約束をし、後日、来校していただき、コーチをお願いする運びとなりました。この流れだけでも考えてみると、この生徒の転居、その兄がバスケットボール経験者で、そして兄妹の会話に母校の新生バスケットボール部の話題、好意的に兄が指導者のボランティアを申し出て、この妹と私との接点、というように私の知らない世界で、多くの方々の人

生の流れと偶然と好意が展開していることが分かります。人生での出会いを取るのか、拒否するのか流してしまうのかで、その先行きは大きく異なってきます。これが「人生は阿弥陀籤」です。しかし、問題は、その大切な「出逢い」を敏感に感ずる感性と、取り込む判断力や決断のタイミング、勇気が人生を豊かにも、平凡にも、転換して行くものであると思います。

早速、9月より時間の許す範囲で、学生コーチが熱心に、部員たちにバスケットボールの初歩から、手取り足取り、厳しく熱心に指導をしていただきました。それは同時に、顧問松本和郎の「学生コーチ塾」への入門でもありました。私は、未経験の部員と同じレベルで生まれて初めての部活動に、25歳のロートルの新人部員が、年下の学生コーチに怒鳴られて、しごかれて、脚指に血豆ができ、それが潰れて血がシューズに滲んでくるのを耐えて、必死になって部員とともに頑張り続けました。それから彼が大学を卒業するまで、昭和33、34年の2年間に、バスケットボールの基本を徹底的に厳しく叩き込んでもらいました。「船頭多くして、船、山に登る」の諺がありますが、若いコーチを迎えるまでのバスケットボール部の状態は、「船頭無能にして、船、行く先定かならず」のようでした。生徒の純な勢いと、無責任にも引き受けた教師の若さにより、船出はしたけれど、船頭が居ないので、遠い目的の港に辿り着けるのか、見通しが全く立たない先行き不透明な不安定な航行が始まったばかりの状態でした。出港してから数か月、小学校の「運動会の玉入れ」競争程度であったバスケットボールとも言えないレベルの部活動に、若い指導者のパワーと情熱で、基礎練習の積み重ねからやり直し、少しずつバスケットボールらしくなってくると同時に、勝利への執念の強さが、芽生えてきました。

その後、昭和35年～37年秋まで、学生コーチ菰口さんの後輩の大西信久さん（甲陽高校卒、関学大バスケットボール部トレーナー）が、後を引き継いで下さり、私が指導者として自立する昭和37年11月まで、この二人の大学生に「夙川学院高校バスケットボール部」の「0からの基礎を形成」して頂きました。

また、後ほどの箇所で、申しあげますが、私の長女出産が難産で、非常に苦しい時に、菰口峯明さんの先輩、逸見清則氏が、岡山から駆けつけて「合宿」のご指導を頂く繋がりも出来て行く流れ等、多くの方々にその後の「夙川学院高校バスケットボール部」を育てて頂く事となります。その流れは、後述いたします。

15. 授業前、生徒と「早朝ランニング」、その前に、「偏食矯正」

バスケットボールの知識が皆無の私は、技術指導が全くできませんので、その前にできることは、まず「体力・走力の強化」と考えました。それは「走り込み」を通してですが、その前に基礎体力を整備することが先決であると考えました。具体的には、「偏食」の矯正です。偏食は、摂取栄養のバランスを崩し、不健康にな

る以外に意味のない曲者です。人格形成期の若者にとって、「嫌いな、人とものは、避ければ解決する」と言ういびつな好き嫌いが、激しい性格を形成し、大きな性格的弊害をもたらします。

そのような観点から、毎年実施する春の入学前の「新入生歓迎合宿」では、「偏食調査」から始めました。マネージャーは、新入生の嫌いな食材で食事を作り、新入生の席は上級生と対面で座り、新入生が完食するまで食事は終わらないことから始め、体力強化の走り込みの前に、「食生活改善」だけでなく、昼食の時間には、部室に集まり、一緒に弁当を食べるだけでなく、「友人同志で弁当を交換して」食べました。好きなおかずを毎日食べるのではなく、友人のお母さんが作った一味違う弁当を食べることにより、栄養のバランスを保つとともに、友達の母親との心の交流も図れるメリットを含んでいました。

ここで、この場をお借りして、甲陽学院中学校・高等学校バスケットボール部顧問の岡隆章先生の著書『受験必勝の健康法―体力が合格を左右する―』（神戸新聞総合出版センター発行）に、私に関する事を取り上げてもらった部分がありますので、引用したいと思います。169ページ『第7章 受験生のメンタルトレーニング』より「どこが違うか」に目を向ける。

高校総体（インターハイ）でも入賞多数の夙川学院高校バスケットボール部元監督と話す機会がありました。その先生（筆者のことです）も75歳になり（筆者は現在90歳です。この書は、それから13年目の出版）、体のあちらこちらに、メスが入っています。酒を飲みながら健康談議に花が咲きました。その中での話です。体育教師でもなくバスケットボールが専門でもありません。初めて顧問を任されたときにバスケットボールは何人でプレーするのかも知らなかったそうです。そんな先生が、全国大会常連になっていく過程で大変な苦労をされたことと思います。お話の中で、食に対する目のつけどころにまず感心させられました。新人歓迎合宿において、先輩たちは、新人に対して「嫌いな食べ物」をチェックします。「嫌いなもの」を全て残さず食べることができるか、そこをチェックするようです。本来は、親がすることなのでしょうが、チームのためプレーに差し支えないように先輩たちがするわけです。次の段階では日頃の弁当を交換させます。コンビニもまだ普及していない、弁当が当たり前だった時代です。弁当を交換することで母親が子供の「好きなものしか入れない」弁当からも、「偏食癖」をなくすわけです。ある時には、ニンニクが身体に良いのではないかと考え、何冊も本を読んで研究したそうです。ヨーロッパでコレラが流行した時にコレラにかからなかった強盗団が、洞窟でニンニクを食べていたことを知り、女子選手たちにもニンニクを食べさせたそうです。大会で全国を飛び回っても。「ニンニクを食べています」とにつっこり笑って話してくれました。

日本代表（高校代表）の監督として、タイで行われたアジア大会に参加したとき、なぜ中国、韓国が強いのか、宗教の差なのか同じモンゴロイドのはずなのになぜ競技力の差があるのかと考えたそうです。同じホテルに宿泊した韓国チームは、ホテルの飲料水をそのまま平気で飲みますが、当然、日本人がそんなことをすれば、直ちに下痢や発熱で試合どころではありません。電熱器やヤカンを買って求め、監督室で烏龍茶を沸かし飲ませたそうです。結局、免疫力の差があるわけです。

スポーツ選手の栄養管理は今では珍しくありませんが、昭和の時代にお金をかけずに素晴らしいアイデアで栄養管理をされていたことに感銘を受けました。

16. 全国の檜舞台に登場、第1期黄金期（昭和38年～43年） 「県優勝へ、3年計画」初年度の始動（昭和38年～）。

前述の通り、創部6年目にして、本気で県大会優勝を目標にし、意識と能力を兼ね備えた部員たちが入学してきました。

その前に、報告すべき快挙があります。それは、高校チームより一足先に、昭和37年、夙川学院中学校チームが、阪神地区で優勝し、県大会で3位に入賞する大手柄を挙げました。しかも、部員は中学3年生4人、2年生1人の5人だけのチームです。ディフェンスは終始、「2－1－2ゾーン」のみ、私の27年間の監督歴の中で、ゾーンディフェンスで戦ったのは、この大会が、唯一無二の経験です。阪神地区大会で、尼崎市の日新中学校に勝ち、県大会では3位となりました。中学校県大会1位鷹匠中学校、2位日新中学校、3位夙川中学校の各チームから、2名ずつの選手を預かる流れとなりました。

ここからが、夙川学院高校バスケットボール部の黎明期です。しかし、この選手たちは、身長が最高で1 m62 c m止まりの小兵の集団でした。ここから、「オールコートマンツーマンディフェンス」の夙川学院高校バスケットボールの始まりです。この学年の部員たちは、バスケットボールに対する情熱、勝負に対する執念は強靱な根性を備え、それは、生徒だけでなく、親御さんの皆さんも、筋金入りの皆様でした。その姿勢の一例を申し上げるなら、後に3年生になって、主将を務めあげた選手の父親から娘の入学に際し、いただいた一通の手紙に、その総ての思いが記されていました。その手紙には、

「この度、娘を夙川学院高校バスケットボール部に預けます。娘を預けるからには、『夙川学院高校と言えば、バスケットボール、バスケットボールと言えば、夙川学院高校』と呼ばれるチームに育ててください。その訓練の途上で、たとえ娘の脚の骨が1本、2本折れたとしても、それを厭いません。よろしく願いいたします。」この手紙の主の娘さんが、県初優勝の学年の主将を務める縁を作りました。これは強烈な内容です。この時点で、私の実績は中学・高校阪神地区初優勝が最高の成績でした。私にとっては、この上もない有り難いサポートであり、百万の援軍を得た心強さで、大きな励みでありました。しかし、同時に経験したことのない目に見えない強敵が群雄割拠している未知の世界へ、一步を踏み出し、3年後には勝ち切っている実力を確かなものにするという計り知れないプレッシャーでもありました。

しかも、私個人の背景は、話してきました通り、長女が大きなハンディキャップを背負って、歩み始めなければならないという先行き全く見通しの立たない過酷な状態でした。今思うと、人生90年の途上で、一番厳しくもあり、充実していた「時期（とき）」でありました。その苦悩は、徐々に述べて行きたい思います。

17. 「体力強化はニンニク常食」から

以上のごとく、体力強化は、「食生活改善」から始めた「ニンニク常食」を取り上げてから、思わぬクレームが発生しました。ある日、部員から次のような訴えがありました。「先生、試合をしている相手チームから「夙川と試合すると、臭いから嫌だ」と言われるのです。」それに対し私は、問いかけました。「臭いので嫌われるのを避けるために、ニンニクの常食を止めて、弱者に留まるのか、嫌われても勝たたいのか、どちらを選ぶのか?」、すると部員から即答で「勝たたいです!」と返事が返ってきました。これで一つの問題は解決しましたが、もう一つの大きな問題、ゲーム中のタイムア

ウト時に大きな息を弾ませた選手に囲まれている、一番の被害者である監督は、未解決のまま、チームは成長して行きました。

18. 脚力強化の裏役は『豚足』

クラブ構成生徒が、多国籍であることだから、出来る、安上がり、栄養材の活用術。合宿中の食材の一つに、神戸南京町で、安い『豚足（1本数十円）』を多量購入し、ガスで毛を焼き、きれいに洗ってから、大鍋で茹で、柔らかくなった足の肉をほじくり、味噌をつけて頂く。次に、その茹で汁でラーメン、カレーを作って、二の膳とする。少々グロテスクな様子さえ、辛抱できれば、安価で栄養豊富な体力増強食材です。それにしても、大鍋から豚足がニョキッとほみ出している合宿中の深夜の「家庭科調理教室」は、あまりよい光景ではありません。

19. 「鍋合宿」で掴んだ、『第1回全国高校選抜優勝大会』出場権

昭和46年から開催されたこの大会（現在のウィンターカップの前身）予選は、まず、県内7地区1位が県予選に参加する方式で行われました。ところが、阪神地区予選で「園田高校」に負け、「芦屋女子高校」と三つ巴の決勝戦となりました。それも1週間後の「芦屋女子高校」戦に30点以上勝たなければならない厳しい状況でした。ちょうどその頃、私は、学校から5分程のところに4LDKの分譲マンションを購入し、入居はしていませんでした。そこで英断です。放課後体育館コートの使える日は、シュート練習のみ、それ以外の日は、練習しない、「レギュラー合宿」を実施することにしました。目的は、毎日夕食に、「鍋料理」をたらふく食べ、1に体力回復、2に英気を養うことでした。見事にその効は奏し、阪神地区予選1位、兵庫県予選優勝で初めて全国選抜優勝大会に出場し、ベスト8の成績を収めることができました。この経験も、「食事の大切さ」を証しうの一つです。

20. 食生活の改善が進めば体力・走力強化は日常的「ロードワーク」から

昭和33年から新体育館が落成し、使用許可が出る。昭和35年春まで（私が27歳）、毎朝部員とともに始業1時間前に、ロードワークを頑張りました。

その後、夙川学院高校バスケットボール部には、部員たち曰く、①「甲（かぶ）ラン」、②「浜ラン」、③「墓地ラン」メニューがあります。

①「甲（かぶ）ラン」：学校から北東2kmほどのところに、その姿が美しい甲山（かぶとやま標高309m）が鎮座しています。その頂上まで、往復約5kmをランニングで完走するプログラムです。昭和42年度の主将のMに忘れられない思い出があります。後程、申し上げたく思います。また、昭和51年度チームは、年間50回（殆ど毎週1回のペース）を完遂しました。この学年のチームは、バスケットボール的には弱小でしたが、阪神高体連陸上競技部主催の「武庫川河川敷第1回駅伝大会」に参加し、全区間1位で完全優勝を果たし、インターハイ（長野大会）では、8位入賞を収めました。

②「浜ラン」：今度は、学校から南に下るコースです。学校から約4km南に下ると、香櫨園の浜辺があります。だらだらした練習の雰囲気になった時は、監督から「全員浜ラン！」の声が掛かると、部員全員「行きは、好いよい下り坂、帰りは、辛い登り坂」のコース往復約8kmを電柱の間隔毎に、ジョギングとスピードランを繰り返し、両手に走った証の浜の砂を握って、帰って来なければなりません。

③「墓地ラン」：学校の東側には、阪急甲陽線の線路を挟んで、広大な西宮市の「満池谷公園墓地」があります。前記のランニングコースは、それなりに難易度の高いよいコースですが、特に「浜ラン」は、走る路面が完全にアスファルトです。これは、アスリートにとっては、肉体的に望ましい条件とはいえません。しかし、この「墓地ラン」コースは、完全に土のコースで、適度な起伏があり、少々怖い心地を除けば、快適で安全なコースです。その墓地の中を、1周1kmのコースを設定し、それを10周、最後に学校周辺を約3km、合計13kmを走りました。昭和43年度インターハイ第1シード、準優勝のチームは、大会直前まで日曜・休日の午前は「墓地ラン」、昼食後3時まで休息、または自習、3時から19時頃まで体育館練習のスケジュールで、頑張りました。

夙川学院高校では、運動部が多くあったため、私の27年間の活動中も毎週月・木は体育館の使用ができませんでした。

それをマイナス条件と考えずに、「逆転の発想」をしました。週の初めの月曜日は体の休息を兼ねて、「ミーティングング日」に、木曜日は「ロードワーク日」が割り当てられたと考えて、頑張りました。

21. チーム強化は格上チームへの武者修行から

選手たちの素晴らしい努力により、創部から8年後の昭和40年度は、兵庫県大会初優勝（選抜、新人を含めて県大会3大会で全て優勝）、インターハイ連続出場、ベスト16進出、国体には単独チームとして兵庫県代表で出場し初出場で準優勝、長野県招待大会優勝、近畿大会優勝。全日本総合選手権大会に初出場という見事な成績を挙げることが出来ました。強いチームに練習試合へ遠征するのは、その道中が、効果的な訓練となります。その内容については、「後半の部」で詳細に記しましょう。

ただ、道路を走るだけでは、強いチームは育ちません。それは、勇気を持って、格上チームへの練習試合の「武者修行企画」です。昭和40年代の初期の時代には、多くの武者修行を試みました。

具体的には、岡山県立総社高校、就実高校、京都府立山城高校、新潟県立高田北城高（昭和40年インターハイ優勝校）、愛知県安城高校（22回国体少年女子優勝）、東京教育大学（現在の筑波大）、日体大、ユニチカ（昭和40年～60年の20年間）、三菱電機名古屋、日立戸塚、シャンソン、東レ滋賀・名古屋などなど、その他多くの大学や実業団チームに、また高校・中学男子チームにも練習試合を度々お世話頂きました。感謝です。

昭和43年度のチームは、参加した大会、西宮市内大会、阪神大会、県大会、近畿大会、全国大会の全てを決勝戦まで戦いました。これらの公式戦と練習試合を合計すると、年間200試合以上をこなしました。思えば、「電報での初の練習試合」から10年、感慨深いものがあります。お相手頂いた全てのチームに対し感謝しかありません。

22. 忘れられない「後光」の輝き

京都府立「山城高校」への挑戦。昭和38年秋、「山城高校」へ勇気を持って武者修行へ伺いました。当時の山城高校は、後に、大阪体育大学の教授になられた細川盤先生が率いるチームで、近畿では強豪でした。この試合の申し込みだけでも、恥知らずの蛮勇ですが、これが弱小夙川の姿勢です。

当日は、阪急電鉄大阪梅田駅に集合しました。全員が集合し、京都へ緊張感とともに出発です。その時期は、夙川にとって『県優勝3年計画』が始動したばかりで、ベストスタート5が固定していな

い、試行錯誤の時期でした。バスケットボールの神様は、真剣にバスケットボールに取り組む者に、不思議な指示を下さるものです。当日、緊張感のうちに、ウォーミングアップを始めましたが、一人輝いている選手が、気になりました。これを「後光が射している」というのでしょうか。この選手は、前述した入学時に父親から「手紙」をもらっていた選手です。後に40年度の主将になり、県・近畿初優勝、インターハイ初出場、国体初出場で準優勝の輝かしい成績を挙げたK・Mです。その将来の栄光を知る由もない私でしたが、その「後光」が、私にその日のゲームのスタートメンバーに、K・Mを選ばせました。結果は、大正解でした。彼女は、何か吹っ切れたように大活躍をしました。その日以来、K・Mはレギュラーの座を確保し、前述の通りの活躍をするチームの大黒柱に成長していきます。その時の「後光」には、ちゃんと訳があったことが、後に明らかになります。実は、この遠征が終わってから、分かったことなのですが、その試合当日、彼女は、梅田駅集合の何時間か前に、自宅の阪急六甲駅から、一人で密かに学校へ行き、個人練習に汗を流し、「今日、もし試合に出る機会が与えられたら、同じコート上の誰にも負けない気持ちを持って、臨むことができると、心に決めて、梅田駅に行きました。」という告白を聞き、私は「後光」の輝きの根拠を知りました。

これが、バスケットボールの神様の「お告げ」というか、「阿吽の呼吸」と呼ぶのか、非常に大切なチーム創りの秘訣の一駒だと思います。彼女は、70歳を過ぎた今でも、神戸のクラブチームで選手とし頑張っているようです。驚嘆以外に言葉がありません。

23. 「勝利の道への十カ条」

夙川学院高校では、勝負の試合の一ヶ月前から部員全員が、就寝前には、この「十カ条」を反復読み返し、自己暗示を徹底し、勝負の時を迎えて戦いました。

「勝利への道は茨に覆われているけれど、だからなおさらやり通さなければならぬ。その道を完走するための条件は。」

- 第一条 「勝利に対する執念に燃えよ」全員が「勝つ!」という執念に燃えることが最大の要件である。気迫あるのみ！
- 第二条 「Teamworkによる勝利」。「協力は強力なり」の言葉通り、「一体感」をもって、全体が一丸となって大きな仕事をやり抜こう。「我々の仕事は苦しいが、やってやれない事はない。」
- 第三条 「機先を制する者は、勝利を制する」。「先手必勝」の言葉通り、受身では、力が倍あっても苦しい戦いになる。我々は相手の気持ちを考え、相手より一歩でも二歩でも先んじて、敵を制する心構えが必要だ。
- 第四条 「勇気ある決断」。大きな仕事をしようとする時、思い切って自己のOne-stepを飛躍さす勇気ある決断がなければ絶対に成功しない。勝利の喜びを夢見て、一つひとつのPlayを、決断を持って挑戦しよう。
- 第五条 「Relaxすることが勝利への近道」。「勝とう、勝とうは、硬くなる」心理的プレッシャーは、自己の実力を充分に発揮することができない。そのために、焦りの状態になって益々ミスプレーが誘発され、悪循環となる。「無心の状態」で、プレーすることがマイペースゲームを展開することとなり、それが勝利への唯一の近道だ。
- 第六条 「Defenseによる勝利」。「防御は、最大の攻撃なり」の鉄則により、徹底的にDefenseで、攻撃する姿勢で頑張

り、走りまくる以外に我々に道は無い。一人ひとりが、Defenseに全てを懸けよう。そうしてチームの苦しい時に、よりDefenseでファイトしよう。

- 第七条 「Ballに対する執着心に燃えよ」。リバウンドと、ルーズボールを制する者が勝利を呼び込む。ボールがキープされていない時の動きを無駄にするな。ルーズボールに対しては、先に動け。遅れた時は、頭からスライディングしてでもルーズボールをものにしろ。シュートは、落ちる確率が高い。リバウンドを取ったチームが勝利をもぎ取る。リバウンドは、「勝利」が落ちて来ると思って絶対に取れ。ルーズボールは、「勝利」転がっていると思って絶対に拾え。
- 第八条 「Goalに対する執念に燃えろ」。ものにしたボールは、どんなにしてでも、ゴールにねじ込んで来い。イージーシュートは、完全にものにしろ。ゴール下のシュート、フリースロー等は、確実に加点しろ。慌てることは、折角のチャンスを失い自滅への道をたどる。
- 第九条 「Foulは命取りだ」。「ミスは、取り返しがつくが、ファウルは、取り返しがつかない」。避けられるファウルは、絶対に避けなければならない。ファウルでないのに、笛を吹かれることもある。また、避けられないファウルが一試合に2つはある。だから、ファウルは前半に2つ（各クォーターに1つ）に抑えろ。しかし、有効なファウルをしなければ、勝利への道は閉ざされる。
- 第十条 「Miss-playは自滅だ」。人間完全無欠は、あり得ない。しかし。ミスプレーを最小限度にくい止める事は、可能だ。ミスをしない努力とともに、ミスプレー（済んだこと）にとらわれずに、次のプレー（前向き、次のこと）に集中し、ミスをカバーするためによりファイトし、より努力しろ。「最低のミスは、絶対に避けろ。」

昭和40年代初頭に、標記の勝負の心得を創り上げ、決戦、勝負へ向かう前には、魂の整理をさせていました。

- 補足1 「Teamの特徴の再確認」。戦いに勝利する前に「敵を知る」ことが大切であるけれども、それ以上に重要なのは、「己を知る」ことである。自チームの欠点、長所を確実に理解し、その上に立って「敵と相対し、欠点を補い、長所を武器に闘うべきである。」
- 補足2 「相手の欠点を攻めよ。」相手の欠点を自チームの長所で、攻撃しろ。そして自チームの欠点は、徹底してカバーしろ。
- 補足3 「マイナスをプラスに転換しろ」。チームにとっても、個人にとっても、順調な時の方が短く、少ないのが人生だ。逆境の時こそよりファイトして闘う姿勢を持ち続けよう。そして、常に「マイナスは、表から見れば、プラスである。（マイナスと、プラスは表裏一体の関係）」であることを頭に入れておけ。

24. 急性心臓疾患を抱えてやり通した昭和41年度副主将E・K
- 3年計画の初優勝よりも難しい連覇を成し遂げました。
- 昭和40年国体初出場で、準優勝を果たした、翌年の昭和41年、県大会、連勝が義務付けられているこのチームには、無言の重圧のムードが漂っていました。
- 当時、夙川学院高校の建設は「竹中工務店」が係っていました。春の合宿中に、竹中工務店の社員の中で、高校・大学時代にバスケットボール経験のある者による「男子クラブチーム」が夙川学院

高校体育館で練習をしていました。その流れから、我がチームと練習試合をすることとなりました。試合は、生徒の善戦ながら、惜敗でした。

そこから、問題の発生です。当時、我がチームの練習の一つに「殺人パス」と呼ばれる特訓がありました。選手は、よく頑張ったけれど、負けたことが許せない監督である私は、「殺人パス！」と一声。

その練習方法は、私が、編み出した特訓の一つで、選手の一人が、体育館の壁を背に立ち、あとの部員は、コの字型にそれを、取り囲み、監督が選手と対峙して、3本に1本ほどの割合でしか、簡単には取れないパスを投げ続け、それを60本クリアするまで続けるハードな特訓です。最初のうちは、私も元気がありますが、非常に厳しい作業になります。その特訓の1番に出てきたのが、副主将のE・Kでした。

なんとか、第一番目の責務を果たし、次の選手の番になり、E・Kは、体育館の片隅で、ぶっ倒れています。激しい息使いが、聞こえてきます。すぐに、救急車を手配し、女性の先生に同乗を願って、搬送されました。2時間余りして、帰って来ました。その報告によりますと、医者が言うには、「心臓弁膜症」の疑いがある。このまま、バスケットボールを続ける事はできないとの診断だったようです。それに対して、E・Kは、「私は健康優良児として生まれ、育ってきました。納得できません。ここで、バスケットボールを、やめるなら死んだ方がましです。」と強い剣幕で喰い下がり、「これから、バスケットボールをしない」条件付きで、帰校が許され帰ってきましたようです。

一つ間違えば、文字通りの「殺人パス」になっていました。当然、翌日母親に連絡し、幼児からの係り付けの医師に、再診断に行くようお願いしました。その結果は、前夜の診断と同じことのようにです。ただし、それに対し、E・Kは、「バスケットボールを止めろというのなら、今ここで自殺する。」と申し立て、医者の方がその勢いに負けて、しぶしぶ帰らしたとのことでした。どうやら、一過性の心臓疾患のようでした。

時は、県大会（インターハイ予選）二か月前です。その後、E・Kの体調を伺いつつ、騙し騙し練習をして行く状態となりました。このE・Kは、夙川中学校から高校の練習に参加し、1年上の学年の上級生とともに訓練して、私との心情が一番通じ合う、E・Kの存在は私にとってもチームにとっても非常に大きな存在です。県大会が近づいてきたある日、E・Kが、私に「先生、今度の大会、不安に思っているでしょう。先生の顔に、書いてありますよ!」と指摘されました。私は、心の底を見透かされた思いで、返事のしようがありませんでした。次の瞬間、E・Kは、「私に任せてください、必ず勝ちます!」と逞しい言葉が返ってきました。あの身体状況での言葉です。実際に、県大会準決勝では、前年優勝校「野田高校」と接戦の末これを下し、決勝戦では、「松陰高校」に勝って連覇を成し遂げました。

これには、マネージャーの影のファインプレーが大きく貢献しました。その頃の、E・Kは運動中に、呼吸が激しくなると、それを収めるのに、心臓を冷やす氷が、必要でした。当時は現在と違って、「クーラーボックス」という便利なものは、存在しません。県大会決勝の会場は、神戸市立中央体育館で行われましたが、マネージャーは、監督の指示以前に、試合前に近隣の喫茶店に飛び込み、事情を説明して、氷の調達をお願いし、ハーフタイムにもらってきて、E・Kの処置をして、戦いを乗り切ることができました。これ

が、夙川学院高校の底力です。

卒業後E・Kは、「全日本実業団9連覇」を達成した、尾崎正敏氏率いる『ユニチカ』に入社し、その中心選手として活躍し、後の1975年の「コロンビアでの世界選手権大会」のスタートメンバーとして、世界3位の栄誉を射止めています。E・Kは、今は心臓病も完治し、三田で、「有機農業」に精を出しています。

25. 巨石「お岩」の物語

昭和40年尼崎の中学校から一人の大柄の生徒E・Iが入学してきました。小兵集団の、夙川にとっては170cm近い、大きな贈り物です。名前から「お岩」とニックネームが付けられ、チームの大黒柱になりました。3年生の石川インターハイでは、個人平均得点35点を上回る大活躍をしましたが、1点差で「大阪薫英高校」に敗れ、3位に終わりました。

国体の国籍規定により、埼玉国体にはエントリーされない、つらい思いを持って、高校を卒業し、先輩の活躍する当時の日本の覇者「ユニチカ」に入社し、「新人王」を射止め、順風満帆に船出したかのように思われましたが、実業団2年生になり、自分より能力の低いと思われる選手が、ナショナルチームのメンバーに選ばれる現実におつかり、高校時代の屈辱の延長の苦悩から、「ユニチカ」を退社し、バスケットボールから身を引く日々を、自宅で過ごしていました。

そんな時のある日、私に、まったく存じない韓国の方から、自宅に電話を頂きました。流暢な日本語で「私は、韓国のバスケットボールに関わっている者ですが、夙川学院高校卒業生E・Iが、「ユニチカ」を辞めて、自宅にいると聞きました。あれだけの選手が、バスケットボールをしないのは、もったいない。韓国でバスケットボールを続けてほしいと思っている。この度、その勧誘のために、今ソウルから東京に着いて、自宅のある尼崎へ行くところである。彼女に大きな影響力を持っている松本さんに、同行を願いたい。お願いします。」との内容でした。

私も、彼女のバスケットボール生命をここで終わらせるのは、もったいないと、かねがね思っていましたので、その趣旨には全く同感ですが、私とこの卒業生の関係を調べ、私の自宅の電話番号まで調べあげて、この電話に驚嘆しながら、彼女の自宅へ向かいました。自宅では、ご両親、本人、韓国の方が、真剣に話合っていました。

そこに私も加わり、私も同意し、バスケットボールを続けることを勧めました。結論は、本人も快諾して、韓国へ帰国して、「第一銀行」でバスケットボールを続けることになりました。

それから、数日後、母校バスケットボール部の後輩たちの見送りを背に受けて、伊丹空港から一人で飛行機に乗り込んで行く姿が、今でも、私の脳裏の奥に刻まれています。彼女にすれば、向かう国は、祖国ではありますが、ハングル語の一言も知らない異国への船出の決断の時だったのです。

その後の活躍は、素晴らしく、すぐに韓国ナショナルチームのメンバーに選ばれ、ある日、韓国のTVで放映されたインタビューでの話です。その当時の韓国バスケットボールの試合展開は遠いところからのシュートを我先に打ち続けるが、当たり前の流れでした。インタビューで、司会者が彼女に「貴女は、何故、自分がシュートするより、他の選手にパスを優先するのですか。」と質問しました。彼女は、「私は、高校時代に、常に他人のことを、先に考えなさいと教えられてきましたので、自分の気持ちの前に、チームメイトの

気持ちを優先して、プレーしています」と答えたそうです。「夙川バスケットボール精神が、韓国バスケットボール界に巨石を投げ大きな波紋を起こしました。

後には、ナショナルチームの主将を務め、昭和56年の世界選手権大会では、4位の成績を収めています。この大会では奇しくも、夙川学院で、1年先輩のK、1年後輩のY（3人とも元ユニチカの同僚）が、「日・韓両チーム」に分かれて世界の檜舞台で、雌雄を分かち合った戦いを交えています。また、この「お岩さん」は、その後、韓国の前大統領朴正熙から個人で、勲章を授与され、サッカーの有名選手と結婚し、韓国では、国中のヒロインとなりました。昭和53年6月には、韓国ソウルで、「夙川学院高校チーム」が彼女の所属していた「銀行のバスケットボール部」の宿舍に、私は、彼女の家にお世話になり、1週間の合宿・遠征試合をさせていただきました。その結果は、3勝3敗の成績でした。

「無給の臨時職員同伴条件」の初の「県外合宿」を思えば、感無量です。この海外遠征が、起爆剤となり、その後の夙川学院高校のインターハイ準優勝、兵庫県として、国体2位、3位入賞、2年連続優勝の成果に繋がっています。

26. 埼玉国体で優勝以上の価値ある表彰状：小兵の主将M・M

昭和40年春神戸の鷹匠中学校より1m50cm台の小兵の生徒が、入部しました。入部初の「甲（かぶ）ラン」に参加したM・Mは、学校から2kmほどの甲山山麓にある古刹「神呪寺」まで辿り着いた時点で、顔面蒼白、息も絶え絶え、立ってもいられない状態となっていました。本隊は、そこから標高300mの頂上まで再出発し、私が休憩所で、Mを介抱のため残り、休息を取りながら、一門一答が始まりました。私：「偏食はあるのか?」、M：「青い野菜が食べられません。」、私：「偏食を直してバスケットボールを続けるのか? このまま偏食を続けるのか?」、M：「はい、バスケットボールを続けたいです。」、私：「それなら、偏食を直そう!」、M：「ハイ!」、その時点でMは、偏食を直さず、退部の選択もありましたが、よい意味での意地っ張りのM・Mは、頑張りました。

M・Mは、3年生では、同学年の前述の怪物E・Iと、プレーヤー二人だけの学年で、主将を努めるまでに成長しました。2年生の冬休み2週間のシュート練習1万本をこなし、腕の筋肉が張って、制服が着られない状態まで頑張りました。昭和42年の石川インターハイ準決勝戦で、「大阪薫英高校」に1点差で敗退3位になるも、その当時の国体規定で、前記インターハイで平均得点33点以上を挙げたE・Iだけでなく、5名のメンバーが、国籍規定で登録不可の状態で、M・Mは、3年生一人で、奇跡を起こします。下級生を励まし、叱咤激励して、「国体近畿ブロック大会」では、インターハイで負けた「大阪薫英高校」に1点差で屈辱を果たし勝ち抜き、NHKの2022年大河ドラマ「青天を衝く」のロケ地、埼玉県深谷市での国体も、決勝戦まで勝ち抜いてきました。地元観客の声援を受け、我が兵庫県チームは全力を尽くしましたが、奮闘虚しく、最後は力尽き兵庫県1年生2人、対する秋田県5人というバスケットボール界の歴史に残る不名誉な第20回国体と同じ成績の準優勝となりました。奇跡の達成感は、満開とはいえず、半開きのフラストレーションのみを残して終わりましたが、まだM・Mの軌跡は続きます。

傷心と疲れた体を宿舍に持ち帰った我々は、夕食を摂っていました。そこへ宿の方が、「先生、面会の方が玄関にお見えです。」と連絡がありました。私にはこの深谷の地での、面会人に、全く心当た

りがありません。怪訝な思いで、玄関に行きますと、中年の男性の方が、佇んでおられました。お話を伺いますと、つぎのような流れが判ってきました。

深谷市では、何十年に1回開かれるかどうか判らない全国規模の国体開催に際し、多人数を収容できる体育館がないので、地元小学生を割当制で観戦させていたそうです。その日の「少年女子（高校女子）の決勝戦観戦」が、「桜ヶ丘小学校5年生」に割り当てられ、訪問している先生のクラスが観戦されたそうです。試合終了後、学校に帰り、生徒に「試合観戦感想作文」を児童に書かせたところ、何と、夙川チームにとっては、終わったはずの奇跡が起きました。即ち、児童全員が申し合わせたように優勝した秋田県チームのことではなく、「負けた兵庫チームの主将M・Mの闘う姿に感動した。」という内容の作文を書いたそうです。そこで、担任の先生は子供の心に感動し、これはMさんに差し上げるべきだと判断し、お持ちしましたとのことでした。私は、全身に鳥肌が立つ思いで、それをいただき、夕食中のM・Mに手渡しました。このドラマは、「親バカの娘自慢話」ではありません。全く利害関係がない、深谷の地の純粋無垢な子供たちが、バスケットボール技能の巧拙、強弱、勝ち負けではなく、形には見えない「心の姿」を感じ、それが一人、二人でなく観戦した子供たち全員が、申し合わせたように、書き残しているところが本当に素晴らしい価値ある「優勝の表彰状」以上の「表彰状」であると思っています。感動の極みです。

M・Mが、高校卒業する時の最後の言葉が「高校3年間の経験があれば、これからの人生、どんなに厳しいものが襲ってきても、乗り切れる自信は、あります。有難うございました。」これは、最高の謝辞であると思っています。M・Mは、卒業後。「シャンソン化粧品」に就職し、創部初期の基礎固めに尽くしました。

想えば、M・Mが1年生の初回、「甲（かぶ）ラン」にぶっ倒れ、偏食を克服し、大黒柱E・Iのいないチームを、3年生一人で引っ張り、「国体」決勝戦まで上り詰めた事実は、奇跡としか言いようのない快挙ですが、それ以上に、この作文の評価は、これぞ「夙川学院高校バスケットボール部」が求めている全国優勝以上の「表彰状」です。

27. 「ダンプ」世界を駆け抜ける

昭和41年、「神戸鷹匠中学校」より先輩に憧れ、3名の生徒が入学してきました。その中の一人（中学時の主将）のS・Yは、ひと際、勝利への執念が強く、負けず嫌いの塊の選手でした。意志力が強く、精力的に「猪突猛進」するその姿から、「ダンプ」のニックネームが付けられました。その時点で、夙川学院はインターハイ3位、国体2位を2度、県・近畿大会3連覇の成績を挙げ、残る目標はインターハイ・国体の優勝しかないという全国に名が通る状態のチームになっていました。しかも、巡り合わせというか、1年上の学年の部員はプレーヤー二人だけでしたので、S・Yは当然2年生からレギュラーとして腕を磨き上げて、活躍していました。2年生の時の「石川インターハイ」準決勝では、1点差で負け、複数の選手が意識を失うほどに、悔し涙に泣き崩れている時、私がある場所を外し、体育館の裏に身を置いた時にダンプも同じように居合わせました。そこで私がダンプに、「来年は、頑張ろう!」と一声を掛けました。そうすると、「先生、違います。連敗は、出来ません。明日、頑張りましょう!」との言葉が返ってきました。その頃は、大会最終日、決勝戦の前座試合に、3位決定戦が行われていました。私は、ハッと心の隅を突かれた思いになり、我を取り返し明日に備える心の準

備ができました。翌日は、次年度の国体開催県、福井県の強化チーム「県立高志高校」との対戦を2ゴール差で逃げ切り、3位の座を確保しました。

私以上の冷静さと、勝利への執念を待ったS・Yに救われた思いでした。

明けて、昭和43年県・近畿と4連覇を遂げ、春に思い切って蛮勇を持って、当時の「東京教育大学」（3年前インターハイ初出場を懸けて戦った親和高校の1年先輩が進学していました。現在の筑波大学）、「日本体育大学」に武者修行を申し込み、午前・午後と両大学を訪ね、夜行列車「銀河」で帰神する強行軍の練習試合に臨みました。

10年前の「電報での練習試合」を思えば、隔世の違いです。「インターハイ県予選」も当然1位で通過し、インターハイ組み合わせも第1シードとなり、益々モチベーションも高まり、大会直前に最後の仕上げの大会1週間前に、合宿に入りました。「運命」の落とし穴は、何処で、仕掛けられているのか？判らないのが凡人です。「夢にも見たことのない全国優勝。」無言の重圧が、見えない処で、監督にも、選手にも、襲い懸かっていたのでしょうか。よい加減の切りのところで、練習を切り上げ、明日に託すれば良かったのでしょうか、「後悔先に立たず」です。選手にケガ人が続出しました。レギュラーの一人は、肋骨にひびが入る重症です。希望と野望に燃えていた集団は、奈落の底へ衝き落されました。

私は、直ちに、練習を取り止め、就寝するように指示をして、気持ちを切り替えるため、単車で、その場を離れ、小一時間ほどして学校に帰って来て、門を潜り中庭に入ると、体育館に電気が点いています。「何故？」と思いながら、体育館2階のテラスへ行き、扉の窓から、中を伺うと、一人の選手が何か大きな声を出しながら、走り続けています。「ダンブ」です。その声は、悲壮感漂う自分を責めている言葉のようでした。「ダンブしっかりしろ！自分が、しっかりしないから、このような状態になった。ダンブしっかりせよ！」自分を責めながら、一人で走り続けていたのです。私は直ちに中に入り、「ダンブ止めろ。お前の責任ではない。もう良いから、寝なさい！」と言いました。すると、彼女の口から次の言葉が出てきました。「いいえ、これは先生に言われて、走っているではありません。私が自ら決めて、やっていることですから、先生の命令には、従えません！」と言ってなお走ろうとします。「お前の気持ちは、判った。もう良い。」と強制的に止め、一緒に、宿舎に帰りました。

ケガは、今すぐに完治しませんが、今まで以上に、勝利への執念の絆が強くなった一瞬でした。

インターハイへ向かう本音は、優勝はしたいが、1回戦が勝てるのだろうか？という複雑な思いで、広島へ向かいました。結果は、1.5mの二本の水柱が、コートに立つのが、唯一の冷房設備という状況の猛暑の中で、高松宮ご夫妻御覧の御前試合の決勝戦で、「名古屋女子商業高校」に5ゴール差で、大魚を逃し、熱く燃えた広島は終わりました。翌年、県予選で3位となり、全国大会に参加できないという厳しい現実が待ち受けていました。

その秋、学校では「体育祭」が例年通り開催されました。「夙川学院高校」の体育祭は、非常にレベルの高いものです。全国高校トップレベルの体育科の学年対抗リレー競争があるかと思えば、全クラス競争の「仮装行列」は圧巻の見ものです。翌日は、休みではなく、3千人余りの全校生徒が登校して、先ず体育館に集合し、昨日の体育祭に対する「校長講評」が述べられ、それから全校生徒で

後片付け、清掃です。その年の校長講評は、非常に高い評価を頂きました。長い校長先生のお話が終わった瞬間、一人の3年生の生徒が壇上に上がってきました。全校生徒・先生方が驚く中、その生徒は、大きなはっきりした口調で、3千人余りの中・高全生徒に向かって「只今、校長先生より、大変有難く嬉しいお言葉を頂きました。感謝です。でも、体育祭は、まだ終わっていません。今からの片付け掃除を完全に仕上げた時に終わります。みんなで最後の締めくくりを頑張りましょう！」と告げました。その生徒は、その年度の「生徒会体育部長」でした。体育祭の生徒の全責任を担っている「ダンブ」でした。その様なしっかり者の「ダンブ」は、卒業後、「ユニチカ」へ進み、1975年の世界大会で3位となり、その他の多くの国際大会で活躍し、最後は、バスケットボールがオリンピックに参加が認められた1976年「モントリオール大会」に、レギュラーとして参加し彼女のバスケットボール人生の有終の美を飾りました。しかし、誠に残念なことに、2013年4月に62歳の若さで胃がんにより、福岡で逝去しました。「神戸新聞」に、訃報記事が掲載されました。

この年の1月に私は、(公財)日本バスケットボール協会から「功労賞」を授与されました。これもダンブを含めた多くの卒業生の功績に対して与えられたものと感謝しています。

昭和60（1985）年6月発行兵庫県バスケットボール協会50周年記念誌『先賢の跫音』から昭和40～43（1965～1968）年分の夙川学院高校関係分の記録を転載します。
【兵庫県高等学校総合体育大会バスケットボール競技・兵庫県バスケットボール選手権大会】

昭和40（1965）年
2回戦 夙川 77－6 西宮東
3回戦 夙川 121－9 甲子園
4回戦 夙川 80－34 市湊川
5回戦 夙川 55－24 市神戸商
決勝リーグ 夙川 45－41 松蔭
夙川 57－31 山手
夙川 55－28 野田

昭和41（1966）年
2回戦 夙川 76－17 明石南
3回戦 夙川 70－17 県芦屋
4回戦 夙川 118－30 常盤
5回戦 夙川 71－29 篠山鳳鳴
準決勝 夙川 51－33 野田
決 勝 夙川 62－33 松蔭
インターハイ出場チーム決定戦
夙川 76－37 親和

昭和42（1967）年
2回戦 夙川 124－7 新宮
3回戦 夙川 82－7 氷上農
4回戦 夙川 62－15 成徳
準々決勝 夙川 56－18 神戸
準決勝 夙川 86－27 市神戸商
決 勝 夙川 56－28 野田

決勝リーグ 夙川 73－27 親和

昭和43（1968）年
2回戦 夙川 91－6 豊岡実
3回戦 夙川 90－26 摩耶
4回戦 夙川 129－26 西宮東
5回戦 夙川 103－25 明石
準決勝 夙川 58－38 親和
決 勝 夙川 79－51 武庫川
インターハイ出場チーム決定戦
夙川 73－37 葺合

【兵庫県高校選抜優勝大会】
昭和40（1965）年
1回戦 夙川 114－10 姫路西
2回戦 夙川 84－16 親和
3回戦 夙川 76－17 明石商
準決勝 夙川 66－32 野田
決 勝 夙川 59－27 武庫川

昭和41（1966）年
2回戦 夙川 52－11 成徳
3回戦 夙川 94－27 市神戸商
4回戦 夙川 58－20 篠山鳳鳴
準決勝 夙川 70－33 親和
決 勝 松蔭 37－34 夙川

昭和42（1967）年
2回戦 夙川 2－0 八鹿
3回戦 夙川 66－27 県神戸商
4回戦 夙川 61－29 篠山鳳鳴
準決勝 夙川 68－45 親和
決 勝 夙川 60－26 野田

昭和43（1968）年
2回戦 夙川 96－17 明石南
3回戦 夙川 115－13 県伊丹
4回戦 夙川 91－29 津名
準決勝 夙川 77－41 武庫川
決 勝 夙川 73－43 葺合

【兵庫県民体育大会バスケットボール競技兼国体兵庫県予選】
昭和40（1965）年
2回戦 夙川 63－23 県西宮
3回戦 夙川 66－18 葺合
準決勝 夙川 75－31 武庫川
決 勝 夙川 52－33 野田

昭和41（1966）年
2回戦 夙川 87－20 洲本
3回戦 夙川 56－26 津名
準決勝 夙川 61－39 親和
決 勝 夙川 51－23 野田

昭和42（1967）年
2回戦 夙川 58－15 明石
3回戦 夙川 55－34 県神戸商
準決勝 夙川 53－21 篠山鳳鳴
決 勝 夙川 43－25 野田

昭和43（1968）年
2回戦 夙川 92－20 湊川女
3回戦 夙川 76－39 明石商
準決勝 夙川 82－31 葺合
決 勝 夙川 65－47 園田

【近畿高校選手権大会】
昭和40（1965）年
1回戦 夙川 66－25 奈良
2回戦 夙川 50－42 樟蔭
準決勝 親和 48－46 夙川

昭和41（1966）年
1回戦 夙川 40－22 武庫川
準決勝 夙川 44－37 親和
3回戦 山城 68－38 夙川

【全国高校選手権大会】
昭和40（1965）年 長崎インターハイ
2回戦 夙川 71－55 武生短附
3回戦 夙川 65－47 静岡精華
4回戦 夙川 49－45 明善高
5回戦 十文字高 53－45 夙川

昭和41（1966）年 秋田インターハイ
1回戦 夙川 46－25 広島市商
2回戦 夙川 71－29 米沢女
3回戦 夙川 80－37 東横学園
4回戦 加茂 47－31 夙川

昭和42（1967）年 石川インターハイ
1回戦 夙川 74－18 土佐女
2回戦 夙川 67－35 防府商
3回戦 夙川 69－45 大分高田
4回戦 夙川 75－26 滝野川
準決勝 薫英 36－35 夙川
3位決定 夙川 44－40 高志

昭和43（1968）年広島インターハイ
1回戦 夙川 81－36 木更津東
2回戦 夙川 92－54 熊本尚綱
3回戦 夙川 77－64 加茂
4回戦 夙川 65－56 鶴鳴女
準決勝 夙川 63－47 松本蟻ヶ崎
決 勝 名古屋商 73－63 夙川

【国民体育大会】
昭和40（1965）年 第20回岐阜国体
（当時、少年種別は単独チームで出場）
2 回戦 鳳川 61－35 徳島西名
3 回戦 鳳川 58－36 熊本尚綱
4 回戦 鳳川 53－24 高岡女
準決勝 鳳川 56－38 清水西
決勝 安城女短附 54－50 鳳川

昭和41（1966）年 第21回大分国体
2 回戦 新居浜 51－32 鳳川

昭和42（1967）年 第22回埼玉国体
1 回戦 鳳川 83－76 東京都
準決勝 鳳川 38－35 川口女
決 勝 大曲 60－40 鳳川

第74回兵庫県高等学校新人バスケットボール選抜優勝大会

豊岡市総合体育館、但馬地区体育館・高等学校・中学校
令和4年3月26日（土）～28日（月）

新型コロナの影響で延期され、3月末にベスト4を決めて終了



《総評》

令和3年度の県高校新人選抜優勝大会は、新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置の影響を受け、昨年度と同様に例年の2月初旬から3月末へと開催時期が延期された。1・2回戦が一日1試合となり、ベスト4を決めるブロック決勝（準々決勝／4回戦）で大会は打ち切りとなった。

大会は豊岡市総合体育館をメイン会場とする但馬地区の各体育館で、令和4年3月26日（土）～28日（月）の3日間で、そして無観客で開催された。

新型コロナウイルス感染の第6派は若年層を中心に流行し、各チームの受けた影響は非常に大きかった。男子シード校の三田松聖をはじめ、男女で5校が棄権を余儀なくされた（途中棄権を含む）。また、男子の神戸科技をはじめ、主力選手が欠場して苦戦を強いられるチームが相次いだ。

男子の報徳、育英は他を圧倒してブロック優勝を決めた。関学はブロック決勝で神戸科技との激戦を制した。西宮北、加古川東、尼崎双星が健闘し、ベスト8入りを果たした。

女子は鳴尾がブロック優勝し、4年半ぶりに県ベスト4に入った。三田松聖、神戸龍谷、市尼崎は粘る相手を振り切り、ブロック優勝を決めた。女子のベスト8はお馴染みの顔ぶれとなった。

新型コロナウイルスの影響が非常に大きいなか、大会運営を支えた大会役員・審判・その他関係者、そして但馬地区を中心とする会場の先生方・生徒たちに感謝を申し上げたい。

今回の大会は、近畿新人大会が中止されたためその予選とはならず、県総体のシードを決めて終了したかたちとなった。その県総体では各チームが新型コロナウイルスの影響を乗り越え、持てる力が十二分に発揮される大会となることを祈る。

男子

ブロック決勝

Aブロック

関学 96 [28－26・18－27] 92 神戸科技
27－20・23－19



写真提供：フォトスタジオ八木

Bブロック

育英 89 [20－19・24－7] 54 西宮北
24－15・21－13

兵庫籠球

第44号
昭和四十四年五月十日印刷
編集人 岡本勉
発行人 岡本勉
印刷所 関西印刷紙業株式会社
発行所 兵庫県バスケットボール協会

葦合二度目の栄冠

近畿高校バスケット 鳳川も二連勝飾る

第十三回近畿高校バスケットボール大会が四月四日から六日まで大阪府立体育館で近畿各地から選抜された男子三十六、女子二十八チーム参加の下に開催された。
男子は、準決勝で強豪、天王寺西を破った葦合が、決勝でも試合掛け引きに一日の長をみせて平安に快勝、二年ぶり二度目の優勝を飾った。
女子は兵庫勢同志の決勝となり、スピード体力にまさった鳳川が松蔭をしりぞけて二連勝した。

【男子】準決勝
葦合 52 (3220) 44 天王寺西 (兵庫) (2321) (大阪)
平 安 65 (3530) 54 上の宮 (京都) (4113) (大阪)
▽決勝
葦合 70 (3139) 60 平 安 (兵庫) (3426) (大阪)
【詳】葦合の作戦勝ち。葦合はすべり出し平安の鋭い突っ込みを手に焼いた感じで、本来のスピードあふれる攻撃がみせられなかったが、10分過ぎに試みたプレス・ディフェン

スが見事に成功、平安のパス・ミス誘発した。そして田村、薬らがショットを決めて、19―20から一気に33―20とリードした。その後はこのリードに余裕を持ち、じつくりボールを回しては磯田がジャンプ・シュート、薬、有永がカット・インと多形に攻めて平安を寄せつけなかった。平安も阪田、藤本がすぐれた個人技を見せたものの、まとまりがなく、それに自由投を一本も決められなかったのが響いた。

【女子】準決勝
松蔭 46 (3116) 33 樟 蔭 (兵庫) (1914) (大阪)
鳳川 49 (2128) 32 精 華 (兵庫) (1616) (京都)
▽決勝
鳳川 45 (2223) 35 松 蔭 (兵庫) (1421) (大阪)
反 自 野 得 (葦合) (平安) 得 野 自 反
2 2 5 9 23 田 村 阪 田 14 7 0 5
4 2 5 12 宮 川 本 原 30 15 0 5
1 4 5 14 薬 辻 口 村 0 0 0 5
4 1 4 9 磯 田 14 7 0 4
2 0 6 12 有 永 0 0 0 0
計 13 12 29 70 計 60 30 0 26

【詳】鳳川が県大会の雪辱をとげた。スタートから思い切った攻撃をみせ、平良、須賀の確実なシュートもあって8分過ぎには16―8と松蔭を引き離した。だが松蔭も県大会の優勝で攻撃力に自信をつけており、楊、西村のシュート力でしぶとく食い下がり、試合をもり上げた。しかし松蔭は後半にはいつも出足悪く、再び鳳川に走られ、しかもゴール下を長身の岩本に押えられて引き離された。練習量、体力にまさった鳳川の順当勝ちだが松蔭のうまいシュートが光った。
（小西彬夫）

松蔭 初優勝
葦合二度目の優勝
本年度頭初を飾る第十八回兵庫県高等学校優勝大会は、三月二十三日から二十六日まで県下七地区の予選を勝抜いた男子四十二チーム、女子三十五チーム参加の下に神戸で開催された。
男子は、順当に葦合が、女子は予想をくつがえして松蔭が鳳川を下して優勝した。

（男子の部）
☆準優勝戦
星 陵 高 56 (2729) 50 滝 川 高 (2624)
葦 合 高 65 (3827) 36 県 智 屋 高 (2214)
☆優勝戦
葦 合 高 60 (3030) 50 星 陵 高 (3119)

「兵庫籠球」44号（昭和41年5月20日発行）の記事
当時から兵庫県関係チームの戦評などを掲載していた。今では当たり前の署名記事で、2010年に亡くなられた第5代兵庫県協会会長の小西彬夫さんが書かれたものです。実は当時、神戸新聞社の記者でもありました。



写真提供：フォトスタジオ八木

Cブロック

村野工 20 [棄 権] 0 加古川東



写真提供：フォトスタジオ八木

Dブロック

報徳 112 [35 - 14・33 - 13
21 - 14・23 - 33] 74 尼崎双星



写真提供：フォトスタジオ八木

●優秀選手

尾原 諒 (関西学院高等部 ③)
上野 颯斗 (育英高等学校 ⑦)
井出上祐樹 (村野工業高等学校 ⑤)
山崎慎之助 (報徳学園高等学校 ④⑦)
桑村 敬斗 (神戸市立科学技術高等学校 ②⑦)
森田 悠太 (兵庫県立西宮北高等学校 ⑤)
大川 湧都 (兵庫県立加古川東高等学校 ④)
石田悠一郎 (尼崎市立尼崎双星高等学校 ⑥)

キャプテンインタビュー

■報徳学園高等学校 ④⑦ 山崎 慎之介 さん

【ブロック優勝を決めた今の気持ちは】

コロナ渦の状況で、ブロック優勝しか決めることができなかったが、全ての試合において100点ゲームで終わることができたというのは、自分たちの強みだと思った。しかし、ディフェンス面で課題が見られたので、改善し、インターハイ、ウインター予選を勝ち切って全国大会に出場したい。

【ブロック決勝の勝負のポイントは】

決して大きくはないチームだが、フィジカルの部分では兵庫県でトップだと思っていて、インサイドの4番・5番の選手が体を張って戦ってくれたことと、シューターの②番溝上恵大と④番小林裕斗が3Pを決めてくれ、それがチームの勢いに繋がった。

【今大会を振り返って】

久しぶりの公式戦だったが、練習試合を積み重ね、試合経験を積んできたので、そこまで緊張はなかったと思う。硬くならず気を緩めることなく、しっかりとプレーできた大会だった。

【キャプテンとして心掛けてきたこと】

僕が中心となってやらなければならない状況の中で、練習の中で雰囲気落とさず、声が出ない時間帯でも、自分たちで集合して話し合い、そういうところで良い雰囲気を作ることができた。常に生徒同士でコミュニケーションを取るというのを心がけていた。

【チームのアピールポイント】

シューターを起点としたオフェンスと、大きくはないが4番・5番のセンターの力強いプレーが僕らのアピールポイント。

【コーチの田中先生へのメッセージ】

練習してきたことが今大会で出せたと思います。しかし、出せなかった部分も必ずあるので、次の大会で改善し、戦っていきたいです。

【チームの課題】

ルーズボールからの失点や、詰めの甘いところがチームの課題

【今後の目標】

近畿大会で優勝することで、全国大会でメインコートに立って、上位を目指したい。

■三田松聖高等学校

⑦ 上野 颯斗 さん



【ブロック優勝を決めた今の気持ちは】

素直にブロック優勝できてうれしいです。

【ブロック決勝戦を振り返って／決勝の勝負のポイントは】

個人的には3ポイントが得意なので、強気でシュートを打ちました。チームとしては、ディフェンスからブレイクが目標でしたので、そこをしっかりと目指して頑張りました。

【今大会を振り返って】

みんな最初は硬い感じがありましたが、プレーを重ねる中で、いいプレーが出るようになり、チーム力も高まっていったと思います。

【キャプテンとして心掛けてきたこと】

チームが苦しい場面で、チームへの声掛けを頑張りました。

【チームの好きなところ（アピールポイント）、コーチの沼波先生へのメッセージ】

ディフェンスからブレイク、だんだんメリハリのあるテキパキしたチームがアピールポイントです。沼波先生からは、人間性の向上や、苦しい場面でも自分たちで声を出し合って乗り切るように指導されています。

【今後の目標】

全国ベスト16を目指し、達成できるように頑張っていきたいと思っています。

■村野工業高等学校

寺本 昇世 さん

【ブロック優勝を決めた今の気持ちは】

チームの力を出し切れず、不完全燃焼で終わって悔しい気持ちがある。今の気持ちを二か月後のインターハイにつなげたい。ブロック決勝は不戦勝という形になってしまったが、加古川東と戦ったという思いがある。

【ブロックの準決勝戦を振り返って】

スタート、控え共に良い内容のゲームではなかった。持ち味のディフェンスからの速攻も、チームオフェンスもまだまだできておらず、先輩達には及ばない。コミュニケーションが足りていなかったところがあるので、改善していきたい。

【今大会を振り返って】

内容が良くなかったなので、できなかったという今の現実を受け止めてインターハイでは力を出し切りたい。

【キャプテンとして心掛けてきたこと】

周りに声を掛け、プレーで背中を見せることが自分にはできると考えている。チームみんなの太陽のような存在になりたいと思って頑張ってきた。周りが暗くなった時、明るく照らせるようなキャプテンでありたい。

【チームの好きなところ（アピールポイント）】

チーム内でまとまり、一体感がある。これは県内でも、全国でも負けていないところだと考えている。藤井ヘッドコーチも大事にしている部分でもある。

【コーチの藤井先生へのメッセージ】

今回の反省を生かし、明後日からの練習を死ぬ気で頑張る。言われてからやる、ではなくて、自分たちで良い練習、良いゲームをしたい。120%頑張る気持ちでいる。

【チームの課題、全国大会など上位大会での目標】

県では2連覇を目指し、全国の強豪と対等に戦えるチームにしたい。

■関西学院高等部

瀬尾 大和 さん



【ブロック優勝を決めた今の気持ちは】

何よりも嬉しいです！！そして1つの目標を達成したので、ほっとしました。

【ブロック決勝戦を振り返って／決勝の勝負のポイントは】

お互いにつかず離れずの状態が続き、4Qまで行きましたが、先生が対策してくれたことを心掛け、必死に頑張りました。コートに立つプレーヤーだけでなく、裏方の仕事をしてくれる仲間がいて、全力でサポートしてくれたから優勝できたと思います。

【今大会を振り返って】

コロナの影響を沢山受けた中での県大会でしたが、チームが一つになれた大会だったと思います。

【キャプテンとして心掛けてきたこと】

不安な姿を見せないこと、そして声をかけることを心掛けています。

【チームの好きなところ（アピールポイント）】

仲が良いところです。そしてお互い切磋琢磨できる仲間です。チームメイトであり、仲間だけれど、お互いのレベルアップのために戦えるチームです。

もっとチーム内での競争をして、レベルアップしていきたいです！

女 子

ブロック決勝

Aブロック

三田松聖 80 [22 - 21・20 - 14] 60 神港学園



写真提供：フォトスタジオ八木

Bブロック

神戸龍谷 74 [19 - 18・10 - 13] 68 神戸星城



写真提供：フォトスタジオ八木

Cブロック

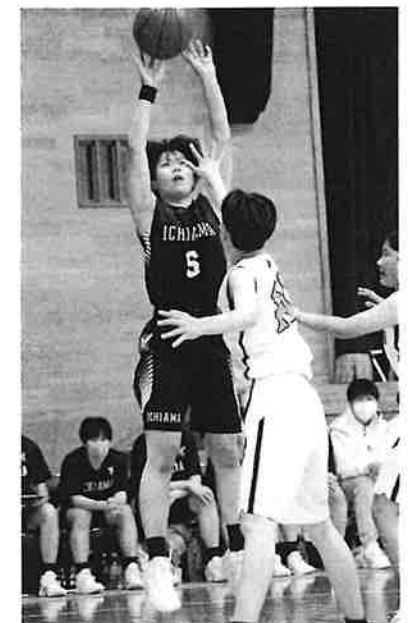
鳴尾 90 [22 - 16・16 - 8] 48 園田



写真提供：フォトスタジオ八木

Dブロック

市尼崎 88 [27 - 9・19 - 22] 76 日ノ本



写真提供：フォトスタジオ八木

●女子優秀選手

- 瀬戸三央奈 (三田松聖高等学校 ③)
- 福家 咲緑 (神戸龍谷高等学校 ③)
- 吉谷 心春 (兵庫県立鳴尾高等学校 ⑩)
- 田中 歩希 (尼崎市立尼崎高等学校 ⑤)
- 叶 瑠華 (神港学園高等学校 ④)
- 近藤 涼風 (神戸星城高等学校 ④)
- 秦 若菜 (園田学園高等学校 ②)
- 坂本 知那 (日ノ本学園高等学校 ④)

第66回兵庫県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
令和4年度兵庫県高等学校バスケットボール大会

男子報徳、決勝の激闘を制して四連覇！（3大会連続※ 3回目）

女子市尼崎、決勝リーグの大混戦を制し優勝！（4大会連続※ 8回目）

（※昨年度は新型コロナウイルスにより代替大会を行い、ベスト4を決めて大会終了）

令和4年5月7日(土)～6月5日(日)

県立総合体育館、グリーンアリーナ神戸、王子スポーツセンター、各高校体育館

《総評》

令和4年度の県総体は、新型コロナウイルスによる影響が落ち着いた頃に、保護者などに観客を限定して開催された。男子は、8シードの西宮北が新人大会をコロナで棄権した三田松聖に初戦で敗れた。姫路工業は3回戦で8シードの加古川東を逆転勝ちで破ったものの、次戦の明石西戦に接戦で敗れ、勢いに乗った明石西は次戦で16シードの柏原を退け、ベスト8入りを果たした。女子は、園田が延長の末に百合を下してベスト8に入った。新人大会の8シードがそのまま残った形となった。

女子の近畿大会決定リーグは、3連勝で神戸星城が切符を獲得し、そして1勝2敗で3チームが並んだ。2敗を喫していた園田が最終日に日ノ本に勝ち、神港学園とともに近畿大会出場権を獲得した。なお、決勝リーグ進出チームも近畿切符を獲得している（男子も同様）。

女子決勝リーグは昨年と同様に大混戦となった。市尼崎は初日に鳴尾に快勝したものの、2日目に神戸龍谷の勢いの前に敗退した。一方の三田松聖は2連勝で最終日を迎えた。その最終日、激しい接戦を制したのは市尼崎だったが（戦評参照）、自力優勝を決める14点差をつけることができなかった。試合進行が遅れている隣のコートで、鳴尾が勝つか神戸龍谷が勝つかで、市尼崎が優勝するか三田松聖が優勝するかが変わるという劇的な展開となった。両チームが見守る中、第4Q残り1分70-70の同点から鳴尾が抜け出し、勝利した。ここでやっと市尼崎がインターハイ切符を獲得した。

男子の近畿大会決定リーグは、神戸科技が3勝、尼崎双星が2勝、三田松聖が1勝して近畿大会の切符を得て、明石西が切符を逃した。

男子決勝リーグは、優れたシュート力とスキルを持つ報徳が3勝して、インターハイ切符を獲得した（戦評参照）。村野工業は初日に報徳に敗れたものの、続く関学、育英に連勝し、準優勝した。関学は育英に1点差で競り勝ち、3位となった。

男子

決勝

報徳 85 [26 - 16・14 - 13
25 - 17・20 - 19] 65 村野工



報徳

村野工

反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則
2	0	0	0	0	森本 虎志	7	4	寺本 昇世	10	1	3	1	3
0	0	0	0	0	高木良太郎	12	5	井手上祐樹	28	1	8	9	3
3	1	4	0	9	星原 甲治	13	6	諸井 瑞帆	20	3	5	1	4
2	0	1	5	17	溝上 恵大	23	7	加古 颯太	0	0	0	0	0
0	1	0	3	10	神成 勁翔	27	8	岸川 颯馬	—	—	—	—	—
3	2	10	0	22	西村陽太郎	34	10	井上 純一	—	—	—	—	—
0	0	0	0	0	内海 鳳太	38	11	藤村 颯人	—	—	—	—	—
0	0	0	0	0	稲井 穂高	42	13	大道 琥哲	5	1	1	0	1
3	0	3	0	6	多田健太郎	44	14	白矢 凜	1	0	0	1	3
0	0	1	5	17	小林 裕斗	46	15	室井 大篤	1	0	0	1	0
2	0	0	0	0	山崎慎之助	47	16	ペリールケンジ	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	小林 準也	50	20	藤井 晃司	0	0	0	0	0
4	0	1	0	2	脇 友一	60	21	門永 航人	—	—	—	—	—
0	0	0	0	0	伊藤 大晃	70	22	青木 波音	0	0	0	0	0
2	0	1	0	2	井藤 匠哉	97	23	井上 蓮	0	0	0	0	0

21 4 21 13 85

65 6 17 13 15

戦評

第1Q、村野工のゾーンディフェンスに対して報徳は㊸小林が3P、㊸西村がゴール下とバランスよく得点を重ねていく。対する村野工は開始1分で㊴寺本がファウル2つで交代しリズムに乗れず、簡単なミスが重なる。報徳は㊸溝上、㊸小林が連続で3Pを決め、残り4分17-6で村野工はタイムアウト。村野工は㊴寺本をコートに戻し、報徳㊸小林にフェイスガードを仕掛けることで報徳のリズムを乱すことに成功し、㊶諸井が3Pや速攻からレイアップで得点を重ね、報徳26-16村野工で第1Qを終了する。

第2Qに入り、報徳は村野工のディフェンスの前にアウトサイドシュートの確率が悪く、㊸多田、㊸西村のゴール下での得点にとどまる。対する村野工もオフェンスミスが重なるが㊶諸井、㊵井手上の得点で残り3分30-23と徐々に点差を詰める。ここから報徳は㊸溝上の3Pや㊸星原のフロッターシュートで得点し、報徳40-29村野工で前半を終了する。

第3Q、村野工は前半のディフェンスを継続するも、報徳は㊸溝上の3P、さらに㊸西村がゴール下で得点を重ね、残り6分51-35で村野工がタイムアウト。その後互いに激しいディフェンスからアップテンポに試合を進め、互いにシュートを放ち合うも得点にはつながらず、残り4分53-37で村野工は後半2回目のタイムアウト。村野工は㊵井手上のドライブからのレイアップやフリースローで点差を53-41とし、ミスの続いた報徳は残り2分にタイムアウト。直後に報徳のオフェンスファウルや村野工㊴寺本の3Pで53-44となるも、報徳は㊸神成の2本続けての3Pや㊸星原のバスケットカウントで勢いに乗り、65-46と点差を広げ第3Qを終える。

第4Q、開始直後に報徳㊸小林が3Pを決めるも、村野工は㊵井手上がジャンプシュートと速攻からレイアップを決め、残り9分、68-50で報徳タイムアウト。報徳は㊸西村がオフェンスリバウンド、ドライブへの合わせとゴール下で活躍し、残り6分73-52で村野工が後半3回目のタイムアウト。村野工はオールコートディフェンスでしかけ、残り5分からはフェイスガードをといてゾーンディフェンスで激しく追い上げを図るも、報徳は冷静にパスからシュートにつなげ85-65で報徳が勝利した。



【最優秀選手】山崎慎之助（報徳㊸）

【優秀選手】高木良太郎（報徳㊸）

溝上 恵大（報徳㊸）

井上祐樹（神戸村野工業㊵）

吉田 陽磨（関西学院㊸）

上野 颯斗（育英㊸）

森田 義隆（明石西㊸）

西村 玲太（三田松聖㊸）

小山 輝音（尼崎双星㊸）

加藤 慶一（神戸科技㊵）



女子

1回戦

市尼崎 66 [22 - 16・17 - 19
11 - 11・16 - 16] 62 三田松聖

市尼崎

三田松聖

反則	自投	②野	③野	得点	No.		No.		得点	③野	②野	自投	反則
2	3	7	0	17	前田	彩花	4	2	野下	愛未	0	0	0
0	0	6	0	12	田中	歩希	5	3	瀬戸	三央奈	14	4	1
—	—	—	—	—	濱田	芽維	6	10	竹内	愛	8	0	4
3	1	1	3	12	沖本	星来	7	13	竹中	凜	2	0	1
1	—	1	2	8	加藤	ひかり	8	16	東	寧音	—	—	—
4	8	3	1	17	橋本	侑樺	9	17	渡部	陽美	—	—	—
—	—	—	—	—	神田	彩萌	10	23	米倉	歌音	8	2	1
0	0	0	0	0	山本	来夢	11	25	馬場	柚樹	21	0	10
—	—	—	—	—	葛目	こころ	12	28	小西	彩央	—	—	—
—	—	—	—	—	杉本	菜奈	13	29	魚住	夏鈴	—	—	—
—	—	—	—	—	魚住	帆香	14	42	渡部	陽愛	—	—	—
—	—	—	—	—	細見	彩花	15	48	岡田	心和	—	—	—
—	—	—	—	—	大野	詩歩	16	52	小林	雛子	0	0	0
0	0	0	0	0	山根	遥夏	18	77	白簗	空知	—	—	—
—	—	—	—	—	河嶋	れのん	22	85	初谷	一葉	9	3	0

10 12 18 6 66

62 9 17 1 16

戦評

第1Q、三田松聖のディフェンスはマンツーマン、市尼崎は1-3-1ゾーンで試合開始。先制したのは三田松聖。㊸米倉のアシストから㊸竹中がゴール下、㊸馬場がスティールからシュートを決め

ると市尼崎も⑤田中がミドルシュートを決め返し、試合が動き出す。三田松聖は素早いパス回しから②米倉、③瀬戸の３Ｐで２－１０として流れを掴むかと思われたが、市尼崎⑦沖本が２本連続の３Ｐや④前田がドライブを決めるなど、１４－１４と同点に追いつく。市尼崎はアウトサイドの寄せを素早くすることで相手シュートのリズムを狂わせ、リバウンドを支配し、オフェンスへの流れを作ると⑧加藤、⑨橋下の３Ｐが決まり、２２－１６と６点リードして１Ｑ終了。

第２Ｑ、序盤から点の取り合いとなる。市尼崎④前田のドライブ、⑤田中がゴール下を決めれば、三田松聖⑩竹内のゴール下、⑤初谷の３本連続３Ｐなどもあり、２９－２９の同点に追いつく。追いつかれた市尼崎だが、⑦沖本の３Ｐ、高さで勝るゴール下を⑤田中が決め切るなど３６－３１と再びリードを広げる。三田松聖は途中出場の⑩竹内がゴール下で奮起し３７－３５と２点差に迫るが、市尼崎④前田が速攻のドライブからファウルをもらったフリースローを２本沈め、３９－３５と４点リードで前半終了。最後のファウルで三田松聖③瀬戸が４つ目のファウルとなってしまう。

第３Ｑ、流れを掴んだのは市尼崎。④前田のレイアップ、⑧加藤のゴール下などで４４－３５と９点差をつけたところで三田松聖はたまらずタイムアウト。落ち着きを取り戻した三田松聖は②馬場のドライブ、③瀬戸の３Ｐなどで４４－４２と追い上げに成功する。しかし個人ファウルが溜まったところを市尼崎に狙われ④前田、⑦沖本が確実にゴール下を決め返し、５０－４６と市尼崎４点リードで勝負は第４Ｑへ委ねられる。

第４Ｑ、立ち上がりは三田松聖②馬場が連続得点し、５０－５０の同点とする。市尼崎も⑨橋本の連続得点、⑤田中のドライブで再び引き難しにかかると、三田松聖②馬場も負けじと連続得点で５６－５４と必死に食らいつく。対する市尼崎はインサイドに意識が高まっている隙をつき⑧加藤の３Ｐ、④前田の速攻で６３－５７とリードを広げる。追いつきたい三田松聖だが、残り３分３秒好調だった②馬場がヘルドボールの際にコートに頭を打ち交代するアクシデントに見舞われる。しかし、オールコートディフェンスに切り替えて何とかこの時間帯を耐え、②米倉のミドル、③瀬戸の３Ｐで残り１分２４秒で６３－６２と１点差に迫る。しかし、その後のディフェンスの仕掛けで三田松聖③瀬戸が５ファウル退場となり追い上げもここまで。最後は市尼崎④前田のレイアップ、⑨橋本がフリースロー決め、市尼崎が６６－６２で勝利した。

- 【最優秀選手】前田 彩花（市尼崎④）
 【優秀選手】橋本 侑樺（市尼崎⑨）
 田中 歩希（市尼崎⑤）
 米倉 歌音（三田松聖②）
 中島 瑞希（鳴尾④）
 高橋 未来（神戸龍谷②）
 坂本 知那（日ノ本④）
 叶 瑠華（神港学園④）
 秦 若菜（園田②）
 島田 柚羽（神戸星城⑨）



◆男子優勝

報徳学園高等学校
ダブルキャプテン



④山崎 慎太助さん



⑫高木 良太郎さん

優勝を決めた今の気持ちは

今年は、どこのチームが勝つか分からない状況の中で全員で勝ち取った勝利でうれしいです。

色々な方々のご協力・ご支援のもとでバスケができて、感謝の気持ちで一杯です。

決勝戦を振り返って／決勝の勝負のポイントは

全員バスケにこだわり、声を出して盛り上げて、気合いを入れてゲームに臨めた事がよかった。

また苦しい展開でも、リバウンド、ルーズボールを頑張り、粘り強く戦えたことが勝利に繋がった。

キャプテンとして心掛けてきたこと

ダブルキャプテンで、色々相談して二人でチームを引っ張ってきました。

練習中は、率先して声出しや声かけをしてチーム一人一人とコミュニケーションをしっかりと取り、チームをまとめていきました。

個性豊かなメンバーでまとめる事に苦労はありますが、一人一人と向き合ってチームが強くなるためにやるべき事を徹底しています。

チームの課題、全国大会などの目標

チームの課題としては、ディフェンスの強化・リバウンドの強化です。

全国大会では、メインコートに立つのが目標です。

チームの好きなところ（アピールポイント）

個性豊かで上下関係にとられる事なく、仲良くできている所です。

常にコミュニケーションが取りやすい環境作りを意識しています。

顧問（コーチ）へのメッセージ

田中先生の求めるバスケットをしっかりと表現できるように、日々の練習を積み重ねていきます。

◆女子優勝

尼崎市立尼崎高等学校

④前田 彩花さん



２勝１敗での優勝となりました。
今の感想を聞かせてください。

２７人全員で一丸となって掴んだ優勝なのでとても嬉しいです。

最終戦（三田松聖戦）を振り返って

チームとしては、チャレンジャーとして挑もうとみんな話し合って臨むことができました。前半を終えて、やりたい事や目的は果たせていたと実感できていたので、大きな不安もなく、後半も思い切りプレーすることができました。

キャプテンとして心掛けたことはなんですか？

コートの中で一番声を出し、自分が先頭に立ってプレーで引っ張っていくことを心掛けて決勝戦に挑みました。

今大会を振り返って

昨年のウインターカップ県予選では決勝で敗れ、とても悔しい思いをしました。私たちの代で見返そうと思い、「三冠」を目指して気持ちを込めて練習をしました。新人戦はベスト４決定戦までしか戦えず、体の中にエネルギーが残った状態でした。その想いをしっかりと表現することができたと思います。

自分のチームの一番好きなところを教えてください。

２７人、全員が個性豊かで、どのチームよりまとまりがあると思います。

IHの目標を教えてください。

全国ベスト８を目指します。

MOVE with US CLINIC in HYOGO 2022

2022年6月18日（土）・19日（日）県立兵庫高等学校

《総評》

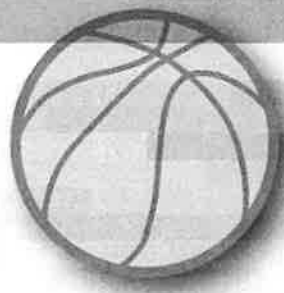
2022年6月18日（土）、19日（日）の2日間、県立兵庫高等学校にて、県内女子中高生プレイヤーを対象とした「MOVE with US CLINIC in HYOGO 2022」が開催された。主任講師には知花 武彦氏（当時：トヨタ紡織サンシャインラビッツヘッドコーチ）、福島雅人氏（当時：同アソシエイトコーチ）をお迎えし、Wリーグ「姫路イーグレッツ」の選手たちが講師として中高生と共にプレーしてくださいという恵まれた機会となった。初日は中学校23校、高校1校と8つのクラブチームより計109名の中高生が参加し、2日目は高校19校から120名が参加して、盛況のクリニックであった。

午前のクリニックはファンダメンタルを中心に行われ、「ボールを手に馴染ませること」から幕が上がった。ボールの縫い目に指をかけ、キャッチと同時にボールが吸い付くようイメージで…。シュート、パス、ドリブル、すべての始まりにあるキャッチングから、丁寧に指導が行われた。説明中に知花氏、福島氏が実演されると、ひとつひとつの動きのキレと無駄のなさに思わず感嘆の息が漏れ聞こえてくるほどであった。このクリニックを経てプレイヤーたちもファンダメンタルの重要性を肌で再確認できたのではないだろうか。

午後にかけて個人からチームでの動きにメニューがシフトし、パスをする際の目の付け所やディフェンスの体の使い方について指導をいただいた。最後には実戦形式で、クリニックの学びをアウトプットする機会が設けられた。多くが初対面のメンバーで、普段は競い合うライバルでもあるが、この機会ばかりは兵庫県でバスケットボールを楽しむ同年代の仲間として、チームの垣根を越えて交流する貴重な機会にもなった。

今後もこのようなクリニックが継続的に開催されることを願ってやまない。





第69回近畿高等学校バスケットボール大会

男子洛南、女子薫英女学院が優勝

令和4年6月24日(金)～26日(日) ウカルちゃんアリーナ

《総評》

第69回近畿高等学校バスケットボール大会は、6月24～26日の3日間にわたり、男子は滋賀県大津市のウカルちゃんアリーナで開催された。男子決勝は前年覇者の洛南（京都）と、チーム史上初の決勝進出を果たした阪南大（大阪）の対戦となり、洛南が冷静に攻めどころを見極めて第3Qを終えて28点リードし、そのまま洛南が大会連覇を飾った。

兵庫県勢男子は、準々決勝に報徳と神戸科技の2チームが残った。報徳は⑬星原、②溝上を中心に得点し、ディフェンス面でも頑張るものの、関西大北陽（大阪）に第2Qでリードを許すとそのまま71-92で敗れた。神戸科技は洛南に対し⑤加藤、④松下を中心にオフェンスを展開するが、最後までペースを掴めないまま57-74で敗れ、互いに準決勝進出はならなかった。

女子は、滋賀県YMITアリーナとウカルちゃんアリーナを会場とした。女子決勝は昨年同様、京都精華学園（京都）と薫英女学院（大阪）の対決となった。京都精華学園は13点のリードで前半を折り返すも、後半に薫英女学院がオールコートディフェンスで相手のミスを誘い逆転に成功した。薫英女学院84-74京都精華学園で薫英女学院は昨年度の雪辱を晴らし、優勝を掴み取った。

兵庫県からは7チームが参加した。そのうち3校が2回戦に進出したが、3回戦（準々決勝）への進出は叶わなかった。

男子

1回戦

神戸科技 70 [21-13・7-12] 59 草津東
16-16・26-18

関西大北陽 91 [25-19・23-21] 83 関西学院
19-26・24-17

関西大第一 93 [23-18・17-11] 55 三田松聖
29-9・24-17

育英 70 [17-17・17-7] 55 大阪学院
18-10・18-21

神戸村野工 90 [18-6・19-10] 43 天理
20-12・33-15

尼崎双星 90 [21-10・17-18] 73 立命館守山
25-20・27-25

2回戦

神戸科技 81 [24-12・21-14] 57 奈良育英
21-16・15-15



報徳学園 75 [22-18・19-20] 72 京都両洋
20-21・14-13



鳥羽 86 [11-19・32-14] 69 育英
20-25・23-11



阪南大学高 110 [34-20・20-18] 86 尼崎双星
35-22・21-26



大阪桐蔭 69 [24-12・14-21] 67 神戸村野工
16-20・15-14



3回戦

洛南 74 [22-14・24-18] 57 神戸科技
15-6・13-19



関西大北陽 92 [19-24・27-10] 71 報徳学園
25-21・21-16



女子

1回戦

神港学園 90 [20-17・18-12] 72 伊吹 (滋賀)
31-20・21-23
鳴尾 88 [24-17・14-12] 71 市立和歌山 (和歌山)
22-25・28-17
宣真 (大阪) 71 [12-16・25-13] 69 市立尼崎
18-16・16-24
滋賀短大附属 (滋賀) 62 [16-8・24-19] 55 神戸星城
10-17・12-11
奈良文化 (奈良) 88 [25-11・21-10] 66 神戸龍谷
21-27・21-18
京都両洋 (京都) 60 [18-10・11-20] 48 三田松聖
13-8・18-10
園田学園 60 [16-7・18-9] 54 箕島 (和歌山)
15-16・11-22

2回戦

京都精華学園 (京都) 124 [29-14・34-4] 38 神港学園
35-5・26-15



関西大学第一 (大阪) 81 [23-17・20-22] 65 鳴尾
17-15・21-11



薫英女学院 (大阪) 119 [33-9・23-4] 28 園田学園
31-9・32-6



第5回全日本社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会 兵庫県予選

信和建設シニア (O-40男子) が5連覇、三木CLUB (O-40女子) 初優勝、向井鍛工ハンマーズ (O-50) が2連覇達成!!

令和4年7月9日(土) 兵庫県立総合体育館

《総評》

令和4年6月12日(日)、25日(土)、7月2日(土)、3日(日)、9日(土)の5日間(兵庫県立体育館、姫路スポーツ会館、神戸常盤アリーナ)で第5回全日本社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会 兵庫県予選が開催された。

O-40では信和建設シニアが見事大会5連覇を達成、O-40女子は第1回以来の開催となり三木CLUBが初優勝、O-50では向井鍛工ハンマーズが2連覇を達成した。

今大会の上位チーム(O-40男子5チーム、O-40女子2チーム、O-50は4チーム)は第5回全日本社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会 近畿ブロック予選(9月初旬 和歌山県橋本市開催)への出場権を獲得した。

男子

O-50

決勝

向井鍛工ハンマーズ 68 — 41 Colors



O-50 優勝 向井鍛工ハンマーズ

O-40

決勝

信和建設シニア 86 [24 — 11・19 — 17] 60 DARUMA
23 — 10・20 — 22

信和建設シニア										DARUMA									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則					
—	—	—	—	—	本田 剛	0	0	水田 潤史	2	0	1	0	1	—					
—	—	—	—	—	加藤 伸明	2	2	花房 譲	—	—	—	—	—	—					
1	0	5	0	10	愛宕 宏文	6	3	菅野 伸彦	9	1	3	0	0	—					
2	0	1	0	2	小山 晃平	7	7	重吉 将和	0	0	0	0	1	—					
1	2	2	0	6	城山 大樹	9	8	柳井 伸之	0	0	0	0	0	—					
—	—	—	—	—	福井 隆博	13	9	鈴木 徹	5	0	2	1	0	—					
0	1	2	2	11	富永 大	14	13	橋田 洋平	—	—	—	—	—	—					
3	1	1	2	9	福島 潤	15	15	真島 武弘	4	0	2	0	0	—					
—	—	—	—	—	戸井源二郎	17	16	中塚 宏明	0	0	0	0	0	—					
—	—	—	—	—	岡崎 公尚	24	17	芥田 幸次	24	0	10	4	3	—					
1	0	7	0	14	岩井 一紘	25	21	内田 裕一	2	0	1	0	2	—					
1	2	2	0	6	菊池 真	27	22	打越 啓	8	0	4	0	4	—					
1	0	2	0	4	黒田 康始	29	30	田川 勇貴	3	1	0	0	1	—					
2	0	0	0	0	近藤 伸	37	31	松下 善律	1	0	0	1	1	—					
0	0	1	0	2	小川 真哉	45	39	富士木健治	—	—	—	—	—	—					
1	4	9	0	22	山本 賀信	56	44	前川 勇志	2	0	1	0	3	—					
13 10 32 4 86										60 2 24 6 16									

戦評

決勝は第1シードで大会5連覇を狙う信和建設シニアと第2シードで悲願の初優勝を狙うDARUMAとの4年連続同一カードとなった。

【第1クォーター】

信和建設シニア(以下、信和建設)は⑥愛宕、⑨城山、⑳黒田、㉑近藤、㉔山本、DARUMAは③菅野、⑨鈴木、⑮真島、㉔田川、㉔前川でスタート。

信和建設はブレイクから㉔山本から⑥愛宕へのパスが通り先制。



O-40 優勝 信和建設シニア

共にミスが多く、なかなかシュートまで行けない中、信和建設㉔黒田がミドルシュートを決めリードを広げる。信和建設は㉔山本がブレイクを沈める。ミスの続くDARUMAがタイムアウトを請求する。タイムアウト後、信和建設⑨城山がスティールからシュートを沈め8-0とする。更にDARUMAのミスから信和建設が走り⑥愛宕がバスケットボールカウントを沈め10-0とする。DARUMAは⑰斧田のミドルシュートが決まりようやく得点する。信和建設㉔山本がファールで得たフリースローを2本決め差を広げる。DARUMAは③菅野が加点。信和建設は⑭富永の3Pが決まり更に点差を広げる。DARUMAは③菅野が奮闘しタフショットをねじ込む。信和建設は⑭富永が連続で得点し更にリードを広げる。DARUMA㉔内田が決めれば、信和建設㉑小山も決め譲らない。信和建設は㉔岩井がミドルシュートを沈めリードを広げる。第1クォーターは24-11と信和建設シニアがリードで終了した。

【第2クォーター】

信和建設㉔山本がファールを貰いフリースローを2本とも沈めこのクォーターが始まる。DARUMAは⑰斧田がミドルシュートを決め譲らない。DARUMAは㉔打越がドライブを決める。更に⑰斧田が再びシュートを沈め、点差を詰める。信和建設は㉔岩井がミドルシュートを決め譲らない。信和建設は㉔岩井が連続得点し点差を広げる。DARUMAは⑰斧田がファールを貰いフリースローを決める。信和建設はインバウンズから㉔岩井が決めリードを広げる。更に㉔菊池がインサイドアタックし加点。DARUMAは⑨鈴木、⑰斧田が決め意地を見せる。信和建設は⑮福島が連続で3Pを決め譲らない。DARUMAは⑰斧田がタフショットを沈め孤軍奮闘の活躍を見せる。

第2クォーターは43-28と信和建設シニアが点差を広げて終了した。

【第3クォーター】

信和建設は⑨城山のシュートが決まる。DARUMAも㉔前川のシュートが決まり譲らない。信和建設は⑨城山がファールで得たフリースローを2本決め、点差を広げる。DARUMAは⑰斧田がスティールからブレイクで加点。信和建設も㉔山本がゴール下をねじ込み譲らない。信和建設はスティールから㉔山本が走り加点。更にミドルシュート決めてリードを広げる。㉔山本はドライブからバスケットボールカウントも決め更にリードを広げた。信和建設は⑥愛宕がドライブを決め、更に㉔菊池もミドルシュートを決めリードを広げる。DARUMAは⑨鈴木がミドルを決め意地を見せるも単発となる。信和建設は⑥愛宕がドライブで加点、⑭富永の3Pも決まり一気に点差を広げた。信和建設シニアが66-38と28点差をつけてこのクォーターが終了した。



【第4クォーター】

共にミスが多い中、信和建設㉔山本が連続得点し、更にリードを広げる。DARUMAは⑰斧田がミドルシュート、⑮真島も決め応戦する。信和建設は⑮福島、㉔黒田が決め譲らない。信和建設は㉔山本がオフェンスリバウンドから加点。DARUMAは信和建設のミスから走り、㉔打越が決めるも単発になる。信和建設は㉔山本のミドル、⑥愛宕がオフェンスリバウンドに絡み加点。DARUMAも③菅野のドライブが決まる。信和建設は㉔岩井が連続して決め譲らない。DARUMAは㉔打越のミドルシュート、③菅野、㉔田川が3P決め意地を見せる。

最終スコアは86-60で信和建設シニアが大会5連覇を飾った。

女子

O-40

決勝

三木クラブ 52 — 34 芦屋シーサイド



O-40 優勝 三木CLUB



令和 4 年度 第66回兵庫県中学校総合体育大会
第74回兵庫県中学校 バスケットボール競技大会

令和 4 年 7 月26日(火)～27日(水) ◆グリーンアリーナ神戸

《総評》

令和 4 年 7 月26日（火）、27日（水）の 2 日間、兵庫県総合体育大会が神戸のグリーンアリーナで開催された。男子は明石市立望海中学校が初優勝を果たし、女子は西宮市立総合教育センター付属西宮浜義務教育学校が初優勝を果たした。

男子・女子ともに上位 2 チーム（男子：明石市立望海中学校・報徳学園 女子：西宮市立総合教育センター付属西宮浜義務教育学校・百合学院）が奈良県で行われる近畿大会への出場権を獲得した。

男 子
決 勝

望海 (東播第一代表)					56	10 — 16 · 21 — 10 14 — 13 · 11 — 16					55	報徳学園 (阪神第一代表)							
望 海					報徳学園														
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則					
4	2	1	0	4	山下 桐吾	4	11	飯島 隼											
					櫻井 佑磨	5	4	道田 柊摩											
					林保 翔太	6	5	橋本 一輝											
1	3	3	0	9	浜田 梨功	7	6	若林 蒼大	0	0	0	0	0	0					
3	7	11	1	32	中内 瑛仁	8	7	小村 衣吹	4	0	2	0	1						
1	0	2	0	4	尾上 達哉	9	8	澤山 陸	20	2	7	0	3						
1	0	1	0	2	藤田 雅士	10	9	高松 佳司											
					長谷川大士	11	10	河野友生斗											
					坂本 龍紀	12	12	藤原 悠粋	4	0	2	0	2						
3	1	2	0	5	ルミンガレキリター	13	13	東 美童	12	4	0	0	1						
					竹下 颯志	14	14	川内 秀太											
					馬田 舟都	15	15	吉川 斗真	7	0	3	1	3						
					前田 優人	16	16	マダングン	8	0	3	2	4						
					福本 彩人	17	17	今村 瞬											
					魚住 奏多	18	18	下原 潤也											
13 13 20 1 56										55 6 17 3 14									

戦評

1 Q

望海は⑤櫻井、⑦浜田、⑧中内、⑨尾上、⑩藤田。報徳学園は⑧澤山、⑫藤原、⑬東、⑮吉川、⑯アマダスンでスタート。開始早々、望海はスクリーンプレーを使い、⑧中内がバスケットカウントで得点する。報徳学園は開始 2 分でチームファールが 4 つとなり苦しい立ち上がりとなった。しかし、⑮吉川のリバウンドからオフェンスにリズムが出てははじめ、⑬東が 3 P を 2 本決めるなどし、16-10 と報徳学園のリードで 1 Q を終える。

2 Q

望海は 2 Q の開始からオールコートディフェンスで流れをつかみ、逆転する。報徳学園はタイムアウト後に⑮吉川のポストアップから得点をし、⑬東の 3 P が決まり、報徳学園が再びリードを奪う。望

海はその後も激しいディフェンスを続け、スティールからの速攻で逆転に成功。31-26 の望海リードで 2 Q を終える。

3 Q

両チームディフェンスが固く、点差が変わらず 4 分が経過する。望海⑧中内の連続得点があるが、報徳学園も⑮吉川のオフェンスリバウンド、⑯アマダスンのゴール下シュートなどで互角の戦いを見せる。お互い譲らず、45-39 の望海 6 点リードで 3 Q を終える。

4 Q

報徳学園はオールコートディフェンスで少しずつ点差をつめる。望海はスローインからの⑬フレミングのゴール下シュート、⑨尾上のドライブから得点を重ねる。しかし報徳学園もディフェンスが固く、残り 2 分で 54-53 の 1 点差まで詰める。残り 2 分お互い、一進一退の攻防が続いたが、望海が報徳学園を振り切り、56-55 の 1 点差で、兵庫県総合体育大会初優勝をつかみ取った。最後まで死力を尽くした両チームの近畿大会での活躍に期待したい。

女 子
決 勝

西宮浜					百合学院															
(阪神第二代表)					67	[15 — 24 · 12 — 5] 55										(阪神第一代表)				
					西宮浜					百合学院										
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則							
2	4	11	0	26	川口 莉瑚	4	4	黒田 希歩	11	0	5	1	5							
1	3	6	1	18	木下 楓	5	5	廣田 堇	6	1	1	1	5							
4	2	3	0	8	中村 その	6	6	古本 美花	3	0	1	1	0							
					池本 結華	7	7	澤田 侑希	11	1	2	4	4							
0	1	3	0	7	四谷 花音	8	8	島内 詩香	13	0	6	1	3							
4	0	3	0	6	市場 咲	9	9	田中 杏	2	0	1	0	1							
					森岡寿々蘭	10	10	大倉 侑奈	10	0	5	0	0							
1	0	1	0	2	大西 葵	11	11	佐藤 花楓	0	0	0	0	1							
					権野あぐり	12	12	前 知佐子												
					北 陽歩	13	13	笹森 彩花												
					月原 菜摘	14	14	石山 紗衣	0	0	0	0	1							
					池本 結稀	15	15	足立 愛夏												
					親崎 玲	16	16	山本有珠希	0	0	0	0	2							
					巴 彩乃	17	17	片山菜々子												
					魚住 璃香	18	18	森 涼風												
12 10 27 1 67									56 2 21 8 22											

戦評

1 Q

百合学院は④黒田、⑤廣田、⑦澤田、⑧島内、⑩大倉。西宮浜は④川口、⑤木下、⑥中村、⑧四谷、⑨市場がスターティングメンバー。両チームハーフコートディフェンスでゲームが始まった。

ゲームは百合学園の速攻からのシュートから始まる。西宮浜は⑥四谷、⑨市場のドライブを中心に得点。中盤では百合学園の激しいディフェンスから、⑤廣田⑧島内らが得点し、24-15 の百合学園リードで 1 Q 終了。

2 Q

西宮浜は④川口を中心に得点し、追い上げを図るが、高さで勝る百合学園は速攻からの 3 P、そのリバウンドからのシュートを決める。残り 4 分で百合学園リードの 27-23 だったが、ここから両チームディフェンスが機能し、お互いに得点が止まる。難しいシュートが続く中で、西宮浜が追い上げるも、百合学院が 29-27 とリードを続け、2 Q 終了。

3 Q

開始早々、西宮浜⑤木下のドライブインや④川口の速攻が止まらず、33-29 で西宮浜が逆転する。百合学院のタイムアウト後には⑩山本を投入して、早い展開を試みる。お互いに点を奪いあいが続くも、終盤には西宮浜④川口から⑤木下へのコンビプレーが決まり、53-42 で西宮浜が 11 点のリードを築いた。

4 Q

追いかける百合学院は⑩大倉⑧島内のゴール下で反撃。そんな中残り 6 分で西宮浜④川口が怪我で戦列を離れてしまう。それでも交代で入った⑪大西らで踏ん張り、残り 4 分で 59-51 の西宮浜 8 点リード。最後は百合学院がオールコートディフェンスからジャンプシュート等多彩に攻めるもリングに嫌われ、逆に速攻を決められてしまい、67-55 で西宮浜に軍配が上がった。西宮浜は兵庫県総合体育大会初優勝。両チーム近畿大会での活躍にも期待したい。



令和4年7月27日（水）～8月1日（月）

高松市総合体育館
高松市香川総合体育館
丸亀市民体育館

令和4年度全国高等学校総合体育大会

バスケットボール競技大会

《総評》

令和4年度全国高等学校総合体育大会が、7月27日（水）から8月1日（月）にかけて香川県高松市、普通寺市、丸亀市で開催された。

男子決勝は3年ぶり4度目の優勝を目指す福岡第一（福岡県）と4年ぶり2回目の優勝を目指す開志国際（新潟県）が対戦。第4クォーター終了間際まで開志国際がわずかにリードを保ったが、残り5秒、福岡第一は⑩崎濱秀斗が逆転3Pシュートを決めて77-76と優勝を飾った。

女子は、昨年ウィンターカップ優勝校の桜花学園高校（愛知）と準優勝校の京都精華学園高校（京都）が、3回戦で激突した。接戦を制した京都精華が決勝まで勝ち上がり、ウィンターカップ3位で決勝まで勝ち進んできた大阪薫英女学院高校（大阪）を93-65で破って悲願の初優勝を果たした。

兵庫県勢は、男子は報徳が1回戦で留学生を擁する美濃加茂（岐阜）と対戦し、序盤からリードを許し、前半終了間際に逆転し第3クォーターもリードを保ったが、第4クォーター残り8分に逆転されると、最後に粘りを見せたものの残念ながら1回戦で敗退した。女子は市立尼崎が1回戦で棄権し、不戦敗となった。

男 子																							
1回戦																							
美濃加茂 (岐阜)												報徳学園											
美濃加茂高等学校												報徳学園高等学校											
反則	自投	②野	③野	得点	No. No.		得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	②野	③野	得点	No. No.		得点	③野	②野	自投	反則
0	2	0	3	11	高橋	拓夢	4	7	森本	虎志	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	新谷	颯一	5	12	高木良太郎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	5	7	0	19	ダイラ	モーゼス	6	13	星原	甲治	8	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	4	2	14	須賀	天暉	7	23	溝上	恵大	10	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2	6	5	0	16	杉浦	丈琉	8	27	神成	勁翔	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	近藤	大晟	9	34	西村陽太郎	7	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
—	—	—	—	—	遠山	広貴	10	42	稲井	穂高	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	7	8	0	23	北條彪之介	11	44	多田健太郎	7	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
—	—	—	—	—	田堀	瑛大	12	46	小林	裕斗	20	5	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	0	2	エナ	フェイバー	13	47	山崎慎之助	18	4	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	後藤	宙	14	60	脇	友一	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
—	—	—	—	—	関	健朗	15	97	井藤	匠哉	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
8 20 25 5 85												79 13 19 2 16											

戦評

【第1 Q】

報徳はマンツーマンディフェンスで、203cmの美濃加茂⑥モーゼスを重点的にマークする。報徳④小林が先制の3Pを決めたものの後が続かず、オールコートでマンツーマンディフェンスを展開する

美濃加茂にリードを許し、残り6分12-3となったところで報徳がタイムアウト。ゾーンディフェンスに変更するとリズムをつかみ、報徳⑬星原が立て続けにフローターを決め、②溝上も3Pを決める。一方、美濃加茂は⑩北條が得点を量産し、得点差を詰めさせない。美濃加茂が26-15とリードして第1 Qを終える。

【第2 Q】

美濃加茂は残り7分で32-17と15点差までリードを広げたが、そこから6分間は攻めあぐみ、タイムアウトを取るものの2得点しかできない。その間に報徳は④⑥小林と⑦山崎の3P、④⑥西村のリバウンドからのシュートで追い上げる。そして残り1分、④⑥小林の3Pで34-37と逆転に成功する。クォーター終了間際には報徳②神成が速攻を決め、38-41と報徳がリードして前半を終える。

【第3 Q】

後半が始まると、報徳⑦山崎が3Pを3本連続で決め、一時は7点のリードを奪う。ここから前半4得点に終わった美濃加茂⑥モーゼスがゴール下やフリースローなど12得点を奪い、反撃に出る。ここで報徳はハーフコートでゾーンプレスディフェンスを仕掛けて、試合の主導権を渡すまいと奮闘する。残り4分から報徳②③溝上や④⑥多田が3Pシュートを決め、残り2分で55-62と再び7点差としたところで美濃加茂がタイムアウト。その後も一進一退の攻防は続き、59-64報徳リードで最終クォーターへ。

【第4 Q】

残り8分、美濃加茂は④高橋の3Pで64-64の同点に追いついた後も順調に得点を重ねるが、一方の報徳の得点は伸び悩む。残り4分、再び美濃加茂④高橋が3Pを決め、73-69としたところで報徳タイムアウト。その後も報徳のシュートがリングに嫌われる中、残り2分、美濃加茂⑥モーゼスがリバウンドからバスケットカウントのフリースローも沈めて80-70とし、報徳タイムアウト。報徳は活路を見出せないまま、さらに美濃加茂④高橋の3Pで85-73とされ、万事休す。美濃加茂が85-79で勝利した。



皇后杯 第31回

日本女子車いすバスケットボール選手権大会

2022年8月6日（土）：予選リーグ／7日（日）：順位決定戦

会場：グリーンアリーナ神戸

カクテル
7連覇達成

《総評》

本大会は、2022年8月6・7日（土・日）にグリーンアリーナ神戸で開催されました。女子車いすバスケットボールチームのチャンピオンを決める大会です。コロナ禍により、2020年度と2021年度は中止となりましたが、本年度は開催することが出来ました。コロナ禍で開催出来ない期間は、各チームでコロナ感染対策を実施し、チーム・個人で練習を重ね、本大会を迎えることが出来ました。ご関係者の皆さま方のご尽力に感謝申し上げます。

大会は、予選リーグを危なげなく勝ち上がった「Wing」「カクテル」が決勝戦へ進み、6連覇中の「カクテル」に対して「Wing」が挑戦者としてチャレンジする決勝戦でした。「カクテル」のハードワークを惜しまないディフェンスが「Wing」のオフェンスを上回り終始「カクテル」ペースの決勝戦でした。「カクテル」が7連覇を達成しました。

決 勝																							
カクテル 58												37 Wing											
13-17 6・14-13 6・14-12																							
カクテル												Wing											
反則	自投	②野	③野	得点	No. No.		得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	②野	③野	得点	No. No.		得点	③野	②野	自投	反則
0	0	0	0	0	西村	葵	4	6	原田	恵	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0	0	3	1	9	柳本あまね	5	10	志田恵利子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	0	2	0	4	本多	季海	6	11	椎名香菜子	10	1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	1	0	2	吉田絵里架	7	12	財満いずみ	10	0	5	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	2	0	4	北間	優衣	9	13	石川	理恵	11	1	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	小島	瑠莉	10	15	坂本	真実	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	2	吉川	美保	12	17	鈴木百萌子	6	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	1	6	0	13	北田	千尋	13	18	青柳	愛奈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	2	0	4	清水	千浪	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	8	0	18	網本	麻里	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	2	前川	知子	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13 3 26 1 58												37 2 15 1 12											



戦評

予選ラウンドを安定した戦いで決勝戦へ望む両チーム

【第1クォーター】

カクテル吉田がシュートを決める。カクテルは、オールコートプレス・ハーフコートプレスでディフェンからベースを作る。Wing攻めあぐみ3分経過（7：38）無得点、タイムアウト。タイムアウト後もカクテルが得点を重ねる。Wing石川の得点が初得点となる。Wing再三チャンスを作るがシュート外れる。Wing財満・鈴木連続得点。13-6カクテルリードで終了。

【第2クォーター】

開始早々カクテル網本がオフェンスリバウンドを拾い得点。Wing石川3P決める。カクテル柳本、網本、清水、Wing椎名、石川、財満の得点。Wingが攻撃のベースを掴む。第2クォーターは互角の戦いとなる。カクテル27-19とカクテルリードで前半終了。

【第3クォーター】

カクテル網本のカウントで始まる。カクテルディフェンスはオールコートプレス。Wing椎名を中心に攻めるが攻めあぐむ。カクテルがオフェンス・ディフェンスリバウンドを拾い。着実に得点重ねる。残り6：52でWingタイムアウト。タイムアウト後もカクテルのペースが良く柳本3Pで加点。Wing椎名・財満のピック&ロール、椎名3Pで得点。44-25カクテルリードで終了。

【第4クォーター】

Wing椎名・石川の連続得点。カクテルハーフコートプレスから着実に得点。点を取り合う展開となる。両チームともイーゾーシュートを確実に決める。終始カクテルペースの試合となる。58-37でカクテル優勝 7連覇達成

インタビュー

兵庫県車いすバスケットボール連盟：

吉田 絵里架（神戸市在住、北京パラ日本代表キャプテン、現日本代表マネージャー）

カクテルキャプテン：

北間 優衣（伊丹市在住、東京パラ日本代表）

【優勝した今の感想】

北間：7連覇を達成することができ、まずはホッとしています。コロナ禍のなかで新しく加入してくれメンバーもいてその



選手にとっては初めて一緒に戦う公式戦となり、その大会を優勝で終えみんなで喜び合えたことが何よりも1番嬉しく思っています。(北間)

吉田：7連覇達成することができて本当に嬉しい気持ちでいっぱいです。また大会を開催するにあたり関係者の皆様のご尽力に心から感謝の気持ちを伝えたいです。(吉田)

【決勝戦前 または ハーフタイム などでの様子】

北間：いつもと変わらない様子でした。決勝だからと言って何か普段と違う様子もなく、選手それぞれ自分に合ったいつもの通りの過ごし方をしていたと思います。(北間)

吉田：今回が初出場の選手もいて若干緊張している部分はありましたがチームとしては落ち着いていて試合をととても楽しみにしていました(吉田)

【決勝の勝負のポイントは】

北間：ディフェンスです。
私たちがこれまでやってきたオールコートディフェンスを基盤として、ディフェンスからリズムを作りカクテルらしいバスケットを展開できるかが勝負だと思います。(北間)

吉田：チーム力
最近では私たちの十八番と言っても過言ではなかったディフェンスも突破されることも少なくありませんが「どんな時も徹底してやりつづけてきた」という強みが自信の源になりそれがポイントになると思います(吉田)

【今大会を振り返って】

北間：新しい選手が加わってもカクテルのオールコートプレスはずっと練習してきましたし、今大会初めて新しいディフェンスにも挑戦しました。いずれも、どの選手がコートに出て同じことがコート上で行えたことは、選手1人1人が練習してきたことを出し切った成果だと思っています。(北間)

吉田：2年ぶりにチームとして大会に出場することができて何よりそれが一番嬉しかったです。練習をしても目指すものが見当たらない、そんな状態でしたがチームのメンバーとまた大会を経験できて精一杯頑張り、楽しみ、取り組んできた練習の成果が今大会の結果につながったと思います。(吉田)

【皇后杯、本大会の目標】

北間：優勝
この目標を達成するために何が必要かを全員で話し合い、「成長する」というキーワードをもとに、チームメイトと自分自身が成長するにはどうすればいいのか考え、その成長を喜び合えるチームでありたいと思っています。(北間)

吉田：皇后杯7連覇すること、車いすバスケットを楽しむこと。誰がでてもチームで決めた約束事を守り徹底し、チャレンジする。(吉田)

【今後のチームの課題・目標など、その他】

北間：皇后杯10連覇
簡単に達成できる目標ではないと思っているが、「成長する」というキーワードとともに1つずつ積み重ねていき、見ている人もゲームを実際にしている私たちも楽しめるバスケットをこれからも続けていきたいと思います。(北間)

吉田：大会10連覇が最終目標。若手選手も増えたのでチームとして積み上げてきたことを継続することと更に武器を増やしてより強く、観る人がわくわくするようなバスケットをみせられるようになること。(吉田)



【大会順位】

優勝 カクテル
準優勝 Wing
3位 SCRATCH

4位 九州ドルフィン
5位 パッション
6位 ELFIN

【大会個人賞】

<Play, Support賞>
岩野 博 (カクテル ヘッドコーチ)
<オールスター5>
クラス1 北間 優衣 (カクテル)
クラス2 大森亜紀子 (SCRATCH)
クラス3 清水 千浪 (カクテル)
クラス4 土田真由美 (SCRATCH)
M V P 柳本あまね (カクテル)

◆8月6日(土)予選リーグ

POOL A	SCRATCH	ELFIN	Wing	成績	順位
SCRATCH		○ 65 - 14	● 41 - 65	1勝1敗	2位
ELFIN	● 14 - 65		● 10 - 61	0勝2敗	3位
Wing	○ 65 - 41	○ 61 - 10		2勝0敗	1位

POOL B	カクテル	パッション	九州ドルフィン	成績	順位
カクテル		○ 70 - 20	○ 64 - 50	2勝0敗	1位
パッション	● 20 - 70		● 37 - 49	0勝2敗	3位
九州ドルフィン	● 50 - 64	○ 49 - 37		1勝1敗	2位

◆8月7日(日)順位決定戦

決勝戦	Wing	37	vs	58	カクテル
3－4位決定戦	SCRATCH	59	vs	39	九州ドルフィン
5－6位決定戦	ELFIN	20	vs	43	パッション



少年男子、悲願の優勝!! 成年男子も2位で本国体出場へ 令和4年8月20日(土)～21日(日) 京都市体育館・市民スポーツ会館 第77回 国民体育大会近畿ブロック大会 バスケットボール競技

《総評》

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」の予選となる近畿ブロック大会バスケットボール競技は、令和4年8月20日からの2日間に、京都市体育館・市民スポーツ会館で行われた。昨年度は兵庫少年男子など5チームが新型コロナウイルスにより棄権したが、今年度は感染が拡大しつつあったが全チームが出場できた。

令和元年度の大会から少年種別がU-16となり、選手資格は早生まれの高校2年生、高校1年生、中学3年生となった。今回、兵庫県少年女子は中学生1名がエントリーされていたが、男子は全員高校生だった。本大会への出場枠はどのカテゴリーも2枠となった(昨年度までは少年は3枠)。

兵庫県は成年女子が初日の予選リーグで2敗し、翌日の準決勝に進めなかった。少年女子は予選リーグで和歌山県に2点差で競り勝ち、準決勝に進んだが優勝した京都府に敗れた。3位決定戦では接戦で奈良県を破り、3位と健闘した。

成年男子は予選リーグで大阪府に敗れたが、進んだ準決勝では奈良県を前半の劣勢を挽回して1点差で退けた。大阪府との再戦となった決勝は第3Q終了時で同点の大接戦となったが、惜しくも敗れた。少年男子は予選リーグで大阪府を退け、準決勝に進出した。決勝では難敵京都府を破ってきた大阪府との再戦となった。前半の競り合いを凌いで悲願の優勝を上げた。(戦評は京都府バスケットボール協会作成を改変)

成年女子

予選リーグ

和歌山県 65 $\left[\begin{array}{c} 17-14 \cdot 12-11 \\ 22-16 \cdot 14-21 \end{array} \right]$ 62 兵庫県



京都府 74 $\left[\begin{array}{c} 24-20 \cdot 12-7 \\ 23-14 \cdot 15-11 \end{array} \right]$ 52 兵庫県



少年女子

予選リーグ

京都府 100 $\left[\begin{array}{c} 29-16 \cdot 31-6 \\ 25-16 \cdot 15-21 \end{array} \right]$ 59 兵庫県



兵庫県 76 $\left[\begin{array}{c} 13-10 \cdot 18-18 \\ 13-20 \cdot 32-26 \end{array} \right]$ 74 和歌山県



準決勝

大阪府 99 $\left[\begin{array}{c} 29-12 \cdot 16-15 \\ 24-17 \cdot 30-22 \end{array} \right]$ 66 兵庫県



3位決定戦

兵庫県 91 $\left[\begin{array}{c} 32-14 \cdot 20-20 \\ 18-23 \cdot 21-28 \end{array} \right]$ 85 奈良県



成年男子

予選リーグ

大阪府 90 $\left[\begin{array}{c} 22-10 \cdot 12-14 \\ 26-22 \cdot 30-19 \end{array} \right]$ 65 兵庫県



兵庫県 84 $\left[\begin{array}{c} 26-21 \cdot 16-23 \\ 23-9 \cdot 19-21 \end{array} \right]$ 74 和歌山県



準決勝

兵庫県 65 $\left[\begin{array}{c} 15-20 \cdot 14-21 \\ 23-11 \cdot 13-12 \end{array} \right]$ 64 奈良県



決勝

大阪府 92 [20 - 28・19 - 10] 83 兵庫県
21 - 22・32 - 23

大阪府										兵庫県									
反則	自投	②野	③野	得点	No	No	得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	②野	③野	得点	No	No	得点
3	4	6	1	19	池原 慶紀	4	4	中村 大輔	2	0	1	0	2						
5	1	1	1	6	石塚 裕也	5	5	酒居 奎太	2	0	1	0	2						
—	—	—	—	—	高橋 克実	6	6	宮田 長源	9	2	1	1	2						
1	0	2	2	10	廣山 雅尚	7	7	前田 一帆	3	1	0	0	0						
1	0	0	0	0	井福晋太郎	8	8	高松秀太郎	9	0	3	3	0						
2	0	4	5	23	橋本 卓哉	9	9	武田倫太郎	5	0	1	3	4						
—	—	—	—	—	武田 康生	10	10	小島 基嵩	18	0	5	8	2						
1	2	6	1	17	池嶋 一輝	11	11	保花 広樹	24	1	9	3	0						
4	2	2	0	6	大町 祐介	12	12	大町 堯舜	3	0	1	1	2						
1	1	0	0	1	大西 孝信	13	13	大杉 陸翔	8	0	3	2	0						
2	0	2	2	10	金田 拓也	14	14	高山 寛史	—	—	—	—	—						
20 10 23 12 92										83 4 25 21 14									

戦評

第1 Q、大阪は⑤石塚の3 P、⑪池嶋のジャンプシュート、④池原のドライブなど、兵庫のゾーンディフェンスをうまく攻め、先手を取る。対する兵庫も落ち着いて⑩保花がジャンプシュート、⑤酒居がゴール下を沈める。大阪は3分間ノーゴールの厳しい時間帯ができ、対する兵庫は⑩保花が的確にゴールを決める。タイムアウトを取って修正をはかった大阪は、⑫大町の速攻で追い上げを図るが、兵庫はドライブやゴール下でフリースローを得て得点を伸ばし、20 - 28兵庫リードで第1 Q終了。

第2 Q、先制は兵庫④中村であったが、大阪は④池原の速攻と3 Pで流れを作ると、⑭金田らがジャンプシュートを沈め、みるみる点差が縮まる。タイムアウト後、兵庫も巻き返しを図るが、大阪が39 - 38と逆転に成功して前半が終了する。

後半開始2分半で大阪④池原が7点連続で決め、⑨橋本が3 Pを決めると兵庫はたまたずタイムアウト。すると兵庫は⑥宮田が3 Pを連続で決め、さらに⑧高松の速攻で一気に3点差まで追い上げる。兵庫は⑩小島のインサイド、⑪保花のドライブで加点し、大阪は⑭金田と⑦廣山の3 Pでつなぎ、両者譲らず60 - 60の同点で最終Qへ。

第4 Q、兵庫は⑪保花がドライブを決めるも、タイムアウトを挟んで3分間で2点と得点が続かない。一方の大阪は⑨橋本が3 Pを3本沈めて勢いに乗り、10点差をつける。兵庫も⑩小島がゴール下、⑦前田が3 Pを決めるが、大阪も⑦廣山のドライブで寄せ付けず、92 - 83で大阪の優勝となった。



少年男子

予選リーグ

兵庫県 84 [23 - 22・22 - 17] 72 大阪府
15 - 18・24 - 15



兵庫県 82 [23 - 14・25 - 8] 54 滋賀県
19 - 14・15 - 18



準決勝

兵庫県 108 [26 - 23・25 - 21] 67 和歌山県
29 - 9・28 - 14



決勝

兵庫県 93 [28 - 22・18 - 23] 77 大阪府
26 - 14・21 - 18

兵庫県										大阪府									
反則	自投	②野	③野	得点	No	No	得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	②野	③野	得点	No	No	得点
1	3	8	0	19	馬場 瑠音	4	4	飛山 悠	14	2	4	0	4						
2	3	1	5	20	長田 祐聖	5	5	高橋 彩斗	25	4	6	1	4						
3	0	7	1	17	藤村 日向	6	6	桐田 伊吹	6	0	3	0	2						
1	0	4	1	11	竹内 琉人	7	7	太田 凜	9	1	2	2	1						
2	2	1	0	4	羽澤 要	8	8	西原 進登	5	1	1	0	2						
0	2	1	0	4	北村 優光	9	9	西川 悠征	0	0	0	0	5						
1	2	0	3	11	福本 有都	10	10	舟谷 陽人	6	0	3	0	1						
—	—	—	—	—	大坪 蒼哉	11	11	黒木 太馳	2	0	1	0	0						
1	0	0	0	0	加藤 大期	12	12	濱野 歩	4	0	2	0	0						
0	0	0	0	0	洲野 祐陽	13	13	松本 星希	4	0	2	0	0						
1	5	1	0	7	藤川健太郎	14	14	松井 翔希	0	0	0	0	1						
—	—	—	—	—	溝上 皓大	15	15	清水 祥敬	2	0	1	0	1						
12 17 23 10 93										77 8 25 3 21									



戦評

第1 Q、両チームともにマンツーマンディフェンスでスタート。⑤高橋の3 Pで先制した大阪だが、兵庫の粘り強い守りと速攻で徐々にゲームは兵庫ベースに。その後、兵庫は⑤長田の三連続3 Pで一気にリードを広げたが、大阪⑦太田、⑤高橋のインターセプトからの速攻が連続で決まり、28 - 22の兵庫6点リードで第1 Qを終える。

第2 Q、大阪は⑤高橋の速攻、⑦太田の3 Pで一気に逆転に成功するが、兵庫も⑩福本、⑤長田が3 Pで対抗して試合は一進一退の攻防になり、46 - 45兵庫1点リードで前半を終える。

第3 Qに入りディフェンスを3 - 2ゾーンに切り替えてベースを掴もうとする大阪であったが、兵庫⑥藤村、⑩福本の3 P、④馬場の速攻が連続で決まり、得点差は10点に広がる。④飛山と⑥外村の1 on 1で対抗する大阪であったが、兵庫の速攻と粘り強いリバウンドに得点差は広がり、72 - 59の兵庫13点リードで最終Qへ。

第4 Qも、④馬場を中心とした速攻と、⑭藤川と⑧羽澤のリバウンドでペースを譲らなかった兵庫が93 - 77で大阪に勝利し、優勝した。善戦した大阪は、2 Q終盤にポイントゲッター⑦太田が負傷欠場したのが響いた敗戦であった。

第77回 兵庫県総合バスケットボール選手権大会
兼 第98回天皇杯・第89回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会兵庫県代表決定戦

神戸医療未来大学が初優勝!! 武庫川女子大学が3大会連続15回目の優勝!!

令和4年8月28日（日）グリーンアリーナ神戸

《総評》
 令和4年8月27日（土）、28日（日）の2日間、グリーンアリーナ神戸にて第77回兵庫県総合バスケットボール選手権大会 兼 第98回天皇杯・第89回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会兵庫県代表決定戦が2年ぶりに開催され、男子は神戸医療未来大学が初優勝、女子は武庫川女子大学が3大会連続15回目の優勝を飾った。
 両チームは9月中旬に岸和田で行われるオールジャパンの1次ラウンドへの出場権を獲得した。

男子

決勝

神戸医療未来大学 96〔20－23・23－15〕94 信和建設（株）
 22－23・31－33

神戸医療未来大学							信和建設(株)							
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則
—	—	—	—	—	堀川 祐喜	1	2	廣山 雅尚	11	3	1	0	0	3
—	—	—	—	—	撫 直樹	2	4	大家 基嗣	0	0	0	0	0	1
2	3	4	1	14	朝比航太郎	3	7	竹内 綾佑	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	段林 篤史	10	8	井上 敬翔	—	—	—	—	—	—
3	0	1	0	2	板敷 遼	15	9	藤野 隆斗	8	0	4	0	0	0
—	—	—	—	—	山田 峻大	21	10	松本 陽準	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	前西 竜馬	22	11	室垣 佑真	—	—	—	—	—	—
4	2	6	0	14	ｼﾗｴﾙﾊﾞｼﾞｱﾝ	23	12	萩原 卓司	—	—	—	—	—	—
2	7	7	5	36	宮田 長源	24	13	小島 基嵩	6	0	3	0	0	3
—	—	—	—	—	菅田 浩希	29	16	笠原 太志	16	0	4	8	4	4
4	2	7	1	19	ﾘｵﾝﾎﾞﾙｶﾘﾌｾｲﾝ	32	17	真鍋 良太	16	4	2	0	0	4
—	—	—	—	—	山本 梨功	35	20	保花 広樹	26	4	6	2	2	2
1	0	0	1	3	田中虎太郎	36	24	西村 大祐	—	—	—	—	—	—
1	3	1	1	8	中村 瑞樹	39	25	藤林 航	9	1	3	0	0	3
—	—	—	—	—	後藤 統哉	45	33	生越 陸也	2	0	1	0	0	3
—	—	—	—	—	田原 哲也	56								
17 17 26 9 96										94 12 24 10 23				

戦評

男子決勝は第1シードで大会連覇を狙う社会人連盟（地域リーグ1位）の信和建設（株）と第2シードで大学1位の神戸医療未来大学の対戦となった。

【第1クォーター】

信和建設（株）は②廣山、⑬小島、⑯笠原、⑰真鍋、⑳保花、神戸医療未来大学は⑮板敷、㉓アサン、㉔宮田、㉚フセイン、㉙中村でスタート。

神戸医療未来大学（以下、神戸医療）㉔宮田の3Pが決まり先制。信和建設（株）（以下、信和建設）も㉚保花がミドルシュートを決め譲らない。神戸医療は㉔宮田を起点に攻めリードを広げる。信和建設はインサイド⑬小島が果敢にゴールアタックし応戦する。神戸

医療㉓アサンが3Pを決めリードを広げるも信和建設⑰真鍋が決め返し主導権を渡さない。神戸医療は㉚フセインがオフェンスリバウンドから加点。信和建設は⑰真鍋がこの日2本目の3Pを決め、点差を詰める。残り3分で信和⑬小島がゴール下での攻防で立て続けにファールを犯し交代する。ジワジワとリードを広げる神戸医療だったが信和建設⑯笠原のドライブ、②廣山の3P、⑯笠原のフリースローで同点に追いつき、㉚保花の3Pで逆転し、20－23で第1クォーターが終了した。



【第2クォーター】

神戸医療はインサイドにボールを集め加点する。しかし、信和建設もペイント部分のディフェンスを頑張りなかなか得点を許さない。一方、信和建設は⑰真鍋のミドル、②廣山が3Pが決まりリードを広げる。神戸医療は残り7分でタイムアウトを取る。タイムアウト後、㉔宮田が加点、③朝比の活躍により逆転する。信和建設も㉚藤林が連続得点し再び逆転する。神戸医療③朝比の3Pが決まり32－32の同点となった所で信和建設はタイムアウトを請求した。タイムアウト後、神戸医療ベースとなり㉔宮田のフリースロー、⑮板敷のフローターが決まりリードを広げる。信和建設は⑨藤野のミドルで応戦するも、連続してブレイクからのレイアップを落としてしまいなかなか点差を縮めることができない、神戸医療㉙中村の3Pが決まり39－34の5点差となったところで信和建設が前半2回目のタイムアウトを取った。タイムアウト後、信和は②廣山のドライブに⑨藤野が合わせ加点、⑯笠原もフリースローを確実に決め点差を詰める。神戸医療は立て続けにインサイドで加点し43－38の5点差をつけ第2クォーターを終了した。

【第3クォーター】

信和建設㉚保花のドライブが決まりこのクォーターがスタート。神戸医療は㉓アサンがオフェンスリバウンドから加点。神戸医療は

㉙中村のドライブ、㉔宮田のシュートも決まりリードを広げる。㉙中村がフリースローを決め10点差、更に㉔宮田が連続得点し、14点差とこの日最大得点差となったところで信和建設がたまらずタイムアウトを取った。タイムアウト後、信和建設⑰真鍋が3Pを決める。神戸医療㉔宮田がポストプレーで加点、信和建設も⑰真鍋がゴール下で頑張り加点、㉚保花の3Pも決まる。神戸医療③朝比がドライブを決めれば、信和㉚保花もミドルを決める。ミスが続いた神戸医療は残り1分半でタイムアウトを取る。タイムアウト後、神戸医療は前からプレッシャーをかけるが信和⑬小島がタフショットを決める。信和建設はディフェンスを頑張りブレイクから㉚保花がバスケットボールカウントを貰いボーナスショットも決め点差を詰める。神戸医療は㉚フセインが3Pを決めリードを広げる。信和建設は②廣山がブザービートを鮮やかに沈め65－61と神戸医療が4点リードでこのクォーターが終了した。

【第4クォーター】

信和建設⑯笠原のミドルシュートが決まりこのクォーターがスタートした。神戸医療③朝比がドライブからファールを貰う。フリースローの2本目を外すも㉓アサンがリバウンドをねじ込み、点差を広げる。更に③朝比がミドルを決める。信和建設は⑨藤野がドライブで加点、再び5点差とする。神戸医療は㉔宮田が技ありのレイアップ、3Pと連続して得点し再び10点差となったところで信和建設がたまらずタイムアウトを請求した。タイムアウト後、神戸医療はディフェンスをゾーンに変えるが信和建設⑬小島が加点。③生越のミドルも決まり再び点差を詰める。神戸医療はゾーンを継続するも信和建設㉚藤林のミドルが決まり4点差となる。神戸医療は㉔宮田が3Pを決め主導権を譲らない。しかし信和建設⑰真鍋もすぐさま3Pを決め返す。神戸医療はシュートをミスするも㉚フセインがオフェンスリバウンドをねじ込み、更に㉔宮田のブレイクも決まりリードを広げる。神戸医療は㉔宮田から㉚フセインへのパスが通り加点。三度10点差となった所で信和建設はタイムアウトを請求した。タイムアウト後、神戸医療ボールでのインバウンズを信和建設⑯笠原がスティールしファールを貰いフリースローで加点する。神戸医療はハードディフェンスするもファールとなりフリースローを与えてしまう。信和建設は決めきれないまでもフリースローで加点し点差を詰める。残り1分半で9点差の中、信和建設はスティールから㉚藤林が3Pを決め6点差とする。神戸医療㉔宮田がファールを貰いフリースローを2本決める（8点差）。信和建設㉚保花が3Pを決め5点差となり、ファールを貰ったところで神戸医療がタイムアウトを請求した。タイムアウト後、㉔宮田がフリースローを2本決める。（7点差）信和建設は再び㉚保花が3Pを沈め4点差とする。神戸医療は信和建設のハードディフェンスの前にボールを



運べずターンオーバーを犯してしまう。信和建設は㉚保花がインバウンズから加点し2点差とする。残り41秒神戸医療㉚フセインがファールを貰いフリースローを2本決め4点差とするも、信和建設⑰真鍋が3Pを決め1点差とする。残り26秒神戸医療㉔宮田がファールを貰いフリースローを得る。これを1本沈め2点差とする。残り8秒信和⑯笠原が技ありのドライブを見事沈め同点に。神戸医療はタイムアウトを請求した。残り8秒、神戸医療は③朝比に託し、㉓アサンとのピックプレーから、㉚フセインのスクリーンプレーで㉚フセインがブザーと同時にゴール下を決め激闘を制した。

最終スコアは96－94。

神戸医療未来大学は嬉しい初優勝となった。また天皇杯の第一次ラウンドの出場権を獲得した。



女子

決勝

武庫川女子大学 73〔4－21・18－12〕56 関西学院大学
 24－17・27－6

武庫川女子大学							関西学院大学						
反則	自投	②野	③野	得点	No.		No.	得点	③野	②野	自投	反則	
—	—	—	—	—	北口 菜奈	4	0	長田 未来	2	0	1	0	1
1	3	3	0	9	那須みらい	5	2	田中 祐理	9	3	0	0	2
3	0	2	1	7	藤田 真生	6	3	有墨 暹野	—	—	—	—	—
2	0	5	2	16	紺屋 那海	7	5	前田 心咲	10	0	4	2	2
1	0	0	0	0	阪本 咲希	8	7	片松 菜優	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	岩永 慶香	9	8	柴山 梨菜	—	—	—	—	—
2	1	4	1	12	若林 紅葉	10	10	金子 紗里	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	岡本 百加	12	17	北之防希光	2	0	1	0	0
1	0	1	0	2	琴 風沙	14	18	木下万悠子	0	0	0	0	1
3	0	8	0	16	ﾄﾗｵﾚ・ｾﾄｳ	15	22	石原 紀菜	13	0	4	5	3
1	0	3	0	6	名村 沙江	16	23	辻畑 有咲	5	1	1	0	2
0	0	0	1	3	瀬川 心暉	20	25	有原 夢乃	—	—	—	—	—
0	0	1	0	2	榎本菜々花	22	26	大崎 莉瑚	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	高橋 楓	23	45	永野 真光	4	0	2	0	2
—	—	—	—	—	宮本 鈴音	25	75	前田 芽衣	11	0	4	3	0
—	—	—	—	—	山田 美空	26	87	斉藤 波菜	0	0	0	0	1
14 4 27 5 73							56 4 17 10 14						

戦評

2年ぶりに開催された今大会。勝ったチームは9/17から始まる皇后杯1次ラウンドへの出場権を得る。

対戦カードは2年前と同じ関西学院大学と前大会の女王武庫川女子大学。

注目の一戦。最初に流れを掴んだのは関学大。第1クォーターから⑯前田を中心に得点を積み重ね、大量リードを奪った。対する武庫川も⑮セトウの高さを活かした攻撃を試みるが関学大の厳しい

ディフェンスに阻まれ苦しい展開が続いた。

しかし、武庫川⑦紺谷が意地を見せ着実に得点を積み重ねると第4クォーターに逆転しそのまま主導権を渡さず73-56で試合終了。武庫川が優勝杯を手にした。



【第1クォーター】

両チーム厳しいディフェンスを敷き、しばらく得点の決まらない時間が続くが関学大⑥前田の得点を口火に②石原が連続得点を挙げるなど猛攻が続いた。対する武庫川は⑮セトウ、⑫岡本を中心に攻撃を組み立てるがゴールに嫌われる。流れを変えたい武庫川は開始5分タイムアウトを請求し体勢を整える。しかし関学大の勢いは止まらず4-21関学大が大量リードを奪い終了。

【第2クォーター】

関学大⑤前田が早々にシュートを決めリードを広げる。しかし、負けじと武庫川も②瀬川が3Pシュートを沈め反撃する。リズムに乗りかけるが、関学大が厳しいディフェンスがミス誘い武庫川の追従を許さない。

決めては決め返す展開が続いた第2クォーターは22-33関学大のリードで終了。



【第3クォーター】

開始から武庫川⑮セトウが果敢にリバウンドに飛び込み得点を決めると⑩若林も3Pシュートを沈め流れを引き寄せる。たまたら関学大はタイムアウトを請求し落ち着きを取り戻す。タイムアウト終

了後すぐに、関学大⑨前田が得点をあげ武庫川の流れを断ち切ろうとするも、武庫川⑦紺谷の勢いが止まらず連続得点を許す。展開が大きく動いた第3クォーターは46-50で着実に得点を重ねた武庫川が点差を縮めて最終クォーターへ。

【第4クォーター】

開始早々武庫川⑮セトウ、⑩若林が連続で得点を重ね、ついに逆転に成功する。対する関学大も⑨前田がドライブからファウルを貰いながらもシュートを決め、バスケットボールカウント、ワンスローも沈め応戦する。

関学大は主導権を取り戻そうと果敢に攻撃を仕掛けるが、流れを掴んだ武庫川の流れは止まらず、外から⑦紺谷が3Pシュート、中では⑮セトウのゴール下のシュートを次々と決めた。関学大は武庫川の猛攻を抑えることができず73-56で試合終了。武庫川が勝利を掴んだ。



表彰式

令和4年8月28日(日)グリーンアリーナ神戸にておこなわれた第77回兵庫県総合バスケットボール選手権大会 兼 第98回天皇杯・第89回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会兵庫県代表決定戦の男女決勝戦の前に、2021年度兵庫県バスケットボール協会三賞の表彰式がおこなわれました。

例年なら年度末におこなわれる兵庫県バスケットボールカーニバルで表彰式をおこなうのが慣例ですがコロナ禍で開催中止になったことを受け県総合で表彰式が執り行われました。



<2021年度 表彰>

最優秀賞 ゴッド・ドア (全国Jrウィンターカップ 優勝)



優秀賞 百合学院中学校 女子
(全国Jrウィンターカップ ベスト8)



普及賞 明石高専女子 (全国高専大会 ベスト4)



普及賞 向井鍛工ハンマーズ
(全日本社会人0-50選手権大会 第3位)



第5回全日本社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会 近畿ブロック予選

信和建設シニア（O-40男子）が2大会連続2回目の優勝!!

令和4年9月4日（日）和歌山県橋本市・和歌山県立橋本体育館

《総評》

第5回全日本社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会近畿ブロック大会が9月3日（土）、4日（日）の日程で和歌山県橋本市で開催された。

O-40男子では信和建設シニアが2大会連続（コロナ禍で第3回、第4回は中止）2回目の優勝を飾った。またDARUMAが第2位、Colorsが第5位、COMPLEXが第6位、G.G.DVLS.KARENが第8位と出場した5チーム全てが11月に茨城県水戸市で行われる第5回全日本社会人O-40バスケットボール選手権大会への出場権を獲得した。

O-40女子の三木CLUB、が第3位、O-50男子の向井鍛工ハンマーズが第2位で両チームも前述の全国大会（O-40・O-50）への出場権を獲得した。



男 子

O-40

決 勝

信和建設シニア 68 $\left[\begin{array}{c} 15 - 11 \cdot 10 - 13 \\ 21 - 8 \cdot 22 - 14 \end{array} \right]$ 46 DARUMA

信和建設シニア										DARUMA									
反則	自投	②野	③野	得点			No	No		得点	③野	②野	自投	反則					
3	2	3	0	8	本田	剛	0	0	水田	潤史	3	0	1	1	0				
1	0	1	1	5	愛宕	宏文	6	2	花房	譲	—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—	小山	晃平	7	3	菅野	伸彦	2	0	1	0	1				
0	3	2	0	7	城山	大樹	9	7	重吉	将和	—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—	山中	貴弘	11	8	柳井	伸之	4	0	2	0	1				
—	—	—	—	—	福井	隆博	13	9	鈴木	徹	8	0	4	0	2				
0	0	4	3	17	富永	大	14	13	橋田	洋平	0	0	0	0	1				
1	0	1	1	5	福島	潤	15	15	眞島	武弘	4	0	1	2	4				
—	—	—	—	—	戸井源二郎		17	16	中塚	宏明	2	0	1	0	0				
0	1	2	0	5	岡崎	公尚	24	17	斧田	幸次	12	0	6	0	0				
—	—	—	—	—	岩井	一紘	25	21	内田	裕一	—	—	—	—	—				
1	0	2	0	4	菊池	真	27	22	打越	啓	4	0	2	0	1				
—	—	—	—	—	黒田	康始	29	30	田川	勇貴	7	0	3	1	3				
1	1	1	0	3	近藤	伸	37	31	松下	善律	—	—	—	—	—				
2	0	3	0	6	小川	真哉	45	39	富士木健治		0	0	0	0	0				
0	0	4	0	8	山本	賀信	56	44	前川	勇志	0	0	0	0	2				
9 7 23 5 68										46 0 21 4 15									

戦評

決勝は第1シードで2大会連続の連覇を狙う信和建設シニアと初の決勝進出となった第3シードのDARUMAとの対戦となった。共に準決勝では大阪勢と激戦となり、共に1点差の試合を制し決勝へと駒を進めた兵庫県の両チームでの決勝となった。尚、近畿ブロック予選で同県同士の決勝は初。

【第1クォーター】

信和建設シニアは⑩本田、⑥愛宕、⑨城山、⑳菊池、㉑近藤、DARUMAは⑩水田、③菅野、㉒田川、㉓富士木、㉔前川でスタート。

信和建設シニアは⑩本田がシュートを決め先制、DARUMAも㉒田川がドライブを決め譲らない。信和建設シニアは⑨城山、DARUMAは㉒田川を中心に攻める。お互いになかなかシュートが決まらない中、信和建設シニア⑭富永が3Pを決め引き離す。DARUMAも⑮眞島がゴール下をねじ込み意地を見せる。終盤に信和建設シニア⑮福島が3Pが決まり点差を広げるもDARUMA⑰斧田がタフショットを沈め15-11と信和建設シニアがリードし第1クォーターを終了した。

【第2クォーター】

お互いになかなかシュートの決まらない中、DARUMAは㉑打越がスティールから加点、③菅野もシュートを決め点差を詰める。信和建設シニアは㉑近藤のフリースローで加点することがごとくシュートが外れ厳しい展開となる。DARUMAは⑮眞島がファールを貰って得たフリースローを確実に決め、更に⑰斧田、⑨鈴木が加点し追いつく。信和建設シニアは⑮福島のシュート、㉕小川がリバウンドからゴール下を沈め引き離すがDARUMA⑩水田も加点し、25-24と信和建設シニアが1点リードで前半が終了した。

【第3クォーター】

信和建設シニアは⑨城山、㉑近藤のシュートが決まりリードを広げる。DARUMAは⑨鈴木、⑰斧田のシュートが決まるも単発となる。信和建設シニア⑭富永のシュートが3連続で決まり一気に点差が開く。得点がなかなか出来ないDARUMAを尻目に信和建設シニア㉖山本がブレイクで連続得点し、この試合最大得点差となった所でDARUMAが堪らずタイムアウトを取る。タイムアウト後も信和建設シニア㉕小川のブレイクで加点し、完全に信和建設シニアペースとなる。終盤、DARUMA⑨鈴木、⑰斧田が意地を見せるも、なかなかシュートの決まらなかった信和建設シニア㉗岡崎も連続でシュート決め46-32と信和建設シニアが14点にリードを広げてこのクォーターが終了した。

【第4クォーター】

DARUMAは㉑打越、⑧柳井が加点し点差を積める。信和建設シニアは⑩本田がファールで得たフリースローを確実に決める。⑭富永のこの日3本目の3Pも決まり点差が広がる。更に信和建設シニアは⑩本田、㉗菊池、⑭富永が加点し20点差となる。DARUMAも代わって出場した⑮中塚、⑧柳井の思い通りの良いシュートが決まり意地を見せるが点差を縮めることが出来ず68-48のスコアで信和建設シニアが2大会連続2回目の優勝を飾った。

2日間で4試合という超過密スケジュールの中、初の兵庫県勢同士の決勝戦を戦った両チームに拍手を送りたい。またO-40男子に出場した5チーム全てが全国大会への出場権を得たことも偉業であり全チームの健闘を讃えたい。



令和 4 年度全国高等学校バスケットボール選手権大会兵庫県予選 第76回兵庫県民体育大会バスケットボール競技 令和4年10月9日（土）～10月30日（日） グリーンアリーナ神戸、兵庫県内高等学校 男子・報徳学園が2年ぶり5回目の優勝 女子・三田松聖が三連覇！

《総評》

2022年10月、コロナ第7派が落ち着いて観客制限が緩和され始めたところ、全国選手権（ウインターカップ）県予選が開催された。例年と同様に30日の準決勝は午前中に行われ、午後にはU15ジュニアウインターカップの男女決勝が行われた。なお、29日の男女決勝はサンテレビにて生中継された。

女子の準決勝、神戸龍谷は延長戦の大接戦の末に77－72で県総体の覇者・市尼崎を倒した。神戸龍谷③福家が29得点と活躍し、決勝の常連校を下した。三田松聖は、第1Qこそ19－17と園田に粘られたものの、78－49で圧勝した。女子の3位決定戦は、第1Qに6本の3Pを決めた園田が17－22とリードしたものの、市尼崎が第3Qに逆転し、70－64で勝利した。女子決勝は、神戸龍谷の猛追を交わした三田松聖が逃げ切り、三連覇を達成した。（詳細は戦評参照）。

男子の準決勝、報徳は育英に対して45－32とリードを奪うも試合終盤に追い上げられ、84－80と逃げ切った。育英⑦上野は3Pシュート6本を含む28得点と健闘したが、勝利には一歩及ばなかった。村野工業と関学はしのぎを削るシーソーゲームとなり、村野工業が71－66で勝利した。関学はインサイドで優位に立ったが、村野工業は粘りのディフェンと速攻で活路を開き、⑤井出上が3Pシュート4本を含む31得点と活躍した。男子の3位決定戦も白熱の大接戦となった。第4Qで逆転に成功した育英が、85－81で勝利した。男子決勝は、安定した試合運びで報徳が村野工業を81－62で破り、2年ぶり5回目の優勝を果たした。（詳細は戦評参照）。



戦評

第1Q、村野工⑤井手上のバスケットカウントで試合が始まる。報徳はハーフコートマンツーマンディフェンスで堅実に守り、②④西村がペイントエリアでの1on1、リバウンドシュート、3Pシュートと活躍し得点を重ねる。村野工は報徳のシューターの動きを封じてリズムを作り、④寺本、⑤井手上が3Pシュートを沈める。一進一退の攻防が繰り返される。残り40秒、報徳はオールコートゾーンプレスディフェンスで村野工のミスを誘い連続得点に成功し、25－18報徳7点リードで第1クォーター終了。

第2Q、両チームともにゾーンディフェンスで始まる。報徳はインサイドを軸にゾーンディフェンスを切り崩しにかかる。村野工は

ドライブから得点機会を狙う。両チーム粘り強いディフェンスで得点を簡単に許さず、膠着状態が続く。36－28報徳リードで前半終了。

第3Q、村野工が速攻で点差を6点に縮めると、すかさず報徳はインサイドでシュートをねじ込む。両チーム1歩も譲らない熱戦を展開する。残り6分、村野工⑤井手上、⑥諸井が3Pシュートを決め連続得点し、点差を4点にまで縮めたところで報徳はタイムアウトを要求。タイムアウト後、一進一退の攻防が繰り返される。終了間際、報徳⑦山崎が3Pシュートを決め、55－47と点差を元に戻し、報徳リードで最終クォーターへ。

第4Q開始直後、村野工が報徳のボールを奪って点差を縮めると、報徳がすぐに点差を元に戻す。残り7分、報徳が村野工の攻撃を封じてリズムを掴み、多彩な攻撃から⑦山崎が本日3本目の3Pシュートを決めて点差を2桁としたところで、村野工はタイムアウトを要求。反撃を試みる村野工であったが、報徳⑦井藤の活躍で点差を15点にさらに広げたところで、村野工は再びタイムアウトを要求。流れを作って追いつきたい村野工はオールコートのゾーンプレスディフェンスで仕掛けるが、報徳はこれを落ち着いて攻略した。81－62で試合が終了し、報徳が全国大会出場権を獲得した。



女子

決勝

三田松聖 69												神戸龍谷 65											
三田松聖						神戸龍谷						三田松聖						神戸龍谷					
反則	自投	②野	③野	得点		反則	自投	②野	③野	得点		反則	自投	②野	③野	得点		反則	自投	②野	③野	得点	
0	0	1	0	2	野下 愛未	2	1	北村 悠生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	2	0	1	5	瀬戸三央奈	3	3	福家 咲緑	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
—	—	—	—	—	崔 瑠陽	8	6	數田 萌珈	9	3	0	0	0	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	東中 梓	9	7	森井 玲名	0	0	0	0	0	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	竹内 愛	10	8	島谷 芽依	18	1	5	5	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0	0	2	0	4	竹中 凜	13	14	奥丁 陽向	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	東 寧音	16	23	北村 真生	12	4	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	渡部 陽美	17	25	高橋 未来	0	0	0	0	0	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	0	4	3	17	米倉 歌音	23	39	西村 柊柊	4	0	2	0	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	2	10	0	22	馬場 柚樹	25	41	森藤 結	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	魚住 夏鈴	29	45	山本 彩乃	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	渡部 陽愛	42	53	櫻井 彩那	6	0	3	0	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	0	2	0	4	岡田 心和	48	56	十倉 愉	12	0	6	0	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0	1	7	0	15	小林 雛子	52	66	藤田 美華	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	白箸 空知	77	71	河野 心菜	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	5	26	4	69							65	8	18	5	9								

戦評

第1Q、互いにマンツーマンディフェンスで始まる。三田松聖は開始から②馬場のドライブの3連続得点、③瀬戸の3Pシュートで7－2とし、神戸龍谷は開始2分でタイムアウト。神戸龍谷はディフェンスから持ち前の足を動かし⑧島谷、⑤⑥十倉が得点をするも、21－13で三田松聖がリードして第1Q終了。

第2Q、神戸龍谷は⑥數田の3Pで流れを取り戻しかけたが、三田松聖③米倉が3Pを3連続で沈め、残り5分32－22と神戸龍谷の追隨を許さない。神戸龍谷は⑧島谷がリバウンドシュートなどで粘るが、三田松聖が神戸龍谷のドライブ、ドリブルキックアウトに対しディフェンスで動きを封じる。三田松聖は負傷した⑬竹中と交代した⑫小林と、②馬場が1on1で確実に得点を重ね、44－29三田松聖リードで前半を終えた。

第3Q、三田松聖②馬場に対し執拗なディフェンスから神戸龍谷⑤⑥十倉が速攻を決める。しかし、三田松聖は②米倉、⑫小林の1on1で個人技を発揮、徐々に神戸龍谷を引き離しにかかる。三田松聖は残り4分59－36とこのゲーム最大得点差23点とする。一方の神戸龍谷は②高橋の3Pなどで食いさがるも61－45で三田松聖リードで第3Q終了。

第4Q、神戸龍谷は開始直後の②高橋の3Pを皮切りにオールコートでディフェンスから仕掛け、流れを一気に引き寄せる。三田松聖の1on1を押さえ、⑥十倉のドライブ、キックアウトからの⑧島谷の3Pの得点などで残り4分65－59と1桁の得点差にする。その後一進一退の攻防が続き、残り1分15秒67－63三田松聖リードのときに神戸龍谷は最後のタイムアウトを取り、勝負に出る。しかし三田松聖が神戸龍谷の追い上げを振り切り、69－65で勝利。神戸龍谷は第4Q、8－20と猛追したが、前日の準決勝の市尼崎戦で29点を取った神戸龍谷③福家を三田松聖のディフェンスに4点に抑えられたこともあり、一歩及ばなかった。こうして三田松聖は3連覇となる優勝を決めた。



Jr.ウインターカップ2022年度

第3回 全国U15バスケットボール選手権大会兵庫県予選

兵庫県立総合体育館（22日）
グリーンアリーナ神戸（29日）

令和4年10月22日（土）・29日（土）
グリーンアリーナ神戸

《総評》

令和4年10月22日（土）29日（土）の2日間、Jr.ウインターカップ2022年度 第3回全国U15バスケットボール選手権大会兵庫県予選が行われた。

予選を勝ち抜いたチームや推薦を受けたチームが中学校・クラブ・Bリーグの垣根を超えた大会が行われた。

男子はゴッドドアが2年連続の優勝。女子はNorthWaveが初優勝を果たした。

男女優勝チームは東京で行わるJr.ウインターカップ2022-23に出場する。

男 子																			
決 勝																			
ゴッドドア										BRUINS ashiya									
ゴッドドア										BRUINS ashiya									
反則	自投	②野	③野	得点						得点	③野	②野	自投	反則					
3	4	1	14	肥塚 琉生	4	0	中西 淳希	10		10		4	2	3					
1	5			戸田 湧大	5	1	佐合 智樹	0											
1		1	1	田崎 陽大	11	4	川口 悠翔	12	1	4	1	2							
				小田原唯人	18	5	静間 脩人	16	4	2		3							
				久保星太郎	20	6	中野竜之介	0											
3	3	6		野津 洸創	21	7	出口心太郎	0											
2		2	2	常深 星良	24	8	宇山 貴琉	9		3	3	3							
				村松優衣斗	33	9	徳永 龍人	0											
1		4	2	村井裕之介	51	10	浅田 幸大	0											
1	1	5		山本 優斗	60	23	寺澤 煌月	3	1			2							
				渡部 秀志	66														
				浅井 智也	75														
3		1		塩川 結也	77														
1				橋 利一	91														
13 12 23 6 76										50 6 13 6 13									

戦評

1Q

ゴッドドアは⑤戸田、②野津、②④常深、⑤⑪村井、⑥⑩山本の5人。BRUINSは⑩中西、④川口、⑤⑮静間、⑧⑲宇山、②③寺澤の5人でスタート。ゲームスタートから1分間は両チーム無得点の時間が続いたが、ゴッドドア⑤戸田のフリースローで先取点。その後も②⑫野津のドライブからのシュートや②④常深の3Pなど多彩な攻撃でリードを広げていく。BRUINSは②③寺澤の3Pで反撃するも、そのほかの3Pが入らず、24-7でゴッドドアがリードする。

2Q

開始すぐはゴッドドア④肥塚のベネトレイトからシュートとアシストが見られるも、その後はBRUINSの積極的な攻めによって、流

れがBRUINSに傾く。しかし、悪い流れの時には⑫⑪村井の3Pやカットインなどで流れを呼び戻し、41-18でゴッドドアがリードを広げる。

3Q

ゴッドドアは⑥⑩山本がオフェンスリバウンドからシュートに始まり、⑤⑮戸田のドライブ、⑤⑪村井、②④常深の3Pが立て続けに決まり、リードを広げる。BRUINSも⑩⑫中西がミドルレンジからブルアップシュートやリバウンドから粘りを見せてシュートを決めるなど健闘するも64-30でゴッドドアがリード。

4Q

ゴッドドア②野津のバスケットカウントが決まり、そのままゴッドドアの流れて進むかと思われたが、その後BRUINSの④川口のバスケットカウントや⑤⑮静間が3Pを3本決め、流れを引き寄せる。最後の最後までお互いに全力で戦い抜き、76-50でゴッドドアが2年連続となるJrウインターカップへの出場を決めた。初めての決勝の舞台でも、堂々とした戦いを見せたBRUINSの健闘にも賛辞を贈りたい。

女 子																			
決 勝																			
North Wave										百合学院									
North Wave										百合学院									
反則	自投	②野	③野	得点						得点	③野	②野	自投	反則					
	2			2	山本 侑利	4	4	黒田 希歩	10			5		2					
1	8	6	6	38	宮城 美海	5	5	廣田 暲	10	1	3	1	3						
				0	若山明花音	6	6	古本 美花	0										
				0	本多裕理菜	7	7	澤田 侑希	7	1	2		2						
		2		4	濱田 優	8	8	島内 詩香	4		1	2	1						
1		2		4	吉田 爽乃	9	9	田中 杏	0				2						
					工藤 結芽	10	10	大倉 侑奈	15	1	6		1						
		1		2	長田 泉希	11	11	佐藤 花楓											
				0	南田 彩葉	12	12	前 知佐子											
3	2		2	8	中野 杏奈	13	13	速水 純里	2		1		2						
					白鳥 朔妃	14	14	石山 紗衣	2		1								
3	2	2	1	9	山岡 千桜	15	15	山本有珠希											
								16	片山菜々子	0									
								17	森 涼風										
								18	笹森 彩花										
8 14 13 9 67										50 3 19 3 13									

戦評

1Q

百合学院④黒田、⑤⑮廣田、⑦⑮澤田、⑬⑮速水、⑭⑮石山の5人。

North Waveは⑤⑮宮城、⑨⑮吉田、⑪⑮長田、⑬⑮中野、⑮⑮山岡の5人でスタート。百合学院⑭⑮石山がポストプレーで先取点をとるも、North Wave⑤⑮宮城がドライブからの得点、その後も3Pを決める。1Qの終わりにはNorth Wave⑮⑮山岡のダブルクラッチが決まり、19-4でノースがリードをする。

2Q

開始直後にNorth Wave⑮⑮山岡のトリッキーなパスからのローポストへの合わせで得点を決める。そのままNorth Waveのペースになると思いきや、百合学院⑤⑮廣田の3Pを皮切りに、④⑮黒田のポストプレーから点を奪い、流れを引き寄せる。2Qは百合学院が食らいつく形となった。

百合学院⑦⑮澤田が3Pを決めると、North Wave⑤⑮宮城が決め返す。その後百合学院⑦⑮澤田のユーロステップからのレイアップやリバウンドからのシュートで点差を詰めることができたが、NorthWaveのリードは変わらず、前半を終える。

3Q

3QもNorthWaveのペースは変わらない。⑤⑮宮城が3Pシュートを決めると、その後はピック&ロールを使い、ドライブでディフェンスを切り裂く。百合学院はファールで止めることが多くなったが、⑤⑮宮城はフリースローもしっかりと決めていく。百合学院も曲げずに⑦⑮澤田の3Pシュート、⑩⑮大倉の連続得点などで粘るも、NorthWaveが4点リードを広げて3Qを終える。

4Q

追いつきたい百合学院は、オールコートプレスをかけて、ディフェンスの強度を上げる。④⑮黒田、⑩⑮大倉の得点で点差を詰めようとするも、4Qも⑤⑮宮城の3Pシュートは止まらない。また、⑮⑮山岡の3Pシュートも決まり、最終スコア67-50でNorthWaveが初優勝を飾る。最後まであきらめずにリバウンドを続けた百合学院にも賛辞を贈りたい。



第5回 全日本社会人バスケットボール選手権大会

BLUE DEVILSが2年連続3回目の優勝! アクアテックサンシャインズが初優勝!

令和4年11月5日(土) 神戸常盤アリーナ

《總評》

第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会が9月10日（土）19日（祝月）、10月15日（土）、11月5日（土）の日程で開催された。

男子はBLUE DEVILSが接戦を制し2年連続3回目の優勝を果たした。女子はアクアテックサンシャインズが初優勝した。

男子は上位2チーム（BLUE DEVILS、Dpro Lights）、女子は優勝したアクアテックサンシャインズの3チームが12月に大阪府大阪市でおこなわれる第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会 近畿ブロック予選への出場権を獲得した。

男子

決勝

BLUE DEVILS 73 $\left[\begin{array}{cccc} 23 & - & 25 & \cdot & 16 & - & 15 \\ 27 & - & 10 & \cdot & 7 & - & 16 \end{array} \right]$ 66 Dpro Lights

BLUE DEVILS										Dpro Lights									
反則	自投	②野	③野	得点			No.	No.				得点	③野	②野	自投	反則			
—	—	—	—	—	西中	祐希	0	0	安陪	茂男	2	0	1	0	0	0			
—	—	—	—	—	大山	拓也	6	3	小畑	孝太	0	0	0	0	0	0			
1	0	0	0	0	足立	祐太	7	4	三木	達朗	0	0	0	0	0	0			
—	—	—	—	—	大原	聖司	9	7	船戸	瑞貴	0	0	0	0	0	2			
2	2	5	0	12	大槻	翼	10	8	北村	聖	6	2	0	0	0	0			
2	1	1	1	6	角田	優二	13	11	赤田	智	2	0	1	0	0	0			
2	2	0	2	8	酒屋	奎太	14	14	棚谷	修平	—	—	—	—	—	—			
0	0	0	0	0	山本	真聖	16	15	古谷	寿樹	8	1	2	1	5	5			
2	0	2	0	4	中尾	良	21	19	桑田	和英	—	—	—	—	—	—			
0	0	0	0	0	太瀬	達哉	23	21	堀本	侑汰	17	1	6	2	2	2			
1	2	2	3	15	前田	一帆	25	24	藤田	絢大	3	1	0	0	0	1			
—	—	—	—	—	山路	哲司	32	29	小島	惇平	0	0	0	0	0	0			
1	3	6	1	18	山本	真弥	33	34	田邊	裕作	13	1	5	0	5	5			
—	—	—	—	—	山田	一輝	54	39	船山	裕士	13	0	6	1	3	3			
0	2	4	0	10	福永	陸人	77	73	赤木	紀元	2	0	1	0	0	0			
							91		久保	洋希	—	—	—	—	—	—			
11	12	20	7	73							66	6	22	4	18				

戦評

決勝は第1シードで2年連続の3回目の優勝を狙うBLUE DEVILSと、初の決勝進出で初優勝を狙うDpro Lightsとの対戦となった。共に決勝同日におこなわれた準決勝を接戦で制し決勝に進んできた。

【第1クォーター】

両チームマンツーマンのディフェンスでスタート。3ポイントを5本決めたDpro Lights、速攻、ゴール下シュート、3ポイントシュートと多彩なオフェンスをしかけるBLUE DEVILS。23対25と接戦になったが、Dpro Lightsが2点リードで1Q終了。

女子

決勝

アクアテック
サンシャインズ 76 $\left[\begin{array}{c} 19 - 18 \cdot 19 - 19 \\ 23 - 20 \cdot 15 - 16 \end{array} \right] 73$ BlueAngels

アクアテックサンシャインズ						BlueAngels							
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則
4	3	3	1	12	南方 晴菜	1	6	野口美香子	—	—	—	—	—
1	2	6	3	23	荒牧 伶苗	11	7	河内 菜那	0	0	0	0	0
3	1	6	0	13	迫田 愛莉	17	8	坂元 美幸	0	0	0	0	0
2	1	7	1	18	松岡 瑛子	18	11	福井 菜月	9	1	2	2	5
4	0	3	0	6	川本 ゆめ	19	12	小河 加奈	5	1	0	2	4
—	—	—	—	—	南谷 知佳	25	13	金田 美志	5	1	1	0	3
—	—	—	—	—	川口 莉彩	36	14	神足 悠子	0	0	0	0	0
0	0	2	0	2	梅野 志歩	62	16	田中 りえ	30	0	11	8	0
1	0	0	0	2	高階 愛子	71	17	金城 菜子	—	—	—	—	—
							31	小林 梨花	20	0	9	2	1
							39	大山 紗英	4	0	2	0	1
							41	村田 葵	—	—	—	—	—
15	7	27	5	76					73	3	25	14	14

戦評

決勝は新規参入で初出場、初優勝を狙うBlueAngelsと2大会ぶりに決勝に進出してきたアクアテックサンシャインズのカードとなった。

【第1クォーター】

女子決勝。BlueAngelsとアクアテックサンシャインズ（以下、アクアテック）の対戦。試合の立ち上がり、アクアテックボールから始まり、アクアテック⑭川本のリバウンドシュートが決まり先取点を取る。負けじとBlueAngelsも⑳大山のアシスト後に㉑金田の3Pシュートが決まり追いつく。ディフェンスは互いにハーフコートマンツーマンから始まる。BlueAngelsは㉒小林のインサイドを中心に攻めていっていたが、㉓田中をメンバーチェンジで投入し、㉔小林、㉕田中のビッグプレーヤーでインサイドを固めた。対するアクアテックは、㉖松岡、㉗荒牧のドライブインやファインプレーが増え、アウトサイド中心のスピード型プレーで攻めていくBlueAngels㉘田中に連続得点を許すも、アクアテックも㉙南方のスティールからのドライブが決まり巻き返していく。19-18のアクアテックリードで第1クォーター終了した。

【第2クォーター】

開始早々にアクアテック⑪荒牧の鋭いドライブイン、3Pシュートが連続に決まりアクアテックがリードしていく。BlueAngels⑬田中のバスケットカウントが決まり、BlueAngelsも粘りインサイドを中心に攻めていく。アクアテック⑪荒牧や⑬迫田のアウトサイドからによる得点が目立っていたが、BlueAngels⑬田中、⑬小林がいいリズムでシュートを打てるようになりシュート力も上がってきている。BlueAngels⑬田中、⑬小林による連続得点から、アクアテックにとっては苦しい時間だったが、第2クォーター終了間際に⑬松岡、⑪荒牧のドライブインで点数を返し、38-37とアクアテックリードで第2クォーター終了した。

【第3クォーター】

ディフェンスは前半と変わらずハーフコートマンツースで後半が開始した。

アクアテック⑬川本がステップインで先取点を取る。その後、⑭

松岡の3Pシュート、⑭迫田のドライブインと連続得点を重ねていき、前半終了間際の勢いが健在している。BlueAngelsのターンオーバーも続き、苦しい時間となっているがBlueAngels⑯田中の俊敏で華麗なターンシュートが決まり、その後も⑯田中の連続得点を重ねて流れに乗ってくる。BlueAngels⑰小林もゴール下シュートを決め、インサイドの強さも健在している。第3クォーター終了間際でBlueAngels⑱小林がバックシュートのブザービートを決め、61-57のアクアテックリードで第3クォーターが終了した。

【第4クォーター】

お互いの点差もなかなか開かず、4点差という緊張感ある雰囲気の中、第4クォーターが始まった。BlueAngels⑨大山が先取点を獲得した。アクアテックも⑪荒牧のミドルシュート、⑬松岡のバスケットカウント、その後も連続得点が決まり10点差が開く。BlueAngelsが堪らずタイムアウトを請求する。タイムアウト後BlueAngels⑫小河の3Pシュートが決まり、その後もBlueAngelsが⑬田中、⑭小林による連続得点を重ねてアクアテックに追いついていく。対するアクアテックはシュートを決めきれない時間が過ぎていく。苦しい時間帯の中、アクアテック①南方がBlueAngelsのチームファウルによるボーナスフリースローをもらい2本とも決めた。アクアテックがBlueAngelsにリードを許さず、BlueAngelsがタイムアウトを請求する。BlueAngelsはなかなか得点につなげることができず、アクアテック⑬迫田⑬松岡がチームファウルによるボーナスフリースローで得点を重ねていく。BlueAngels⑫小河のドライブインでファウルをもらい2本とも決めきり、アクアテックがタイムアウトを請求する。最後までBlueAngelsが粘りをを見せてどちらが勝つかわからなかったが、試合終了のブザーが鳴り、76-73でアクアテックサンシャインズが初優勝を飾った。



第76回 兵庫県民バスケットボール大会（一般の部）

BLUE DEVILS、OTCくきやが制覇!!

令和4年12月4日（日）王子スポーツセンター

《総評》

第76回兵庫県民バスケットボール大会（一般の部）が11月19日（土）23日（祝水）、12月3日（土）、4日日（日）の日程で開催された。

男子はBLUE DEVILS、女子はOTCくきやが制した。

男 子

決 勝

BLUE DEVILS 91 [20－15・21－23] 69 BUBBLES
33－ 9・17－22

BLUE DEVILS										BUBBLES									
反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点
—	—	—	—	—	西中	祐希	0	3	中野	望夢	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	大山	拓也	6	6	古谷	太一	22	4	5	0	1	—	—	—	—
—	—	—	—	—	足立	祐太	7	8	米田	梨央	12	0	6	0	1	—	—	—	—
—	—	—	—	—	大原	聖司	9	10	豊永	晴達	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	1	9	0	19	大槻	翼	10	11	大町	堯舜	10	1	3	1	1	—	—	—	—
—	—	—	—	—	角田	優二	13	13	畠山	義人	2	0	1	0	0	—	—	—	—
—	—	—	—	—	酒居	奎太	14	16	田中	省吾	4	0	2	0	1	—	—	—	—
3	0	0	0	0	山本	真聖	16	18	藤田	大地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	中尾	良	21	24	藤田	雅弥	2	0	1	0	3	—	—	—	—
1	0	1	1	5	太瀬	達哉	23	28	山本	泰右	5	1	1	0	3	—	—	—	—
0	0	8	4	28	前田	一帆	25	34	比嘉	すずな	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	山路	哲司	32	51	関	強	12	4	0	0	1	—	—	—	—
1	0	4	6	26	山本	真弥	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	山田	一輝	54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	0	2	3	13	福永	陸人	77	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

8 1 24 14 91

69 10 19 1 11



戦評

決勝は第1シードで地域リーグのBUBBLESとオープンカテゴリーを制したBLUE DEVILSとの対戦となった。

【第1クォーター】

BLUE DEVILSは⑤前田、BUBBLESは⑥古谷を中心に攻める。BLUE DEVILSは⑤前田の3Pで先制、③山本のプレイクも決まり5－0とする。ミスの多かったBUBBLESは④関の3P、⑥古谷のミドルが決まり逆転する。BLUE DEVILSは③山本の3P、⑤前田のフローターで加点、③太瀬の3Pも決まり13－6とする。なかなか得点が出ないBUBBLESは⑥古谷がオフェンスリバウンドから押し込み加点するがBLUE DEVILS③山本がこのクォーター2本目3Pが決まり差を広げる。BUBBLESも⑪大町のゴールアタックで加点するも20－16とBLUE DEVILSリードでこのクォーターを終了した。

【第2クォーター】

BUBBLESは3－2、BLUE DEVILSは2－3と共にゾーンでこのクォーターがスタート。お互いにミスが続くがBUBBLESがリバウンドに競り勝ち、⑥古谷の連続得点で追いつく。一方BLUE DEVILSはミスが続きタイムアウトを請求した。タイムアウト明けBUBBLES④関が3Pを決め逆転。BLUE DEVILSも⑩大槻が決め譲らない。BLUE DEVILS③山本、⑦福永の3Pが連続で決まり点差が開く。BUBBLES②山本が連続得点し意地を見せる。



BUBBLESは選手交代を機に3－2を2－3ゾーンに変え、相手のミスを誘い⑧米田が連続して得点し追いつける。BUBBLES⑥古谷がゴール下を決め逆転に成功するがBLUE DEVILS③山本がこの日4本目の3Pを決めBULE DEVILSがリードする。BUBBLES③畠山のミドルが決まり同点に追いつくもBLUE DEVILS⑩大槻がバスケットカウントでボーナスショットも決め譲らない。⑦福永の3Pも決まり41－38とBLUE DEVILSが3点リードし前半が終了した。

【第3クォーター】

BUBBLESは3－2ゾーンでスタート。BLUE DEVILS⑦福永がドライブで切り崩した後半がスタートした。BUBBLESは⑪大町が3Pを決める。BLUE DEVILS⑩大槻が相手のミスを突きブレイクで加点。BUBBLESはターンオーバーが続き得点が出ない。BLUE DEVILSは相手のミスからブレイクで得点し、51－41と10点差となった所でBUBBLESがタイムアウトを要求した。タイムアウト後、BUBBLESはディフェンスを2－3ゾーンに変えるもBLUE DEVILS⑤前田が3Pを決めリードを広げる。BUBBLESはディフェンスをマンツーマンに変えるがBLUE DEVILS③山本がこの日5本目の3Pを決める。その後もBLUE DEVILSペースで進みBUBBLESも再度タイムアウトを取り、立て直しを図るがBLUE DEVILSが74－47と一気にリードを広げこのクォーターが終了した。

【第4クォーター】

後のないBUBBLESは⑪大町が果敢にゴールアタックするもBLUE DEVILSのディフェンスの前に得点することが出来ない。BLUE DEVILSはブレイクから③山本が加点。BUBBLESは⑥古谷が連続して3Pを決め、更に得点し孤児奮闘する。ミスの続いたBLUE DEVILSはタイムアウトを要求し立て直す。BLUE DEVILSは早いトランジションから加点し続け91－67と圧倒し数年ぶりに開催された県民大会を制した。



女 子

決 勝

OTCくきや 96 [28－17・22－14] 74 播磨ホワイト
25－27・21－16 バックス

OTCくきや										播磨ホワイトバックス									
反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点
4	2	4	3	19	唐澤	美空	5	0	板井	かな	18	2	3	6	1	—	—	—	—
1	0	0	5	15	屋宜	百合香	6	8	牛島	優佳	4	0	2	0	0	—	—	—	—
1	0	1	0	2	阿部	瑞稀	7	10	井上	真綾	3	1	0	0	4	—	—	—	—
—	—	—	—	—	山口	萌瑠	8	14	桐木	千夏	15	3	3	0	0	—	—	—	—
1	2	4	0	10	矢田	貴海	9	16	石丸	雪乃	16	0	5	6	3	—	—	—	—
2	1	3	0	7	陳岡	沙亜羅	10	18	大林	瑞紀	7	0	3	1	3	—	—	—	—
2	0	0	0	0	窪田	菜々子	11	19	丸山	輝瑠	3	1	0	0	1	—	—	—	—
—	—	—	—	—	比嘉	すずな	12	24	宮下	美恋	5	0	1	3	0	—	—	—	—
1	3	13	0	29	豊田	有紗	15	26	伊礼	オビハンテ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	0	1	0	2	柴田	彩	16	30	立木	晴子	3	1	0	0	1	—	—	—	—
0	0	1	0	2	半田	彩	17	99	岩崎	夏鈴	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0	0	0	0	0	杉本	舞	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	0	5	0	10	西山	美優	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

16 8 32 8 96

74 8 17 16 13

戦評

女子決勝はOTCくきや、播磨ホワイトバックスと地域リーグの両チームによっておこなわれた。

【第1クォーター】

播磨ホワイトバックス（以下、播磨）⑩板井が3Pを決め先制する。一方OTCくきや（以下、OTC）は⑬豊田、⑨西山が連続でペイントエリアを攻め加点する。OTCは執拗にインサイドにボールを集めインサイドアウトから⑥屋宜が3P決めリードする。直様播磨は早いトランディションから⑬石丸が得点し譲らない。OTC⑥屋宜が再度3Pを決める。播磨はタイムアウトを取り修正を試みるも、OTC⑬豊田にペイントアタックからフックシュート決められ劣勢となる。播磨は早い展開から3Pを狙うもリングに嫌われる。一方OTCは⑥屋宜がドライブで切り崩しキックアウトから⑤唐澤が3Pを決め15－6とする。OTCはその後も⑨西山、⑬豊田が得点しリードを広げる。播磨は⑩板井がフリースローを貰い加点するも、OTCのディフェンスの前にタフショットが続き得点出来ない時間が続く。OTCは⑤唐澤のブレイクも出て23－8とする。播磨はエンドプレーから⑬大林がバスケットボールカウントを貰いボーナスショットも決め点差を詰める。終盤、播磨は⑩井上がオフェンスリバウンドに絡んで得たセカンドチャンスから⑨丸山が3Pを決めるも、OTCが28－17とリードしこのクォーターを終了した。

【第2クォーター】

OTC⑬豊田が決めリードを広げる。⑨矢田のドライブも決まる。播磨はOTCのディフェンスの前にタフショットが続くが⑬石丸がゴール下をねじ込み加点する。また相手のミスから早い展開に持ち込み⑩板井が加点。OTCがタイムアウトを請求した。タイムアウ





ト後、OTCは⑩陣岡が得点、更に⑮豊田がオフェンスリバウンドから連続得点する。⑩陣岡もオフェンスリバウンドからゴール下を決め一気にリードが広がる。播磨は⑭桐木が個人技を見せ加点するも単発となる。播磨はタイムアウトを取り、立て直しを図るが、OTCのディフェンスの前になかなか得点することができない。一方OTC⑮豊田が連続して得点しリードが広がる。播磨も早いトランディションから⑮石丸、⑧牛島が得点し意地を見せるも50-31とOTCがリードし前半が終了した。



【第3クォーター】

播磨は⑩大林が果敢にアタックし加点する。一方OTCは⑮豊田が見事なステップインで加点する。⑤唐澤もドライブで得点しリードを広げる。播磨はドライブから活路を見出そうとするミスが続き逆にOTCにブレイクを許してしまう。播磨はタイムアウトを取りディフェンスをチェンジングディフェンスに変える。OTCに得点は許すものの、ディフェンスからオフェンスと良い流れが出来、⑩板井、⑭桐木が得点し播磨ペースとなったところでOTCが後半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト明けも播磨はディフェンスを頑張り、⑩大林の3Pも決まり良い流れを継続する。OTCも反撃するがこのクォーターは播磨が躍動し75-58と少し差を詰めて終了した。

【第4クォーター】

OTC⑤唐澤が3Pを決めこのクォーターが始まる。播磨⑩板井も3Pを返し譲らない。⑭桐木の3Pも決まり勢いつく。播磨のチェンジングディフェンスにリズムを狂わせていたOTCだったが、このクォーターに入りゾーンも落ち着いて崩し加点していく。播磨⑭宮下のドライブで加点するもOTC⑨矢田もミドルシュートを決め譲らない。播磨⑩立木の3Pが決まり播磨が勢いついたところでOTCが後半2回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後OTCはディフェンスの強度を上げ播磨に得点を許さない。また播磨も踏ん

張りOTCに得点させない、互いに我慢の展開となる。均衡を破ったのはOTCで⑤唐澤が3Pを決めリードを広げる。播磨も果敢に3Pシュートを放つがリングに嫌われる。OTCは⑰半田が見事なステップインで加点しベンチから歓声が上がる。播磨は⑭桐木が決め意地を見せるも最後はOTC⑤唐澤がこの日3本目となる3Pシュートを決め万事休す。96-74のスコアでOTCくきやが地域リーグ同士の戦いとなった決勝を制した。



第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会 近畿ブロック予選

令和4年12月10日(土)・11日(日)
丸善インテックアリーナ

BLUE DEVILSが
4位入賞!!

《総評》

第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会 近畿ブロック予選が12月10日(土)、11日(日)の日程で開催された。

男子はBLUE DEVILSが初戦、2回戦と接戦を制し、このカテゴリーでは兵庫県勢としては初のベスト4に進出し、見事4位入賞を果たした。その結果、2月に福井県福井市でおこなわれる第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会への出場権を獲得した。



男子

1回戦

BLUE DEVILS 69 [11-14・24-23] 68 BOORINS (京都3位)
(兵庫1位) 13-19・21-12

BLUE DEVILS										BOORINS									
反則	自投	②野	③野	得点		No	No			得点	③野	②野	自投	反則					
0	0	0	0	0	西中	祐希	0	1	今井	達也	3	1	0	0	1				
2	0	3	0	6	大山	拓也	6	2	山崎	貴則	-	-	-	-	-				
0	0	0	0	0	足立	祐太	7	3	久野	直樹	2	0	1	0	4				
0	0	0	0	0	大原	聖司	9	4	原	佑弥	-	-	0	-	-				
3	1	4	0	9	大槻	翼	10	6	瀧山	裕貴	15	1	5	2	0				
2	0	1	2	8	角田	優二	13	7	矢代	拓実	-	-	-	-	-				
-	-	-	-	-	酒居	奎太	14	8	大住	元人	-	-	-	-	-				
0	1	0	0	1	山本	真聖	16	10	山本	明男	2	0	1	0	2				
-	-	-	-	-	中尾	良	21	13	zoung	regis	11	0	5	1	4				
0	0	0	0	0	太瀬	達哉	23	16	OKAF	ER SOMTOCHUKWU	-	-	-	-	-				
2	1	3	2	13	前田	一帆	25	17	中谷	颯吾	3	1	0	0	5				
-	-	-	-	-	山路	哲司	32	30	石川	皓大	2	0	1	0	3				
2	5	7	1	22	山本	真弥	33	32	三浦	彰将	-	-	-	-	-				
-	-	-	-	-	山田	一輝	54	56	田近	剛志	30	8	3	0	2				
3	0	5	0	10	福永	陸人	77												

14 8 23 5 69

68 11 16 3 21

戦評

兵庫県1位のBLUE DEVILSは京都府3位のBOORINSと対戦。BLUE DEVILSは第4クォーター途中までリードを許す厳しい展開

から逆転で勝利し2回戦へと進出した。

【第1クォーター】

BLUE DEVILS⑩大槻がフローターを決め先制する。ミスが続きなかなか得点出来ないBOORINSを尻目にBLUE DEVILSは⑩大槻にボールを集めドライブを仕掛けファールからボーナスショットを確実に決め加点する。更に相手のミスから②前田が3Pも決めリードを広げる。BOORINSは⑥瀧山が決め初得点するも、直様BLUE DEVILS②前田が3Pを決め譲らない。BOORINSは⑩山本がペイントアタックから加点する。⑥田近の3Pも決まり点差が縮まる。更に相手のミスからのブレイクで⑥田近が決め同点に追いつく。なかなか得点出来ないBLUE DEVILSはファールで得たフリースローで加点するもミスから走られ逆転を許した。BOORINSもミスが多く得点出来ない中、オフェンスリバウンドを頑張り⑬regisがゴール下をねじ込み11-14とBOORINSが3点差でこのクォーターが終了した。

【第2クォーター】

BOORINSは⑥田近が3Pを決めリードを広げる。BLUE DEVILSは②前田が個人技を見せ加点する。BOORINS③石川のドライブが決まる。直様BOORINSはパスカットから⑥田近がこの日3本目の3Pを決め10点差としBLUE DEVILSが堪らずタイムアウトを請求した。タイムアウト後、BLUE DEVILS⑬角田が3Pを決め、点差を詰める。しかしBOORINS①今井も3Pを決め譲らない。BLUE DEVILSは⑥大山、③山本が連続得点し、更にブレイクから⑦福永が決め4点差とした所でBOORINSがタイムアウトを請求した。タイムアウト後、BOORINSのハイローが決まり③久野が加点。BLUE DEVILSは⑦福永が再度走りブレイクから加点する。BOORINSは⑥田近が4本目となる3Pを決める。BLUE DEVILSも⑬角田がこのクォーター2本目となる3Pを決め意地を見せる。BOORINSは⑬regisがミドルシュートを決め5点差となった所でBLUE DEVILSが前半2回目のタイムアウトを請求した。BULE DEVILSは⑥大山がドライブから決め加点するもBOORINS⑬regisがバスケットボールカウントを決めボーナスショットも決めリードを広げる。BULE DEVILS③山本が連続得点、②前田のドライブも決まり同点。しかし終了間際BOORINS⑥瀧山がファールで得たフリースローを確実に決め35-37のBOORINSリードで前半が終了した。

【第3クォーター】

共になかなか得点出来ない時間が続く中、BOORINS⑦中谷が3Pを決める。更に⑬regisがバスケットボールカウントを決める。BLUE DEVILSはスティールから②前田が加点した直後、前からブ

レッシャーをかけターンオーバーを誘い、その勢いのまま⑩大槻が得点する。BLUE DEVILSは継続してプレッシャーを与え再度ターンオーバーを犯した所でBOORINSが堪らずタイムアウトを請求した。BOORINSは⑤⑥田近が加点、BULE DEVILSは③③山本が入れ返す。BULE DEVILSはディフェンスから走り⑬⑬角田が加点、しかしBOORINS⑤⑥田近がこの日5本目の3Pを決める。なかなか得点の出来ないBLUE DEVILSだったがディフェンスから走り⑦⑦福永が加点する。直後、BOORINS⑤⑥田近が6本目の3Pを決める。更に⑤⑥田近のこの日7本目の3Pが決まり点差が広がる。BLUE DEVILS③③山本の3Pが決まり譲らない。BULE DEVILSはディフェンスのギアを上げるもBOORINS⑤⑥田近がこの日8本目となる3Pを決め48-56とBOORINSが8点差をつけこのクォーターが終了した。

【第4クォーター】

BOORINS⑥⑥瀧山のドライブがバスケットボールカウントとなりこのクォーターが始まる。BULE DEVILSは③③山本のフックが決まる。後のないBLUE DEVILSはフルコートで仕掛け激しいディフェンスからミス誘いブレイク加点する。6点差となった所でBOORINSは堪らずタイムアウトを請求した。タイムアウト後、BLUE DEVILSは再びフルコートで仕掛けミスを誘い4点差とする。次のプレーでも激しいディフェンスでBOORINSのミスを誘い完全にBLUE DEVILSペースとなる。良い流れの中、BLUE DEVILS③③山本のミドルシュートが決まり2点差に詰め寄る。BLUE DEVILSはディフェンスを緩めずBOORINSはターンオーバーを連発する。BLUE DEVILS③③山本がファールで得たフリースローを2本とも決め遂に同点となる。BOORINSは⑬⑬regisがインサイドで頑張り加点し意地を見せる。直後BLUE DEVILS⑥⑥大山が個人技で加点し譲らない。BLUE DEVILSは③③山本がファールで得たフリースローを1本決め逆転に成功する。更に③③山本がゴール下を決め3点差とする。更に素早いトランディションから⑦⑦福永がバスケットボールカウントを沈め5点差となったところでBOORINSが後半3回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、BLUE DEVILSは激しいディフェンスを継続するがBOORINS⑤⑥田近がゴール下を決め3点差に詰め寄る。更に⑥⑥瀧山がドライブを沈め1点差し、⑥⑥瀧山が三度沈めBOORINSが逆転に成功した所でBLUE DEVILSがタイムアウトを請求した。BLUE DEVILSは③③山本が得点し逆転、BOORINSはオフェンスリバウンドからのセカンドチャンスからバスケットボールカウントを沈め再逆転する。残り1分半BLUE DEVILSはマイボールのアウトオブバウンズのタイミングでこのクォーター2回目のタイムアウトを請求する。タイムアウト



後、セットプレーからファールを貰いフリースローを得るも2本とも外し、嫌なムードになるもBOORINSもターンオーバーを犯してしまう。残り1分を切った頃、BLUE DEVILS③③山本がバスケットボールカウントを沈め逆転に成功。ボーナスショットは外れるもBOORINSはターンオーバーを犯してしまう。BOORINSはラストプレーでオフェンスリバウンドから⑤⑥田近にラストショットを託すがBLUE DEVILS⑦⑦福永がブロックしゲーム終了。1点差で辛くもBLUE DEVILSが2回戦へ進出した。

Chupacabras (大阪3位)										Dpro Lights (兵庫2位)									
81										68									
Chupacabras										Dpro Lights									
反則	自投	②野	③野	得点	No.		No.			得点	③野	②野	自投	反則					
1	3	9	0	21	西村	真哉	0	0	安陪	茂男	—	—	—	—					
3	0	1	0	2	林	隆晃	1	3	小畑	孝太	—	—	—	—					
4	0	1	1	5	三輪	遼太郎	3	4	三木	達朗	—	—	—	—					
—	—	—	—	—	大山	凌汰	5	7	松戸	瑞貴	2	0	0	2					
—	—	—	—	—	谷口	晃平	7	8	北村	聖	—	—	—	—					
1	2	6	2	20	福田	夏輝	11	11	赤田	智	6	2	0	0					
1	—	—	—	—	川越	皓亮	18	14	梶谷	修平	—	—	—	—					
1	0	2	0	4	合田	尚平	19	15	古谷	寿樹	15	2	3	3					
3	0	0	0	0	木全	洋介	22	19	桑田	和英	—	—	—	—					
—	—	—	—	—	和田	幸平	23	21	堀本	侑汰	20	3	4	3					
0	7	11	0	29	辻本	龍太郎	24	24	藤田	紘大	0	0	0	0					
—	—	—	—	—	大崎	恭雅	35	29	小島	惇平	—	—	—	—					
—	—	—	—	—	小路	泰地	40	34	田邊	裕作	19	1	8	0					
—	—	—	—	—	比嘉	智昭	73	39	船山	裕士	6	0	3	0					
										73	赤木	紀元	—	—					
										91	久保	洋希	0	0					
14 12 30 3 81										68 8 18 8 18									

戦評

近畿大会初出場のDpro Lightsは大阪3位ので第3シードの強豪Chupacabrasとの対戦となった。

【第1クォーター】

共にマンツーマンディフェンスでスタートする。両チーム共にファールからフリースローを得るがお互いに2本共に外し重い展開となる。Chupacabras（以下、Chupa）は⑩⑩西村がブレイクで先制する。Dpro Lights（以下、Dpro）も⑫⑫堀本が3Pを決め譲らない。Chupaは⑪⑪福田、⑭⑭辻本がタフショットを決めリードする。なかなかシュートが決まらないDproを尻目にChupaは⑨⑨合田のバックドアが綺麗に決まる。Dproは⑬⑬船山が個人技を見せ加点。更にスティールから⑫⑫堀本が走り加点する。続けてDproのブレイクが決まり⑫⑫堀本が躍動する。Chupa⑭⑭辻本がゴール下のタフショットを沈め会場がどよめく。Dproは⑫⑫堀本からゴール下の⑬⑬船山ヘナイスパスが通り加点しリードする。Chupaはエンドのセットプレーから⑨⑨合田が得点し譲らない。Chupaは⑩⑩西村→⑭⑭辻本ハイローが決まり加点。Dproもオフェンスリバウンドから⑬⑬船山が決める。Chupaは相手のミスからブレイクを走り連続で得点する。更に#1林がミドルシュートを決め引き離す。反撃したいDproだがターンオーバーが続き、逆にゴール下もスペースに飛び込んだ⑭⑭辻本に決められてしまう。22-13とChupaがリードしこのクォーターが終了した。

【第2クォーター】

Chupa⑪⑪福田がペイントアタックから加点しリードを広げる。更

に相手のミスから⑪⑪福田が走り連続得点する。Dproは⑫⑫堀本が3Pを決める。Chupa⑭⑭辻本はファールで得たフリースローを決め加点する。Dproは単調な攻めに終始しミスからChupaに走られ苦しい展開となる。Chupaは合わせから⑪⑪福田がペイントエリアで決めリードを更に広げる。Dproはミスから三度走られファールで止めた所で堪らず前半1度目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、DproはChupaのエンドプレーをナイスディフェンスで止め⑫⑫堀本が3Pを決め良い流れを作る。ディフェンスから走り⑫⑫堀本がミドルシュートを決める。Chupaはエンドプレーから⑭⑭辻本がミドルシュートを沈めディフェンスをスリークォーターから激しく当たりDproのターンオーバーを誘発しペースを握る。Dproは⑭⑭田邊がオフェンスリバウンドを頑張り得点する。Chupa⑩⑩西村がファールで得たフリースローを確実に決める。Dproは⑭⑭田邊がドライブで加点。一方Chupa⑩⑩西村もミドルシュートを決め譲らない。Dproは⑭⑭田邊がゴール下を決め奮闘する。良い流れのDproだったが主力の⑫⑫堀本がムービングのオフェンスファールを取られ、個人ファール3回目となり交代する。Chupaはディフェンスからブレイクが出て⑩⑩西村が決めリードを広げる。残り数秒ChupaはディフェンスからDproのミスを誘う。アウトオブバウンズとなりマイボールとなった所でChupaが後半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、Chupaはサイドからセットプレーでシュートを放つも外れ40-27とChupaが13点リードして前半が終了した。

【第3クォーター】

Dproはオフェンスリバウンドを取りゴール下のシュートを狙うも外れ、Chupaに走られ⑪⑪福田がブレイクで得点し15点差となる。Dproは⑫⑫堀本がファールで得たフリースローを決める。更に⑪⑪赤田が3Pを決め点差を詰める。Chupaは⑩⑩西村がポストプレーを決め譲らない。Dproは⑫⑫堀本→⑭⑭田邊のハイローが決まるが直様Chupa⑪⑪福田が決め主導権を渡さない。Dpro⑮⑮古谷がファールで得たフリースローを1本決めるも、Chupaはリバウンドから素早く攻め⑩⑩西村がミドルシュートを沈める。Dproもオフェンスリバウンドから⑭⑭藤田がゴール下を確実に決め食らいつく。直後Chupa⑪⑪福田の3Pが決まり51-36と再び15点差となる。Dproはエンドプレーから⑮⑮古谷が3Pを決める。Dproはディフェンスからブレイクが出るも得点出来ず、逆に走られChupa③③三輪に得点を許してしまう。Dproは⑮⑮古谷がミドルシュートを決めるもChupa⑪⑪福田にこのクォーター2本目となる3Pを決められてしまう。Dproは⑭⑭田邊が3Pを沈め食らいつく。直後Chupa③③三輪の3Pも決まり三度15点差となる。Dproは⑭⑭田邊、⑮⑮古谷が連続得点し11点差となった所でChupaが後半1回目タイムアウトを請求した。タイムアウト後、お互いミスが続き得点出来ないがChupaは⑭⑭辻本が連続得点し63-48と15点差でこのクォーターが終了した。

【第4クォーター】

Dproはファールで得たフリースローを⑦⑦松戸が確実に2本決め点差を詰める。更にディフェンスを頑張りブレイクが出て⑫⑫堀本がバスケットボールカウントを沈める。更に⑮⑮古谷のミドルシュートも決まり9点差とする。Chupaは⑭⑭辻本がタフショットを沈め意地を見せる。Dproは⑫⑫堀本にボールを集めファールを得てフリースローを確実に決め点差を詰める。ディフェンスをフルコートで行うもChupaは巧みにボールを選び⑩⑩西村がミドルを沈め主導権は譲らない。更に⑩⑩西村はオフェンスリバウンドからDpro⑫⑫堀本のこの

日4つ目ファールを誘いフリースローを得る。ペースがChupaに傾いたかに思えたがDproは⑪⑪赤田が3Pを決め9点差になる。ここでDpro⑮⑮古谷の3Pも決まり6点差とし、更にチャンスを得るがゴール下を外し、Chupaに走られてしまう。Chupaもこのチャンスをミスしアウトオブバウンズとなった所でChupaが後半2回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後Dproはファールを貰いフリースローを確実に決め4点差とする。更に⑭⑭田邊のミドルシュートも決まり2点差とする。Chupaは⑭⑭辻本がタフショットを沈め意地を見せる。更に⑪⑪福田もファールで得たフリースローを1本決め5点差とした。Dproは⑫⑫堀本→⑭⑭田邊のハイローが決まり3点差とする。Dproはオフェンスリバウンドからゴール下を狙うも外してしまい、Chupaに走られる。Chupaは⑩⑩西村が手堅く決め再び5点差となった所でDproが後半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、Dproはシュートを放つも決めきれず、少しディフェンスがギャンブルになった所をChupa走られ⑩⑩西村に決められてしまう。Dproは後半2回目タイムアウトを取り最後までゴールアタックを続けるもChupaが退け81-68のスコアで2回戦へと進出した。

女子

1回戦

FreeStyle (大阪5位)					23 — 11・18 — 14 18 — 20・22 — 14					59					アクアテックサンシャ インズ(兵庫1位)				
FreeStyle					アクアテックサンシャインズ														
反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則							
1	0	1	1	5	甲斐	明日香	0	1	南方	晴菜	9	1	3	0	1				
0	2	3	2	14	井ノ口	海優	1	11	荒牧	伶苗	9	1	3	0	2				
1	0	3	1	9	堀内	聡美	3	17	迫田	愛莉	7	1	2	0	2				
1	0	8	0	16	山下	未来	7	18	松岡	瑛子	18	0	8	2	4				
—	—	—	—	—	和田	由美	10	19	川本	ゆめ	6	0	2	2	4				
0	0	2	0	4	森内	沙樹	11	25	南谷	知佳	0	0	0	0	1				
1	0	3	0	6	阿部	彩	14	36	川口	莉彩	—	—	—	—	—				
0	0	0	0	0	城野	佳奈	15	62	梅野	志歩	10	1	3	1	1				
—	—	—	—	—	李	寿香	18	71	高階	愛子	—	—	—	—	—				
1	1	2	0	5	重松	志保	26												
2	2	10	0	22	柴谷	理央奈	71												
7 5 32 4 81										59 4 21 5 15									

戦評

兵庫県1位のアクアテックサンシャインズは大阪5位のFreeStyleと対戦。序盤からリードされる苦しい展開の中アクアテックサンシャインズらしいバスケを途中見せるも点差を詰めることが出来ず1回戦で敗退した。

【第1クォーター】

アクアテックサンシャインズ（以下、アクアテック）は⑦⑦迫田が3Pシュートを決め先制する。エンドのセットプレーから⑬⑬松岡も得点し5-0とする。なかなか得点出来ないFreeStyleだったが⑦⑦山下のシュートが決まる。アクアテックはインサイドにボールを集めるも攻めきれず逆にFreeStyle③③堀内にドライブを決められる。⑦⑦山下のシュートも決まりFreeStyleがリードする。アクアテックは外のシュートを狙うもリングに嫌われ逆にFreeStyleは⑦⑦柴谷のミドルシュートが決まる。更に⑦⑦柴谷のバスケットボールカウント、ボーナスショットも決まりFreeStyleペースとなる。このプレーでFreeStyle⑦⑦柴谷は完全に勢いに乗り連続得点を上げ一気に点差を広げる。アクアテックは⑨⑨川本のミドルシュート、オフエ

ンスリバウンドからのセカンドチャンスから⑬松岡が得点するもFreeStyle⑦柴谷を止めることが出来ず再びバスケットボールカウントを決められてしまう。このプレーでアクアテックのインサイドの要である⑬川本がファールトラブルに陥りベンチに下がる。アクアテックはディフェンス頑張りFreeStyleに得点を許さない。アクアテック⑪荒牧がシュート決めたところでFreeStyleがタイムアウトを請求した。タイムアウト後、FreeStyleはドライブを仕掛けオフェンスリバウンドから⑦柴谷が得点。終了間際にも③堀内の３Pも決まり23-11とFreeStyleリードでこのクォーターが終了した。

【第2クォーター】

アクアテック⑩迫田、⑬松岡が連続得点し点差を詰める。FreeStyleは相手のミスから⑪が加点。FreeStyleは交代で⑦柴谷を下げた所でアクアテックは1回目のタイムアウト取りインサイドの⑩川本を投入する。⑪荒牧の3Pシュートが決まり反撃する。FreeStyleはオフェンス、ディフェンス共にリバウンドが取ることが出来ず⑦柴谷を投入。アクアテック⑪柴谷がドライブを決める。アクアテックのミスの後FreeStyleは⑦山下が決めアクアテックは前半2回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、FreeStyleは①井ノ口がミドルシュート決める。共に譲らない展開が続くがFreeStyleがディフェンスから③堀内がブレイクを決め引き離す。アクアテック⑫海野が意地を見せミドルシュートを決めるがFreeStyle⑦山下が決め返す。FreeStyleは⑦山下のミドルシュート、①井ノ口のブレイクで加点し41-25とリードを広げて前半を終了した。

【第3クォーター】

FreeStyleがディフェンスからの速攻で⑦山下がバスケットボールカウントを決める。アクアテックは⑫海野がファールで得たフリースローを決め加点する。①南方も個人技を見せ加点する。FreeStyleは⑩甲斐が3Pを決める。アクアテックは終始、個人技での勝負となりなかなか得点できない。アクアテックは⑫海野が3Pを決めるもFreeStyleは⑦柴谷が連続得点し譲らない。アクアテックは⑫海野がミドルシュートを奮闘する。更に⑬松岡もゴール下をねじ込み、点差を詰める。FreeStyleはメンバーを変えインサイドの⑦柴谷にボールを集めるもアクアテックもディフェンスを頑張り得点させない。FreeStyleは⑫重松がミドルシュートを決めるもアクアテック①南方が決め返す。FreeStyle⑫重松のドライブがファールになった所でアクアテックが後半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、FreeStyleは①井ノ口、アクアテックは⑪荒牧を中心に攻めるも得点することができない。アクアテック⑬松岡が得点し、直後ディフェンスを仕掛け、①南方がスティールから得点する。FreeStyleは後半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後もアクアテックはフルコートで仕掛け⑬松岡がスティールから得点する。FreeStyleは①井ノ口が3Pを決める。アクアテックはオフェンスリバウンドから⑫海野がゴール下を決めるが、FreeStyle①井ノ口が連続となる3Pを決め59-45とリードを保ちこのクォーターを終了した。

【第4クォーター】

共にディフェンスから走りシュートまで放つがなかなか得点ができない中、アクアテック⑩迫田がフローターを決める。直様、FreeStyle⑦山下、①森内が連続で決めリードを広げる。更に

オフェンスリバウンドからのセカンドチャンスで①井ノ口がミドルシュートを決める。アクアテックはシュートまではいくものの決定力に欠き、FreeStyle⑦柴谷にゴール下を決められた所でアクアテックが後半2回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後アクアテックは再度フルコートのディフェンスに変え勝負に出る。FreeStyleは落ち着いて攻め⑭阿部がバックシュートを決める。アクアテックも⑪荒牧がアグレッシブに攻め加点するがFreeStyle⑦柴谷、⑭阿部が連続で得点する。アクアテックはオフェンスが単調となりなかなかシュートが決まらない。一方FreeStyleは終始オフェンスリバウンドに絡み得点を重ねる。アクアテックは最後まで諦めないプレーで頑張りを見せたが81-59と22点差でFreeStyleが勝利し2回戦へと進出した。

Winter Cup

2022

Hyogo High School Basketball

報徳、延長の激闘の末に敗れる

三田松聖、またも初戦突破ならず

2022年12月22日～ 東京体育館

第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会

《総評》

男子決勝は開志国際（新潟）が88-71で福岡第一（福岡）を破り、初優勝を飾った。両者はインターハイ決勝でも対戦しており、そのときは開志国際が76-77とわずか1点差で敗れていた。開志国際は1年生の⑬平良が第2Q前半に4本の3Pを決めて逆転し、⑦介川の30得点などで福岡第一の追撃を押さえ、リベンジを見事果たした。開志国際は準決勝で藤枝明誠（静岡）に残り5秒で⑦介川が決勝点を奪って78-76で勝利していた。

女子決勝は京都精華学園（京都）が圧倒的な強さを見せつけて99-81で札幌山の手（北海道）を下し、インターハイに続いて初優勝を飾った。3回戦では優勝候補の一角、桜花学園（愛知、直前のU18日清食品トップリーグで京都精華学園に68-66で勝ち、優勝していた）が残り3秒での4点プレイ（3Pでのバスケットカウント）により63-64で東海大学付属福岡（福岡）に敗れるという劇的な試合もあった。

兵庫県勢は男子の報徳が1回戦で3Pを19本決めて90-68で本庄東（埼玉）に快勝した。2回戦では外国人留学生を擁する桜丘（愛知）に延長の末に1点差で惜敗した。女子の三田松聖は1回戦で準優勝することになる札幌山の手（北海道）に阻まれて、悲願の全国大会での勝利を挙げられなかった。

男子

1回戦

報徳 90

16-15・23-12
28-21・23-20

68 本庄東 (埼玉)

写真提供：JBA



写真提供：JBA

報 徳										本庄東									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則					
0	1	1	0	3	森本 虎志	7	23	定方 魁星	9	1	1	4	3						
1	0	0	0	0	大澤 一輝	10	24	貝崎 旬	27	1	9	6	2						
—	—	—	—	—	高木良太郎	12	25	山本 捷人	—	—	—	—	—						
2	1	3	0	7	星原 甲治	13	26	田野 優月	—	—	—	—	—						
1	0	0	0	0	福本 有都	21	27	栗林 颯良	—	—	—	—	—						
4	0	1	2	8	溝上 恵大	23	28	寺山 旺佑	—	—	—	—	—						
1	0	0	1	3	神成 勁翔	27	29	佐々木拓巳	—	—	—	—	—						
3	1	2	2	11	西村陽太郎	34	30	高橋 悠生	0	0	0	0	1						
3	0	1	0	2	多田健太郎	44	31	重野 佑菜	—	—	—	—	—						
2	0	1	10	32	小林 裕斗	46	32	木村 天	9	2	0	3	3						
2	0	2	4	16	山崎慎之助	47	33	滝澤 芭琉	10	0	4	2	0						
2	0	2	0	4	脇 友一	60	34	柏坂 恭輔	—	—	—	—	—						
0	0	0	0	0	北村 優光	71	35	森田 直輝	13	0	4	5	2						
0	0	0	0	0	賀田 智尋	81	40	馬場 圭吾	—	—	—	—	—						
3	0	2	0	4	井藤 匠哉	97	44	杉山 大樹	—	—	—	—	—						
24 3 15 19 90										68 4 18 20 11									

戦評

報徳が54本中19本の高確率で3Pを決めて、本庄東に快勝した。⑭小林は24本中10本の3Pなど32得点の活躍だった。

2回戦

桜丘 (愛知) 77 [14-17・21-19] 76 報徳
20-20・15-14
7-6

桜丘										報徳									
反則	自投	②野	③野	得点	No. No.		得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	②野	③野	得点	No. No.		得点
2	6	2	3	19	舘山	洸騎	1	7	森本	虎志	8	0	4	0	2	—	—	—	—
—	—	—	—	—	佐々	海弥	6	10	大澤	一輝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	1	6	0	13	セイバ	マムル	7	12	高木	良太郎	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	0	0	3	9	平	寿哉	9	13	星原	甲治	2	0	1	0	3	—	—	—	—
—	—	—	—	—	高橋	幸太郎	17	21	福本	有都	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	中村	凌大	19	23	溝上	恵大	19	4	3	1	0	—	—	—	—
0	0	0	0	0	ラウル	ソレイマン	23	27	神成	勲翔	2	0	1	0	0	—	—	—	—
2	0	1	0	2	中尾	颯児	27	34	西村	陽太郎	11	1	3	2	2	—	—	—	—
0	0	0	0	0	水野	結斗	31	44	多田	健太郎	9	3	0	0	1	—	—	—	—
—	—	—	—	—	竹林	俊哉	35	46	小林	裕斗	12	2	3	0	2	—	—	—	—
0	0	0	0	0	橋本	岳大	36	47	山崎	慎之助	5	1	1	0	1	—	—	—	—
2	0	1	1	5	藤嶋	フェルナンド	37	60	脇	友一	0	0	0	0	3	—	—	—	—
1	0	0	1	3	オハラ	レスカール	55	71	北村	優光	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	海野	伍希	68	81	賀田	智尋	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	5	3	5	26	土屋	来風	91	97	井藤	匠哉	8	2	1	0	5	—	—	—	—
13	12	13	13	77											76	13	17	3	19



写真提供：JBA

戦評

第1Q、報徳は1-2-2プレスから1-1-3のゾーンディフェンスを仕掛けて、桜丘の長身留学生⑦セイをマークする。桜丘はマンツーマンディフェンス。まずは報徳②溝上が先制シュートを決めるが、桜丘⑩土屋が3Pをすぐ決め返す。残り5分で報徳④山崎が3Pを決めて3-6とリードするロースコアの展開。残り3分からスコアが動き始め、桜丘は3P、報徳は速攻で加点し、第1Qは14-17報徳リードで終える。

第2Q、残り8分、桜丘は⑨平らの3本の3Pで23-17と逆転する。報徳は⑦井藤と②溝上が3Pを決めるも、桜丘も①舘山らが3Pを決め返す。残り5分、桜丘⑦中尾が速攻を決めて31-23の8点差とする。残り4分で桜丘がタイムアウトを取ると報徳はマンツーマンディフェンスに切り替える。報徳④西村がリバウンドからのシュートと3Pを決め、残り1分での②溝上の3Pで報徳は33-34と逆転に成功する。両チームで10本の3Pの応酬となった第2Qは、35-



写真提供：JBA

36と報徳が1点リードで終える。

第3Q、報徳はゾーンディフェンスに戻す。報徳は④小林が2本、桜丘は⑩土屋らが2本の3Pを決め、両者激しく競り合う。残り4分から報徳は④西村のアシストから⑦井藤が合わせて、そして⑦井藤の3P、④西村の速攻のバスケットカウントで残り3分に46-54と8点のリードを奪う。桜丘はたまたずタイムアウト。ここで報徳はディフェンスをマンツーマンに変えるが、桜丘①舘山らの反撃を受け、第3Qは55-56と拮抗したまま終える。

第4Q、報徳はゾーンプレスからハーフコートのマンツーマンディフェンス。両チームともディフェンスの厳しさは増し、ファウルがかさむ。報徳は④多田の3Pや⑦森本のドライブなどで先行するも、桜丘は残り4分に⑦セイが連続で得点して65-63と逆転する。この時、報徳⑦井藤がファウルで退場となると報徳はタイムアウト。残り2分で④多田が3Pを決めて67-68と再逆転し、残り59秒で⑦森本の速攻が決まり、67-70と報徳がリードする。しかし桜丘⑩土屋が厳しいマークをかいくぐってブザービートで3Pを決め、70-70の同点で延長となる。

OT（オーバータイム、延長）は桜丘が得点で先行するが、報徳④多田が3P、⑬星原がフローターを決めて、残り1分で75-75と両者全く譲らない。残り14秒で桜丘⑩土屋がドライブでシュートを決め、77-75。そして残り2秒、リバウンドのファウルをもらい、報徳④西村が2本のフリースローを得る。1本目は決めたが2本目は外れて万事休す。77-76と1点差で大激戦を桜丘が制した。報徳は6人の選手が3Pを決めるなどチームの特長を発揮させ、ディフェンスでも長身留学生をよく抑えたが、健闘わずかに及ばずに敗れてしまった。



写真提供：フォトスタジオ八木

女子

1回戦

札幌山の手 (北海道) 105 [26-13・25-10] 51 三田松聖

札幌山の手										三田松聖									
反則	自投	②野	③野	得点	No. No.		得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	②野	③野	得点	No. No.		得点
3	2	6	9	41	森岡	ほのか	4	2	野下	愛未	0	0	0	0	0	—	—	—	—
0	0	0	0	0	野村	美桜	5	3	瀬戸	三央奈	5	1	1	0	3	—	—	—	—
2	0	5	1	13	野原	一華	6	8	崔	璃陽	3	0	1	1	2	—	—	—	—
2	1	3	0	7	寺岡	海	7	10	竹内	愛	0	0	0	0	1	—	—	—	—
2	0	2	1	7	上池	悠月	8	13	竹中	凜	2	0	1	0	0	—	—	—	—
0	0	0	0	0	郷六	柚葉	9	16	東	寧音	3	1	0	0	0	—	—	—	—
2	0	9	0	18	岡井	遥香	10	17	渡部	陽美	2	0	0	2	3	—	—	—	—
0	0	0	0	0	山田	唯	11	23	米倉	歌音	18	3	4	1	1	—	—	—	—
0	0	0	0	0	小林	真緒	12	25	馬場	柚樹	10	0	5	0	0	—	—	—	—
2	0	0	0	0	新田	杏樹	13	29	魚住	夏鈴	0	0	0	0	1	—	—	—	—
1	1	6	0	13	谷口	憂花	14	42	渡部	陽愛	0	0	0	0	0	—	—	—	—
1	0	0	0	0	栗林	瞳	15	48	岡田	心和	2	0	1	0	1	—	—	—	—
2	0	3	0	6	大山	湖南菜	16	52	小林	雛子	6	0	3	0	1	—	—	—	—
0	0	0	0	0	巻	朋花	17	77	白箸	空知	0	0	0	0	0	—	—	—	—
0	0	0	0	0	香川	久玲愛	18	85	初谷	一葉	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	4	34	11	105											51	5	16	4	13

戦評

第1Q、三田松聖は②馬場のシュートで先制するも、札幌山の手ディフェンスの激しいプレッシャーの前に攻めあぐねる。リバウンドでも劣勢となった三田松聖だが、残り4分、③瀬戸がシュートを決めて11-8と何とか追いつける。しかし残り3分から、U18日本代表である札幌山の手④森岡が、三田松聖の徹底マークにもかかわらず、3P3本を含む連続11得点を挙げて、26-13と札幌山の手がリードして第1Qを終える。

第2Q開始から、札幌山の手は速攻を5本も続けて繰り出し、残り6分38-13となったところで三田松聖はタイムアウト。しかしその後も札幌山の手激しいプレッシャーの前にシュートを打つこともままならず、残り3分、ようやく②米倉がシュートを決めて48-15とする。続いて三田松聖は③米倉が3P、⑤小林がフックシュート、⑧崔がバスケットカウントを決めて反撃するも、51-23と札幌山の手がリードを広げて前半を終える。

第3Q、三田松聖は1-3-1のプレスディフェンスを仕掛けて、劣勢の挽回を図る。三田松聖②馬場が3連続得点を決めるも、一方の札幌山の手は④森岡や④谷口が得点を量産し、点差を広げる。残り4分、68-29で三田松聖がタイムアウトを取ると、⑩東、③米倉、③瀬戸が3Pを次々に沈め、75-41と点差を少し縮めて最終Q



写真提供：フォトスタジオ八木

へ。

第4Q、三田松聖は⑧岡田や②小林が得点するも、札幌山の手は速攻や3Pなど多彩な攻撃で全く手を緩めない。攻めあぐんだ三田松聖は残り4分、92-45でタイムアウトを取る。しかしここからも、札幌山の手④森岡は得点を取り続け、105-51で札幌山の手が勝利した。札幌山の手④森岡は3Pが12本中9本、2Pが7本中6本、フリースロー3本中2本の合計41得点と、圧巻の活躍だった。



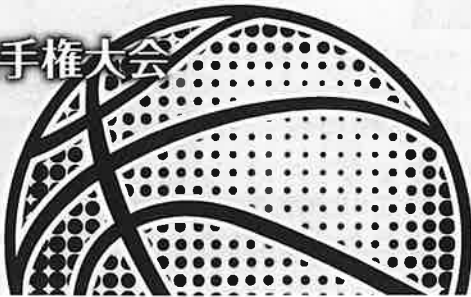
写真提供：フォトスタジオ八木



写真提供：JBA

第53回 兵庫県ミニバスケットボール選手権大会 (中尾杯)

2022年12月24日（土）・25日（日）
兵庫県立総合体育館



《総評》

12月24日、25日兵庫県立総合体育館で開催された。兵庫県立総合体育館に於いて観客有で開催されるのは3年ぶり。感染防止対策の為、観客は保護者のみと人数制限があるものの、選手たちはその声援に後押しされるかのように素晴らしいプレイが続出し、熱戦が繰り広げられた。男子は魚崎ミニ連が5年ぶり3回目の優勝。女子は北エンジェルスが初優勝。神戸地区のチームが男女ともに優勝という結果になった。

男 子

優	勝	魚崎ミニバスケットボールクラブ
準	優 勝	浜脇ミニバスケットボールクラブ
第 3 位		江井島ミニバスケットボールクラブ
第 4 位		EPIC BASKETBALL ACADEMY

1回戦

人丸 64〔18―10・13―11〕41 柏原

浜脇 68〔12―10・13―10〕46 北

姫路 45〔16―8・8―12〕39 長尾南

EPIC 41〔16―6・11―6〕37 明城

魚崎 71〔26―7・16―8〕44 山南

園田 67〔19―4・17―4〕22 三原

江井島 58〔12―7・16―14〕43 学園南

名和 76〔19―7・21―4〕16 豊岡北

準々決勝

浜脇 68〔20―18・13―10〕50 人丸

EPIC 57〔9―17・18―0〕33 姫路

江井島 63〔19―11・8―14〕45 園田

魚崎 58〔19―11・18―12〕38 名和

準決勝

浜脇 57〔16―13・12―9〕42 EPIC

魚崎 55〔15―11・15―13〕44 江井島

3位決定戦

江井島 52〔12―12・10―12〕50 EPIC

決 勝

魚崎 56〔10―6・16―6〕40 浜脇

魚 崎										浜 脇									
反則	自投	②野	③野	得点			No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則					
1	1	11	*	23	吉本	拓志	13	4	天野	凌汰	21	*	10	1	1				
		4	*	8	田中	春哉	20	5	岡本	蒼崇	0	*			1				
3	3	8	*	19	福井	遥陽	7	6	岡	修平	15	*	6	3	1				
			*	0	車谷	奏太	19	7	瀧川	維介	0	*			1				
1			*	0	須原	大智	31	8	寺西	龍成	4	*	2		3				
			*	0	日置	葵	77	9	松井	俐斗	0	*							
			*	0	上野	陸	55	10	岩崎	蒼士	0	*							
			*	0	井上	海琉	70	11	杉本	幹成	0	*			2				
	1		*	2	前田	慶介	33	12	佐藤	憲吾	0	*							
	2		*	4	早田	成道	2	13	城所	聖弥	0	*							
			*	0	出雲	歩	29	14	玉井	大雅	0	*							
1			*	0	戸田	真芽	1	15	新出	蒼空	0	*							
			*	0	山内翔太郎		25	16	今井	新	0	*							
			*	0	岡田	慧	27	17	南部	央惺	0	*							
			*	0	久保	花道	30	18	津田	紘希	0	*							
6	4	26	*	56							40	*	18	4	9				

戦評

決勝は阪神西地区1位浜脇と、神戸地区1位魚崎のカードとなった。第クォーターは浜脇④と魚崎⑬の1対1でゲームを組み立てる。浜脇6点、魚崎10点で第2クォーターへ。

第2クォーターは、浜脇⑥を中心としたオフェンスで追い上げようとするも、魚崎⑦が10得点を挙げる活躍で浜脇12点、魚崎26点で前半を終了する。

第3クォーターに入り、浜脇④、⑥と、魚崎⑦、⑬の両チームダブルエースを中心に組み立てていきながら、共にマンツーマン・パナルティーを宣せられ、どちらもなかなか自チームの流れを引き寄せることができない。引き続き浜脇24点、魚崎42点で魚崎のリード変わらず第3クォーターが終わる。

第4クォーターもこれまでの展開は変わらず、どちらも迫力のあるドライブ、リバウンドの応酬が続く。

最後まで確実にゲームを組み立てた魚崎が56―40で浜脇をくだし、5年ぶり3回目の優勝を飾った。

女 子

優	勝	北エンジェルス	
準	優	勝	明城ミニバスケットボールクラブ
第	3	位	鳩里ミニバスケットボールクラブ
第	4	位	姫路ミニバスケットボール教室

1回戦

明城 59〔15―3・18―7〕27 EPIC

プレイカース 47〔17―2・10―11〕23 豊岡北

西宮浜 55〔15―8・13―8〕32 KOBE POWERS

姫路 33〔16―5・7―13〕32 舞子

鳩里 64〔11―12・18―6〕29 氷上龍球

園田 82〔17―10・16―6〕30 TSUNA

荻野 46〔15―9・11―8〕43 スパークス

北 73〔23―8・19―0〕25 三原

準々決勝

明城 40〔10―6・12―9〕25 プレイカース

姫路 67〔16―7・5―10〕38 西宮浜

鳩里 33〔8―12・11―8〕32 園田

北 73〔18―15・17―8〕49 荻野

準決勝

明城 51〔4―8・15―1〕31 姫路

北 52〔12―18・18―7〕47 鳩里

3位決定戦

鳩里 61〔11―13・16―7〕39 姫路

決 勝

北 39〔14―7・8―10〕27 明城

北										明 城									
反則	自投	②野	③野	得点	No.		No.		得点	③野	②野	自投	反則						
		1	*	2	村山	加桜	4	4	村上	菜乃	7	*	3	1	2				
1	1	8	*	17	左近充	遼	5	5	荒井	聖麗	2	*	1		3				
1	2	7	*	16	左近充	希	6	6	石橋	若奈	10	*	4	2					
		1	*	2	大崎颯愛	来	7	7	福永	華音	2	*	1						
4			*	—	今田	一花	8	8	小谷	愛音	2	*	1						
2		1	*	2	篠原	唯花	9	9	崔景しん	0	*								
			*	0	速水	琴音	10	10	中来田	菫	2	*	1						
			*	0	竹谷	天寧	11	11	白井	莉央	0	*							
			*	0	押川	華奈	12	12	石橋	香乃	0	*							
			*	0	村山	彩愛	13	13	荒井	夢望	0	*			2				
			*	0	大崎	虹恋	14	14	堀井	星那	0	*							
			*	0	南田	陽葵	15	15	中道	桃	0	*							
			*	0	東	由那	16	16	岩崎	玲花	0	*							
			*	0	鳥居	由莉歌	17	17	神田	美京	2	*	1						
			*	0	末松	優奈	18					*							

8 3 18 * 39 27 * 12 3 7

戦評

阪神東地区1位明城と、神戸地区1位北エンジェルスが今年の決勝カードとなった。明城はフリースローやリバウンドで得点を重ねる。対して北エンジェルスはインサイドを巧みに使って得点を重ね、1Q明城7点、北エンジェルス14点で2Qを迎える。

北エンジェルスはインサイドプレーを活かし得点を狙うが、明城の激しいディフェンスにより、北エンジェルスのターンオーバーが増える。明城⑩のボール運びからのアシストにより、得点を重ね明城に流れがきたところで前半を終える。

後半が開始し、両チームゴールを狙うもお互いにディフェンスが機能し、我慢の時間が続く。開始3分が過ぎ、明城が得点するも、直ぐに北エンジェルス⑤が得点を取り返し、得点差が広がる。5点差がなかなか縮まらず、明城のターンオーバーから北エンジェルスが得点を重ね、明城がたまたらずタイムアウトを取る。しかし、この後も北エンジェルスのディフェンスが良く、スティールが続き、更に得点差を広げ優勝を勝ち取った。北エンジェルスは初優勝。

令和4年度 兵庫県中学校バスケットボール新人大会 第74回 兵庫県中学校バスケットボール選抜優勝大会

期日：令和4年12月24日(土)～26日(月)

会場：ペイコム総合体育館・芦屋市立体育館・青少年スポーツセンター
伊丹市立伊丹スポーツセンター体育館・阪神地区各中学校 他



《総評》

令和4年12月24日（土）、25日（日）、26日（月）の3日間、兵庫県新人大会が阪神地区の中学校・体育館で行われた。男子は明石市立望海中学校が初優勝を果たし、女子は高砂市立鹿島中学校が3年ぶり3回目の優勝を果たした。

男 子

決 勝

望海 48〔21－15・9－9〕43 報徳学園

望 海					報徳学園												
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則				
2	0	4	0	8	藤田 雅士	4	4	川内 秀太	—								
2	0	2	2	10	尾上 達哉	5	5	橋本 一輝	—								
				—	前田 優人	6	6	若林 蒼大	0	0	0	0	0				
4	1	4	0	9	フレミング・アレキサンダー	7	7	小村 衣吹	2	0	1	0	2				
1	0	1	0	2	長谷川大士	8	8	澤山 陸	7	1	2	0	1				
4	1	5	0	11	中内 瑛仁	9	9	高松 佳司	—								
3	1	2	1	8	坂本 龍紀	10	10	河野友生斗	—								
0	0	0	0	0	福本 彩人	11	11	下原 潤也	—								
				—	竹下 颯志	12	12	藤原 悠粋	8	0	4	0	4				
				—	魚住 奏多	13	13	東 美童	3	1	0	0	1				
				—	山下 大晴	14	14	高崎 瑛汰	—								
				—	林保 晴大	15	15	吉川 斗真	6	0	3	0	3				
				—	西村 知優	16	16	マダソン・ゲイン・カニ	17	0	5	7	4				
				—	宮内 陽	17	17	今村 瞬	—								
				—	馬田 舟都	18	18	田中 大凱	—								
16	3	18	3	48									43	2	15	7	15

戦評

1 Q

望海④藤田⑤尾上⑦フレミング⑧長谷川⑨中内、報徳⑧澤山⑫藤原⑬東⑮吉川⑯アマダスンでスタート。両者ハーフコートディフェンスで激しいプレッシャーをかける。報徳⑧澤山のポストプレーで先取点を決める。すぐさま、望海⑤尾上の3Pが決まる。報徳⑯アマダスンのドライブで連続得点を決める。望海も⑨中内が積極的に1対1をしかけ、得点を重ねる。報徳は速攻から、望海⑩坂本が3Pを決め、お互いに得点を取り合う。再び望海⑨中内がレイアップを決め、点差が広がる。望海のディフェンスの激しさが増し、報徳のシュートがなかなか決まらない。その後望海⑦フレミングのフローターシュートが決まり、9点差になる。報徳⑧澤山の3P、⑮吉川がリバウンドからリング下シュートを決め6点差につめるも、1Qは21－15で望海がリードした。

2 Q

望海⑩坂本がフリースローで決めた後、お互いに点が決まらない時間が続く。残分6分20秒で報徳がタイムアウト。望海④藤田がス

ティールから、速攻で2点決める。その後、報徳⑩アマダスンの3Pに対するファールでスリーシュートを獲得し、3本とも決める。望海は強度の高いディフェンスから、⑨中内が速攻を決める。報徳はターンオーバーがあり、なかなかリズムに乗れない時間帯が続く。残分2分34秒で報徳は2回目のタイムアウト。その後、報徳⑫藤原のリバウンドからシュートを決めるも、すぐさま望海⑤尾上のフローターシュートを決める。報徳⑦古村がリバウンドからシュートを決め、その後もオフェンスリバウンドを何度も奪う。お互いに得点を取り合い、前半を30－24望海がリードで終了。

3 Q

報徳はボールを回して相手を崩そうとする。後半の最初の点は報徳⑫藤原のリング下シュート。また、報徳⑮吉川のジャンプシュートが決まり、2点差に詰めよる。望海のシュートがなかなか決まらず、報徳が確実にリバウンドをとり、リズムを作る。報徳⑫藤原のレイアップが決まり同点となる。報徳がオフェンスリバウンドをとり、オフェンスの時間が長くなる。一方で、望海は5分間得点を決められない。望海は終盤、リバウンドから速攻を決める。また、望海④藤田のドライブが決まり、4点差となったところで、報徳がタイムアウト。報徳⑯アマダスンがフリースローを2本決め、34－32で望海がリードも、報徳が点差を縮める。

4 Q

4Q開始、お互いにシュートチャンスを作るも、決めることができない。報徳⑮吉川がオフェンスリバウンドをとり、⑯アマダスンにつなぎ、フリースローを獲得する。その後、速攻から報徳⑬東が3Pを決め、逆転に成功する。望海はすかさず、タイムアウト。望海⑤尾上がレイアップを決め、同点。望海⑦フレミングのドライブで再び望海リード。その後、お互い厳しいディフェンスの前に得点を決められない。望海⑨中内が得点を決め均衡を破るも、報徳⑯アマダスンが決め返す。報徳がディフェンスでダブルチームをしかけるも、望海はリング下までパスをつなぎ、3点差にする。また、望海⑩坂本がスティールから速攻を決め5点差。すかさず、報徳はタイムアウト。報徳はセットプレーで⑮吉川がリング下シュートを決めるが、望海⑤尾上の3Pが決まり6点差になる。最後までお互いにボールマンにプレッシャーをかけ続け、48－43で望海が優勝した。

女 子

決 勝

鹿島 56〔18－17・13－11〕53 百合学院

鹿 島										百合学院											
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則								
1	3	4		11	藤田 弓楽	4	4	速水 純里	12		6		1								
3	2	7		16	西川 友蘭	5	5	福井菜々恵	2		1		2								
4		1		2	長谷坂美衣	6	6	池田 絆	0												
2	1	7	1	18	重住 杏	7	7	足立 愛夏	5		2	1	1								
				—	宮田萌々子	8	8	石山 紗衣	19		8	3	3								
		3	1	9	今井 莓	9	9	長島 帆花	—												
				—	有江 乃愛	10	10	片山菜々子	2		1										
				—	木村 叶羽	11	11	西本 直央	0				2								
				—	坂田 胡桃	12	12	佐藤 葵月	—												
				—	杉田莉彩奏	13	13	山本有珠希	13	1	5		3								
				—	黒木みなみ	14	14	森 涼風	—												
				—	三輪 楓	15	15	笹森 彩花	—												
				—	立巳優里菜	16	16	松岡ひまわり	—												
								17 三木 詩月	—												
								18 塩見 朱里	—												
10	6	22	2	56													53	1	23	4	12

戦評

百合④速水⑧石山⑩片山⑪西本⑬山本 鹿島④藤田⑤西川⑥長谷坂⑦重住⑨今井

1Q。百合⑧石山の先制点からゲームが動き出す。鹿島はスティールからのドライブ、⑦重住の1対1、⑨今井のポストプレーで得点を重ねる。対する百合は、⑧石山を中心としたインサイドでの得点、鹿島は、堅いディフェンスから速攻へと持ち込み加点し、さらにミドルシュートを確実に決めていく。1Q終了で17対18で鹿島がわずかにリードする。

2Q。百合は④速水のドライブから攻撃を続けていく。対する鹿島は⑤西川⑨今井のインサイド、逆サイドからの飛び込みなどのチームオフェンスが光り、リードを許さない。百合は果敢にドライブを狙うも、鹿島のディフェンスにシュートを阻まれる。対する鹿島は、こぼれたボールから速攻を狙う。1Q同様、激しい攻防が見られ、28対31で鹿島がリードを広げる。

3Q。両者とも、1対1を狙うも激しいディフェンスで得点できない。一進一退の攻防が続くも、得点が動く。鹿島のドライブからのあわせで、⑦重住の3Pが決まると、立て続けに、鹿島⑨今井④藤田のゴール下が決まる。百合もドライブから糸口をつかもうとするが、得点につながらない。鹿島が11点リードのタイミングで百合がタイムアウト。タイムアウト後、百合⑧石山のリバウンドシュートが決まる。百合はメンバー交代をし⑤福井のドライブ、⑧石山への縦パス、④速水の鋭いドライブの連続得点で差を縮め、36対42。鹿島は、巧みにスペースを作り、1対1を仕掛けファウルを誘う。3Q終了、38対43で鹿島のリードで最終Qへ

4Q。開始早々、百合⑬山本のジャンプシュートが決まる。対する鹿島はセットオフェンスから、コートを広く使ったバスケットを展開し、シュートチャンスをうかがう。百合はリバウンドから、果敢にゴールを狙い④速水のジャンプシュート、⑬山本の3Pが立て続けに決まり、1点差に詰め寄ると鹿島がタイムアウト。タイムアウト後、鹿島⑦重住のミドルシュート、④藤田の1対1で、リード

を許さない。5点差で負けている百合がタイムアウト。タイムアウト後、百合④速水の1対1、⑩片山の高さを生かしたポストプレーで応戦する。対する鹿島⑦重住のコーナーからのシュートを確実に決め、50対54。両者とも、こぼれたボールに必死にくらいつき、相手に流れを渡さない。鹿島のオフェンスリバウンドを⑤西川が確実に決め、51対56。百合も必死にシュートを打つが、追いつくことはできず、百合学院53対56鹿島で決着した。鹿島3年ぶり3回目の優勝を飾った。決して最後まであきらめずボールを追いかけるプレーは、観客に感動を与え、県大会の決勝にふさわしい好ゲームであった。





未来を見据えた
土地活用・マンション経営ができるのは
TEAM SHINWA
にお任せください!!



(ルネスイ法特許権利会社(株)エスアイビルズ調べ)



さあ、どんな未来にする?

土地活用のプロフェッショナル、**信和**があなたの未来のお手伝いを致します。

マンションオーナーの夢を叶えます。

事前準備は大切、何度も何度も丁寧に! 立地調査、資金計画サポート
明治25年創業。豊富な経験と安心の実績 ルネスイ法の快適、安全住宅
入居率95%以上の実績 ◎入居者・マンション管理と未来シュミレーション
マンション一棟販売 ▶ ご提案するのは TEAM SHINWA の自社開発物件。だから、安心。



優良物件
多数保有

想像以上
の提案力



信和グループ

お電話
から

0120-567-169

受付時間/9:00~18:00

本社・大阪市中央区南船場3-18-11 SRビル長瀬

WEB
から

信和建設株式会社
www.shinwakensetsu.com

信和不動産株式会社
shinwa-fudousan.co.jp

創業
35年
合宿の老舗

プロが目的に あわせてご提案

合宿

貸切バス
手配

大会運営

バスケットボール応援

フェニックス観光は学生バスケットボール
チームを応援しています!

遠征

大学クラブの遠征
中・高生クラブの遠征

会議・研修

林間学校
修学旅行

UNIV.大会

univ-network.com

国内・海外
個人旅行

卒業旅行



■本社
東京・新宿
■営業所
広島/京都/つくば/
仙台/金沢/長野/山梨

フェニックス観光

フェニックス観光株式会社

〒600-8009 京都府京都市下京区四條通室町東入函谷餅町アーバンネット四條烏丸ビル6階
TEL:075-279-4253 FAX:03-3366-3200

18
01
20

すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ

